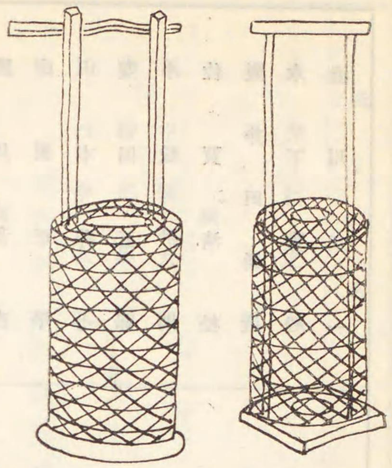
提燈の創始は詳かでないが、後堀河天皇の御宇（約七百年前）西山の桂海律師が、三井寺の稚兒梅若を戀ひて同寺の或る坊に隱れゐたるを梅若その坊へ忍び行かんとて、童に魚腦の提燈に螢を入れて點じたるを持たせ、之を紗窓の軒に懸けて書院の戸を叩きたる由、秋夜長物語にあり、その後古書に桃燈と稱する籠提燈の名見え、豐臣秀吉の時上下を藤葛にて編みたる箱提燈、又慶長年間に板に代へたる今の箱提燈が製造さるゝに至つたと云はれ、本邦及び大阪に於けるその起源は、餘程以前に發せられたるものゝ如くである。

（註）日本百科大辭典による。



第十三圖　籠燈提

而して最初の製品は凡て平骨で一本掛と稱して一本づゝを圓く輪の如くにし型に篏めて作り、又圖案の如きも手先で一個づゝ書いてゐたものであつた。然るに明治初年に至つてから木版紙型を應用して圖案を書くやうになり多少製造法は進歩し、明治十五年頃には米國方面へ輸出を見るに至つた。

明治三十四、五年には六尺乃至八尺の丸竹を細く割り螺旋狀に卷いた平骨又間もなく十五尺位の丸竹を割つて丸く細くした丸骨が製造され、從來よりも生産能率をよくし、降つて大正十五年には從來の手刷法を改めて石版刷となし色彩が惡く、雨に逢ひ容易に色が剝落する缺點を除き、又昭和三年には本市の小松商店は俗にマニラ紙と稱する原紙

を製紙會社に委託し提燈用として抄造し、從來使用せる美濃紙の漉目關係にて縱强くして横弱く、奉祀用提燈の如き長さの三尺もあるものは耐久力をよくするため、繼ぎ合せなくてはならぬ不便があつたのを改め、斯くして提燈は質に於ても價格に於ても面目を一新するに至つた。而して當初の平骨の一本掛及び一時需要の盛大であつた平骨を卷いた提燈は漸次數を減じ、就中後者は殆んど跡を絕ち、現在は安物には凡て丸骨の卷ものが使用さるゝやうになつた。

第二節　生産狀況

（一）製造戸數並に職工數

本品は火袋、側、金具の專業者によつて部分的に製造せしものを、卸商又は小賣商が適宜に仕立てゝ完成品となすもので、之等部分品は夫々獨立したる製品なるを以て、製造戸數は即ち叙上の三分業者の戸數である。

（イ）火袋製造戸數及び職工數　平骨（割骨）と丸骨（卷骨）とに分れ、平骨（普通地ものと云ふ）は更に丸濱、箱中、その他の地ものに細別せらる。戸數は大阪市内に丸骨は約十戸、平骨は十五、六戸を算し、平骨の丸濱と丸骨とは兼ね行ふものが少くなく、何れも多くは天滿方面に散在してゐる。

職工數は平骨、丸骨製造者共に大なるものは四、五人の職工を有するものもあるが、かゝるものは極めて少く、家族と共に操作するものが大部分であるから全體で百人内外である。

（ロ）側製造戸數及び職工數　側製造者はヘギ製造者、ツキ製造者とに分れる。ヘギ製造者を木地屋と云ひ、大阪市

内に十五、六戸、ツキ製造者を口側屋と稱し、同じく二、三戸にして何れも職工一、二人と共に從事してゐる。

(八)金具製造戸數及び職工數　金具製造者は、(一)馬上提燈用の立棒の如き火造品と、(二)弓張提燈の手、その他附屬金具等の板物品と、(三)鎖とに分れ、(一)と(二)とは各約二、三戸、(三)は一、二戸位ある。何れも職工二、三人と共に從事してゐるが、(一)と(二)とは兼ね行ふものが少くない。

斯業の盛況時である明治三十年前後には大阪市内に火袋製造者二百戸内外、從業者は一千人以上、又側製造者も五六十戸を有してゐたが、平骨ものを使用せぬ傾向が近年著しくなつた爲め、遂に現在の如き狀況に立ち至つたのである。

(二)製品の種類と生産額

提燈の種類は骨の形狀から見ると平骨と丸骨との二種にして、大さは徑九尺乃至十尺位より小は一寸位に至る數百種に上るが、一般通りものとしては大阪にては六長、尺二長、尺長、赤田、力車、玉地等である。

以上各部分品の生産額は當業者の稱するところを綜合して見ると、大阪市内で最近一ヶ年に約二十四萬圓を示し、之を種類別に見ると左の如くである。

	數量	價額
火袋(平骨、丸骨共に)	一〇五萬個	一五七、五〇〇圓　平均一個十五錢
口側(上下一組)	六〇萬枚	一、五〇〇　全千枚二圓五十錢
外側(仝　　)	二六萬個	八二、八〇〇　仝百個六圓
金具		六、〇〇〇
計		二四七、八〇〇

備考　以上口側の生産額は部分品として他府縣へ移出するもゝみで、全體の生産額は前記火袋の上下に使用する分を合算せる即ち百六十五萬枚である。

而して右の部分品を大阪市内にて何程仕立て提燈に完成するか、當業者の見當全く不明であるが、火袋として約三割を他府縣に移出さるものとし、算出するとその價額は小賣値段にて二十二萬圓位である。

(三)原料

骨は平骨と丸骨とによつて産地を異にし、平骨は多く山城産の竹を大阪市内の割骨屋又は貼屋(火袋製造者)が購入し骨に仕上げるが、丸骨は産地で仕上げたものを購入し、その産地は支那、名古屋(金城)、九州(福岡)等である。丸骨は大正七、八年頃までは、凡て内地産であつたが、爾來支那産は節が低く仕立てゝから見榮えがよいのみでなく、大さが一定し且つ價格も低廉であるから現在は殆んど之を使用し、内地産は補充に止まるやうになつた。

支那の荷造は、百本づゝを小束とし、更に小束十又は十五を大束とし、二萬本又は三萬本を籠に入れ、ドンゴロスに包んである。一本の長さは一丈五尺が定尺となつてゐる。

原紙は美濃紙、石州紙、マニラ紙等で、上物には美濃紙、安物にはマニラ紙が使用せらる。

側はヘギとツキとで、ヘギは外側、ツキは口側として用ひらるゝが、安物提燈にはヘギを用ひず、ツキが外側に代用さることもある。共に市内の專業者によつて製造され、用材は從來は檜が大部分であつたが、現在は上物以外は凡て北海道産松である。

金具の材料は鐵、眞鍮、鍼力で、種類には堀、芯、環、チラシ、キク、鎖等があるも、チラシ、キク、環は近時名古屋製品の使用が少くない。

(四) 生産工程

提燈は火袋、側、金具を專業者によつて製作し、仕立するのであるから、説明の便宜上之を火袋、側、金具の製作仕立、包裝に分つ。

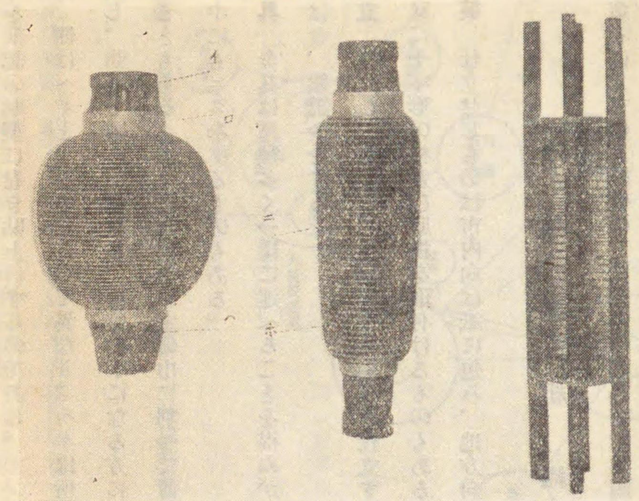
火袋 火袋は平骨と丸骨とによつて異なる。先づ平骨にあつては大體左の如くである。

(一)骨の製作仕上 (イ)一定の長さに丸竹を切斷して幾本かに荒截し、荒截せし者を更に約二十本位に細斷する細斷は根本から一寸位の個所に墨で印を附け、先は五分位細斷數だけ切れ目を入れ、次に拈(ヒネ)つて割る。尤も節は節越(フシコシ)と稱する器具で割る。之を骨割と稱し一日の能率は男工にて二千八百本(十三本骨二百個分及び一割の仕損じ)位である。

而して割つた骨は一本づゝを輪にし、合せ目を紙卷する。

(二)原紙の截斷加工 提燈の長さに應じて長方形に截斷するが、極く安物になると、原紙を ▭ 形に截斷して之を二枚 ⬭ 形に貼合せるものもある。提燈一個の紙數は四枚、六枚、八枚、十枚位である

第十四圖 提燈の型



原紙に圖案、文字を刷込むには一定の寸法に截斷し、木版手刷又は石版印刷の方法で行ふが、近年能率が上るのと色の厚薄が一定するのとで、石版印刷の方が漸次增加しつゝある。

(三)貼 斯くして骨と紙との貼合せを行ふ。貼は(イ)上下二個の駒に貼型を取付く、貼型は木製で外面に刻み印を付けてあり、一個の提燈に四枚、六枚八枚、十枚(多くは八枚)を必要とする。

(ロ)上下に口側を篏め、(ハ)貼型の刻み印の部分に骨を篏め、(ニ)貼型の數丈け糸を上から流し、或は纏ひ、(ホ)骨に糊を附け紙を貼り、(ヘ)乾燥するのを待つて上下の駒を抜き貼型をはずして完成する。

次に丸骨にあつては針金のやうに細く仕上けてあ

る骨を前記の貼型に卷き貼上げするのである。

側 側はヘギとツキとによつて異なり、ヘギは所定の寸法に截斷した木材を鉋で一定の幅に割り、鉋で仕上げた後湯煮し、曲機で圓めて糊付し、提燈の下になる方には更に底板を入れ、又は弓張用の如きは、圓めたものを三枚位糊合すことともある。ツキは木材を一定の巾に割つて薄く搔いた後、曲げて糊付する。而してヘギの外面には漆を、又ツキの中にもニスを塗るものもある。

金具 金具は種類多く一樣に述べることを得ぬが、火造品は火造し板物は打拔又は截斷等により製品を完成し、上物には金、銀鍍金をする。

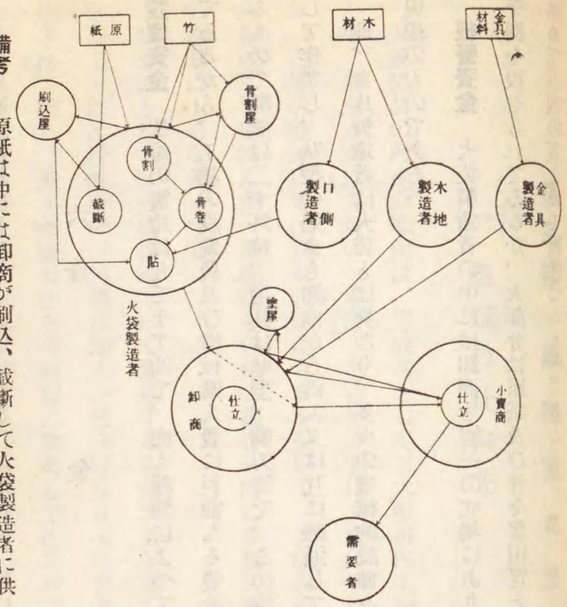
仕立 斯くして火袋に、外側、金具を付け仕立するが、丸濱提燈の如き安物は、貼つてから口側の外部に艶紙を貼り、底に十字形の枠及び底板を取付けるものもある。

包裝 仕立せしものは市内向は紙に包み、地方向は所定の數を括つて葭簀包又は木箱入とする。

(五) 生産組織

製造者は凡て個人經營の下にある。而して作業關係は極めて複雜にして仔細に究めると、製造の主體は果して那邊にあるか判然と區別し得ぬものがある。今、之を平骨(地もの)提燈について圖示すると左の如くである。

第十五圖　印入地もの提燈生産組織



備考 原紙は中には卸商が刷込、截斷して火袋製造者に供給するものもある。

(一)提燈卸商　大阪市内に十數戸を有し、多くは和傘の販賣を兼ぬ。部分品を購入してそのまゝ又は仕立てゝ販賣し、中には外側に塗を施し、又原紙を購入し、模樣、文字を刷込み火袋製造者に供給し、恰も製造者と同樣の立場にあるものもある。而して卸商の仕立する場合は數の多きもの、又は同一の品質を揃へなくてはならぬものが多い。

(二)提燈小賣商　小賣商は凡て和傘の小賣をも兼ね、火袋、外側、金具を各個に購入し仕立てゝ製品を完成し、或は完成品を購入し、印を入れて需要者に供給する。その數は大阪市内に約八百戸程ある。

(三)火袋製造者(貼屋)　火袋製造者は平骨にあつては紙の截斷、骨割、骨卷、貼作業を、丸骨にあつては原紙の截斷、貼を行ふが、中には平骨は作業の一部を附近の内職に委託するもの、或は注文により自己の製造した火袋に、金具を附け仕立てゝ卸商に供給するものもある。而して材料の中、竹は凡て自ら購入するが、原紙は卸商よ

り供給を受くることもある。

(四)側及び金具製造者　共に材料を自ら購入して製造するもので、側は之を專業とするも、金具は他の金屬品の製造を兼ねてゐる。

この外原紙に模樣及び文字の刷込みを行ふ刷込屋、側に塗を行ふ塗屋、骨削を行ふ骨削屋等の專業者がある。

(六)資　金

設備資金　提燈の製造は凡て手工的で、而も種類によつて製造者を異にし、且つ各製造者の製造品種は數種に限られてゐるから、工場の設備費及び機械購入費に巨額なる資金を投ぜずして作業をなすことを得る。即ち胴製造者は大なるもので職場は二十坪位、道具は貼型、剃刀等で、この資金は僅かに一、二千圓、小なるものは住宅の二階を職場として作業し、貼型の如きも卸商から借入又は互に融通して作業するものもある。

側、金具製造者は火袋とは異なり、多少の機械的設備を有するも、之に投ずる資金は大したものでなく、何れも小規模のものである。

經營資金　火袋製造者の中には卸商と同一の立場にあり、原紙を見越にて購入し、製品も貯藏し經營資金は二、三千圓を投ぜられてゐるが、大部分は原紙及び骨を當用買として製造し、直ちに現金を得て原料代、その他を支拂ひ、極めて小額の資金にて經營せるものである。

第三節　販路並に取引

(一)提燈の仕向先

大阪製品の內地向販路は、完成品としては大阪市內と地方とは相半ばしてゐる。地方への仕向先は、大阪以西を主とし、東京方面は丸骨の一本掛、名古屋方面は丸骨の卷骨、京都方面は平骨の一本掛で骨と骨との間を糸で纏ふてあり、之等の地方にては割安に生產さるゝを以て、大阪以東には殆んど仕向けられぬ。而して大阪にては常時は大阪製品を以て事足れるが、奉祝時その他の場合一時に多數の製品が需要さるゝときは、名古屋その他の製品の移入が相當の數量に上るを例とする。

部分品としては火袋は地方にて製造するものが近年著しく增加し、又口側も簡單に操作し得るを以て、常時は移出することは比較的少い。外側は地方へ仕向けらるもの全產額の約七割を占め、福岡縣福島、京都、名古屋地方にて製造されて居り、夫々產地及びその附近に供給してゐるから、大阪製品は勢ひこの以外の方面に移出せられ、大阪及び大阪以西を主たる販路としてゐる。

金具は外側に附屬し又はそのまゝで仕向けられ、仕向先は火袋及び外側と大體同一である。

輸出向は凡て完成品として輸出され、明治三十年頃には米國に多額の輸出があり、大阪市內にて之を專業とするものも少くなかつたが、爾來需要は漸減し、殊に大阪は加工費が低廉でない爲め、名古屋その他に奪はれ、現在は大阪

製品にして輸出さるゝものは少數となつた。今、參考の爲め最近四ヶ年間の大阪、神戸兩港の輸出額を示すと左の如くである。

大阪、神戸兩港提燈國別輸出額

（大藏省調査）

國別	昭和三年 數量	昭和三年 價額	昭和四年 數量	昭和四年 價額	昭和五年 數量	昭和五年 價額	昭和六年 數量	昭和六年 價額
滿洲								
中華民國	三、三〇五 打	六、二〇五 円	九五五 打	二、二六九 円	八四一 二三三打	一、五九八 五八四円	六四六 一三〇打	一、三一〇 三一九円
關東州	七、一一四	八、七〇八	四、七一六	四、三五八	九四六	二、八〇三	一、二九〇	三、二〇七
香港	二〇	三九	四四	一四八	七六	二〇五	五三	一三七
英領印度	五、〇五一	四、三三七	一三、〇六五	四、八三三	六五〇	一、八六七	二八四	五七二
海峽殖民地	一、七六二	一、五四七	一、〇一七	一、七八六	一、一六三	一、九四七	七七四	八八七
蘭領東印度	一、九五七	二、三九一	一、九五〇	二、八五七	一、一九七	一、六七六	六一四	九九八
比律賓	一、一七〇	二、一八二	二、二三七	二、六二〇	五八六	六九二	一、六四三	一、一七〇
暹羅	—	—	一、九六五	一、三七九	一、三六六	一、八五一	一三一	三七七
英吉利	一七、五五三	一五、一二〇	二五、八三七	一八、二七二	一二、一五三	一一、一二〇	四、四一八	四、八四七
佛蘭西	二、六五六	三、三三三	二、六四三	六、一八五	一、二六六	二、九一八	八二四	四三三
獨逸	二、〇四二	三、七一七	三、九五八	七、〇六八	三、六五九	六、一一〇	四三三	五六八
丁抹	一、一〇五	一、七八九	二、一六八	三、四五一	一、二五七	一、七八五	七六七	九〇二
米國	九、三四七	一六、一六三	一七、二五三	二二、五四八	一二、三三五	一九、二二五	一一、九六六	一六、一二五
埃及	四九	一四四	五七八	一、一二五	一三八	四八四	九	四二
濠洲	三、四三四	三、一九八	二、〇八一	三、五二七	三六四	七二七	三五二	五六〇
布哇	一七、一二九	一七、一三六	六、四六六	一二、五六六	九、九五九	一四、三三三	八、五四五	一七、三一〇
其他	八、三〇二	一五、〇七一	一七、二六九	一三、九九七	三、九五一	八、五一〇	四、三六七	六、〇九七
計	八一、九九六	一〇一、二六〇	一〇三、一〇三	一〇八、九七九	五一、二四〇	七八、四三五	三七、二三六	五七、六四四

（二）需要時期

提燈の需要時期は、奉祝その他臨時に需要されるときは別とし、普通は三月から五、六月までと九月及び十月との二期にして、岐阜提燈の如き特種ものは八月に賣行がよい。

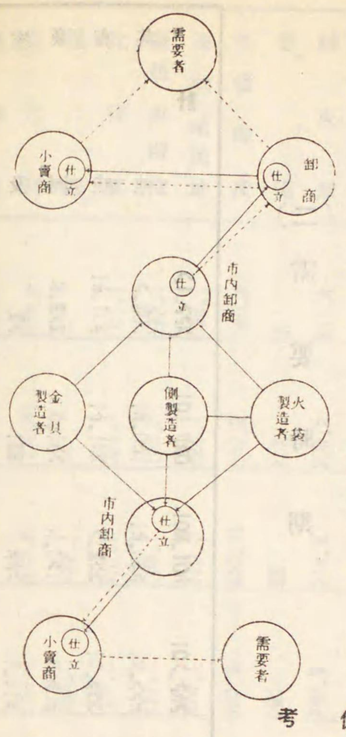
而して商店、裝飾業者等の大口需要者向は十二月から翌年二月頃の比較的閑散時に受注し、三、四月頃までに製造するのが例である。

（三）取引の經路とその方法

取引經路は完成品としては中には市内、地方共に火袋製造者が仕立てゝ卸商に賣込むもの又市内の卸商が廣告用その他大口需要者に對し直接賣込むもの等あるが、一般には市内は卸商を經て小賣商に、地方は市内及び地方の卸商を經て賣込まれ、又部分品としては性質上直接需要者に仕向けらるゝものはないが、その他は前記完成品と殆ど同一である。而して本品は市内地方向何れも殆んど製造者が直接に小賣商と取引することは極めて稀である。今、取引經路を完成品と部分品とに分ちて見ると左の如くである。

第十六圖　提燈取引經路（一般の場合）

地方取引　　市内取引



卸商の仕入は特種品を除く外は大體毎年の賣行狀況を參酌して見越によつてゐるが、近時交通機關の發達と不況とによりその量は極めて少くなつた。賣込は他の紙製品と何等異なることなきも、本品は見本によることは比較的少い。

取引の單位は完成品は一個又は百個、口側は千枚、外側は百個、金具は百個又は千個を標準としてゐる。代金の決濟は市内、地方向共に和傘と大體同一である。

第四節　斯業の將來

大阪在來の平骨ものは特殊品を除いては、丸骨ものゝ進出と時世の要求とにより近年需要は著しく減少しつゝあり之に關し或る古老の談を聞くに、往時電燈の未だ今日の如く普及せぬ時代の濱仲仕は未明に荷物を陸揚すると持つてゐる提燈を凡て船頭に與へ、又人力車は年二回の檢査には必ず新しきものを取替へたので、この方面に使用さるゝ提燈は素破らしく、需要季節には一日に數千個を製造し、尙且つ應じ得ず常に三ヶ月先に納品する注文を有してゐたが近時人力車、荷車は自動車となり、歩行者は自轉車、電車を利用し、荷揚げには電燈が用ひられ、現在では一月僅かに二、三百個、而もそれでも在庫品となると云ふ有樣で漸次不振に陷つてゐる。

併し丸骨ものは近時裝飾用としての用途が增大し、殊に大阪は加工賃高く小形品（徑一尺位以下のもの）は名古屋製品に比し價格の點に於て不利の立場にあるが、大形品は名古屋より輸送すると運賃が嵩み、且つ大阪の製造者は加工に慣れてゐる爲め割安に生產し得る地位にあり、經濟界の好否により賣行に多少の增減はあるにしても、全般としては益々有望である。

第五節　同業者團體と提燈卸商

（一）同業者團體

斯業に關する同業者團體には卸商に屬するものは大阪提燈問屋組合（豐明會）あり、又外側（ヘギ）製造者間には木地組合あり、何れも當業者の申合せにかゝるものである。

大阪提燈問屋組合　大阪市に於ける提燈卸商の團體にして、明治三十九年三月の設立にかゝるものである。價格の協定、木地屋、貼屋工賃の協定及び相互の親睦を圖るを目的とし、創立當時は組合員十七名を有したが、爾後、會規行はれず一時中絶の狀態にあつた。然るに大正二年に入るや當業者間にその必要を認められ、再び復活し現在に及んだもので、輪番幹事制とし、組合員十四名を有する。

提燈問屋組合は外側の不統一にして、互に融通をなし得ず、不經濟であるのを遺憾とし、木地製造者と相圖り、寸法の標準規定を設け、業界に少からぬ貢獻を爲しつゝある。今、その標準規定を見ると左の如くである。

外側標準寸法

昭和六年十月三日制定

品名	上側 直徑サ	上側 高サ	下側 直徑サ	下側 高サ
尺六側	七寸	二寸三分	五寸八分	二寸一分
中尺六側	七寸	二寸	五寸八分半	一寸八分半
尺六半側	七寸	一寸七分	五寸八分	一寸六分
小六側	五寸八分	二寸二分	五寸二分	二寸
小丸側	五寸二分	二寸一分	四寸三分	一寸九分
八ブラ側	四寸	一寸七分	三寸五分	一寸五分半
七ブラ側	三寸五分	一寸七分	三寸	一寸五分半
六ブラ側	三寸	一寸七分	二寸五分	一寸五分半
八指側	四寸	一寸七分	四寸	二寸
七指側	三寸五分	一寸七分	三寸五分	二寸
六指側	三寸	一寸六分	三寸	一寸九分

木地組合は現在約十五戸位ある。

（二）大阪提燈卸商

（豐明會員、イロハ順）

氏名	住所	電話番號
猪谷太七郎	南區東清水町六七	二七三五
戸村金太郎	港區辨天町三ノ三五	
河合久吉	北區龍田町一二	北四七五六
川崎宇三郎	南區北炭屋町一四	南二七二四
武村米造	浪速區敷津町二ノ一〇	戎三二一〇
上柳穆	北河内郡守口町七六六	
宇野善兵衛	東區内久寶寺町二ノ三二	東二〇七六

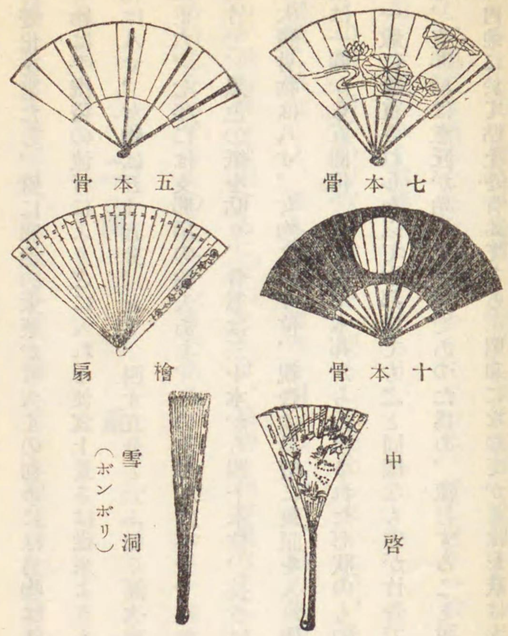
黒川房吉	南區順慶町四ノ六九	船場一一二一
山田乙吉	北區金屋町二ノ八	堀川九八一
小松伊助	北區源藏町二六	北二六一三 二七八六
小松四郎	南區大寶寺町中之町二九	南三七五五
小西重兵衛	南區鰻谷西之町二二	南四一九七
木村孝	北區與力町二ノ九	堀川一四八九
鈴木吉太郎	北區北同心町一ノ二二	堀川一二七九

第十二章　扇子及團扇

第一節　沿革

(一)　扇子

扇子は蝙蝠の羽に形取り作つたのが起源で、もと儀式用とし、四季共に愛用され、殊に女は顔を隠すに使用し、又物を贈るとき之に載せてゐたとのことである。而して最初は檜扇(第十七圖參照)と云ひ、マラヽギ(外國產)と云ふ樹を薄く剝ぎ數枚を合せ、紙捻を要としてゐたと云はれてゐるが之を製造してゐた時代は全く詳かでなく、恐らく八、



第十七圖　扇子の種類一部　(檜扇、五本骨、七本骨、十本骨は古代のもの)

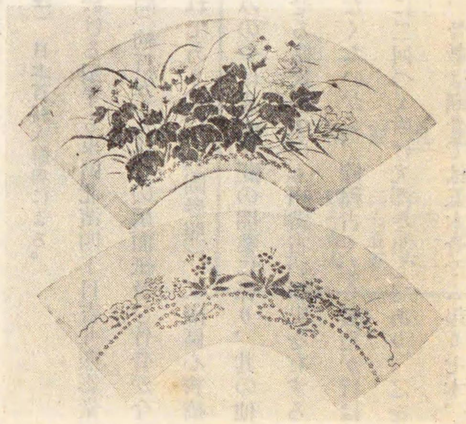
九百年を經過してゐるであらう。

昔平敦盛の室夫の死去後尼となり新善光寺(御影堂)の傍らに蓮華院を建立し、住ぜし時に製造せしが扇子の嚆矢なりと傳へられ、之れ即ち紙貼仕立扇子の起源を示せるものであらう。

(註)　日本百科大辭典による。

大阪に於ける扇子も東區北濱四丁目吉井照影堂に天明年間(約百五十年前)の扇面紙及び竹骨が今尙藏せられてあり(第十八圖參照)、又南區心齊橋筋一丁目みのやは嘉永年間の開業に係り、其の他現在廢業せる諸氏の中にも相當古い歷史を有するものが少なくないから、餘程古くから製造が行はれてゐたことは否み難い。最初に使用した紙は「ふくさ」と稱し、艶糊を兩面に二回づゝ附け光澤を出してあり、之を一名四重地(ヨエヂ)とも云ひ、凡て岐阜から產出してゐた。骨は細骨と平骨とがあり、骨數は細骨では五本骨から起り七本、八本、十本骨(第十七圖參照)、更に十二本、十三本となり、平骨では十五本、十八本、二十本等があつた。

明治初年頃には男物は多く帽子の代用として用ひられてゐた關係で、二十五本骨の長さ一尺五分、一尺一寸位のものもあり、又名古屋扇と稱し、片面に柿澁を引いた二枚の原紙の間に小骨を入れ貼合せたものが流行し、大阪に於ても盛んに製造された。爾來幾多の星霜を經るに伴ひ、形狀に多少の變化を來たし、殊に明治の末葉から大正の初めには男物は洋服の普及又女物は手携袋の流行により之に入れる便宜上長さは從來よりも短かく、男物は八寸、女物は五寸五分、五寸、四寸五分と云ふ如く漸次短形となり又大正六、七年には支那扇の輸入あり、この支那扇は平骨で親骨小骨共に棕梠竹で、黑色の紙を貼り、骨數は三十本から四十本位、長さは一定せぬが、大體男物は八寸、女物は六寸位、親骨は黑檀に象眼を入れ龜甲貼とし價格は一圓から五圓位、之は嘗て本邦から輸出された形狀のものではあるが、一般に珍重されしを以て本邦にても之と同樣なものが竹骨で製造さるゝやうになり、この賣行は漸次增加した。併し、支那扇は意匠が殆んど一樣であつた爲め、流行すること暫時にして輸入は絶ち現在は白檀、竹等の骨を輸入し本邦內地に於て貼上を行ふてゐる。昭和になつてからは形狀は大體變化なきも、從來の如き木版刷の原畫の揮毫者に重きを置くものは漸く癈れ、色彩や、圖案式のものが重用されるやうになつた。而して女物は昭和の初め頃から絹張



第十八圖　扇面紙（天明年間のもの）

扇子が相當の需要があり、昭和六年頃までは之が全盛時代で、一本五十錢から二圓位のものもあつたが、絹製はよく破損すること及び價格が當初よりも著しく低落し一般的となつた爲め、淑女向として尊重され本品は却つて賣行を減少し、現在は殆んど影を潛めるやうになつた。併し近年一般に短地のものが流行し始め、この後二、三年はこの形狀の扇子が最もよく需要さるゝであらう。

斯くの如く扇子の形狀は數年を一期とし、變化し來つたが、製造方法は紙折に一枚の金屬板を用ひしものが、澁引の原型紙に挾むこと、要入穴明に舞錐を用ひしものが、動力掛の穿孔機に代り、又骨の磨きに木賊、椋樹の葉を用ひしものが羽布機を使用するに至つた外は、最初と何等異なることなく依然として手工によつて行はれてゐるのは全く斯業の特色を示せるものと云ふべきである。

（二）團扇

本邦に於ける團扇は、最初支那から輸入せしものを模して製造し、輸入及び製造開始時期は詳かでないが、彼の奈良朝時代には扇と稱し、現在の團扇が既に存在してゐたと云はれてゐるから、扇子よりも餘程以前に製造行はれしものゝ如くである。最初は各藩の家中並に神社の社人の內職によつて製造さるゝもの多く、これに關しては種々の傳說が殘されてゐる。

大阪に於ては昔永祿の頃武田家の謀臣山本勘助晴幸と云へる人、中河內郡小山村に來り姓名を淺野文吾と稱し、團扇

を製造したのが嚆矢と云はれてゐる。今は淺野の家は絶え果てたが、その遠緣に當たる中野茂八郎と云ふ人が、この由緒ある團扇の製造に從事してゐる。此團扇は柄を座上に立つるも倒れず十數年の久しきに耐ふべき精巧品で、最上のものは一本五圓、安物でも一圓位も値ひし、美術的で一般に使用さるゝものでない。一般に使用する團扇は、創始の時期何時頃なるかは不明なるも、明治初年頃は需要極めて少く微々として振はなかつたと云ふ。然るに明治十年前後から米國への輸出の途開け、南區順慶町三丁目の三橋由兵衛と云へる人は、之が輸出を專業とし、販路開拓の爲め、同國へ渡航せしこともあり、明治三十四、五年以降數年間は全盛時とも云ふべく、生糸、茶と相並んで重きをなし、明治四十年頃には大阪團扇會社が生れた程で、商店の廣告又は鐵道乘客用とし輸出は巨額に上つた。併し爾後好況時に粗製品の輸出されしと、同國にてボール紙にて製したる代用品が現はれしと相竢つて米國需要は漸次衰へ、又其他の國への輸出も少量となり、極めて不振に陷つたが、內地向は近來非常な發展を示し、單に日除け或は風を採るの具に供せらるゝのみであつた本品は、廣告用としての用途開け需要は著しく增大した。而して形狀は最初殆んど骨と柄とが其の丸柄團扇で、輸出も凡て之に限られてゐたが、この團扇は見榮えよろしきも骨の製作比較的困難にして、而も價格低廉ならざる爲め、歐洲大戰以來需要漸減し、現在では骨と柄とが共の平柄のものが大部分を占むるやうになつた

第二節　生産狀況

(一)　製造戶數並に職工數

扇子　大阪市の製造販賣戶數は、大阪扇子會に加盟せるもの三十戶、この外未加入ものが多少ある。同業者中には團扇、カレンダーを兼ぬるものが少くなく、之等は全體の約三割を占めてゐる。而して斯業は加工を專業者に委託する關係にて、兼業者以外には職工を有するものは全くない。

團扇　大阪市內の團扇製造販賣戶數は、大阪團扇商組合員四十三戶と之に加入せぬもの數戶ある。同業者は凡てカレンダーの販賣を、又中には團扇地紙、カレンダー日表、同臺紙、ポスター、扇子、引札等の製造を兼ぬるものがある。團扇地紙その他の製造を兼ぬるものは、相當の職工を有し、中には百人內外を有するものもあるが、貼その他の加工は、夫々專業者に委託せるもの多きを以て、製造販賣者の有する職工數は全體では割合に少である。今、參考の爲め大阪扇子會及び大阪團扇商組合員を區別に示すと左の如くである。

大阪扇子會及び大阪團扇商組合員數

行政區別	大阪扇子會員	大阪團扇商組合員	計
南區	一二人	一二人	二四人
東區	一二	九	二一
北區	二	九	一一

港區	一	四三	七三
西區	二	一	一
天王寺區	一	一	一
西淀川區		二	二
東成區		二	二
浪速區		一	二
住吉區		一	三
計	三〇	五	六

備考 當業者なき區は除く。

即ち大阪扇子會員は東區と南區とに、又大阪團扇商組合員は南區に最も多い。併し東區の三戸、西、港區の各一戸は兩者に屬してゐる。

（二）製品の種類と生産額

扇子 扇子の種類を骨の地質から見ると、小骨は凡て竹であるが、親骨は竹、黑柿、黑檀、黃揚、桑、牛骨、象牙、銀、合金、セルロイド、リス等の別あるも、總數の九割九分は竹製のものである。又小骨の數から見ると、十一本、（之を當業者は十一間骨と云ふ）、十五本、十八本、二十本、二十五本、三十本、三十五本、中には五十本位のものもあ

る。併し之は年によつて異なり一樣でないが、昭和七年には二十五本乃至三十本ものが多い。寸法は男持は、七寸、七寸五分、八寸、九寸、女持は六寸、六寸五分ものに殆んど一定し、骨の形狀は、仙洞、龜の尾、毛拔、塞尻（ヰイジリ）、須丸（スマル）大顏（オホガオ）、鎌足等があり、又扇子の種類には、中啓、雪洞、仕舞、常持等の別がある。生産額は一ヶ年約七十萬圓見當。

扇子の生産地は大阪、京都、名古屋を主とする。東京方面に多少あるも極上物で産額は多くない。名古屋は中等品以下、大阪、京都は中等品以上で、就中京都は古來より特種上物の産地として知られてゐる。

團扇 團扇は木製ヘギ、針金、竹骨の別があり、又竹製には骨と柄とが共のもの、又は柄を繼いだものに細別され柄の繼いだものを都團扇と云ふ。現在最も多く製造さるゝは竹製の共柄で、全體の七、八割を占む。

而して團扇には大さにより大形團扇、小櫻團扇、豆團扇等があり、又大形團扇には紙の切斷具合により玉子形或は滿月形その他に分れてゐる。骨數は中には百本位のものもあるが、普通四十本前後から七十本位である。生産額は一ヶ年約六十萬圓。

團扇は全國各地にて製造さるゝが、大阪、丸龜、京都、名古屋、東京等を生産地とし、就中大阪、丸龜が大部分を占めてゐる。

（三）原料

扇子 骨となるべき竹は、江州、山城、九州等から産出し、山城産は色が揃ひ、主に上物に使用されてゐる。而し

て骨は從來大阪在住の骨造屋が竹のまゝで購入し市内で加工してゐたが、近年は江州、京都地方にて副業的の加工業者が現はれ、要を入れたものゝ移入が著しく増加するに至つた。

紙は土佐、岐阜、越前から産出する。岐阜産は初め糊地とし凡て之によつてゐたが、現在は特種の扇子に、又越前産も質はよいが、價格が高いから上物の扇子に使用さるゝのみで大部分は土佐産である。土佐産は扇面紙として抄造されて居る。

團扇　大阪にて使用する團扇の竹骨は、大部分讃岐丸龜地方で製造されるものである。竹骨の産地としては松山、宇和島、山口、大分縣中津、熱田、千葉縣船型、岐阜、熊本縣來民等で、その中、七、八割は丸龜産である。

丸龜にて使用さるゝ竹は、餘程以前には伊豆半島から仕入てゐたとのことであるが、現在は宮崎縣、大分縣産を使用してゐる。都團扇の竹骨は、伏見地方から仕入れ、柄は伏見、三重縣上野及び津、宮崎縣産等である。

紙は竹永と稱する手漉紙と新竹永と稱する機械漉紙とで、手漉は上物團扇用とし、伊豫から産出し、機械漉は富士製紙、樺太工業會社製品で、六、七年以前から機械漉の紙が相當使用さるゝ傾向がある。

丸龜は古來より骨の主産地と知られ、産額は現在一ヶ年平均四千五百萬本、好況時には五千萬本を突破し、金額にして昭和七年七月頃の相場で先づ百二十萬圓内外ある。而して骨は全體の約三割は丸龜で消費され、殘金は骨のまゝで他府縣へ移出せられるが、丸龜で貼るものは一ヶ年千二百萬本、金額にして約三十四、五萬圓、之が全部需要者直接註文品なれば五十萬圓位あり、最近三、四年間は年々百萬本乃至百五十萬本位増加しつゝあるとのことである。

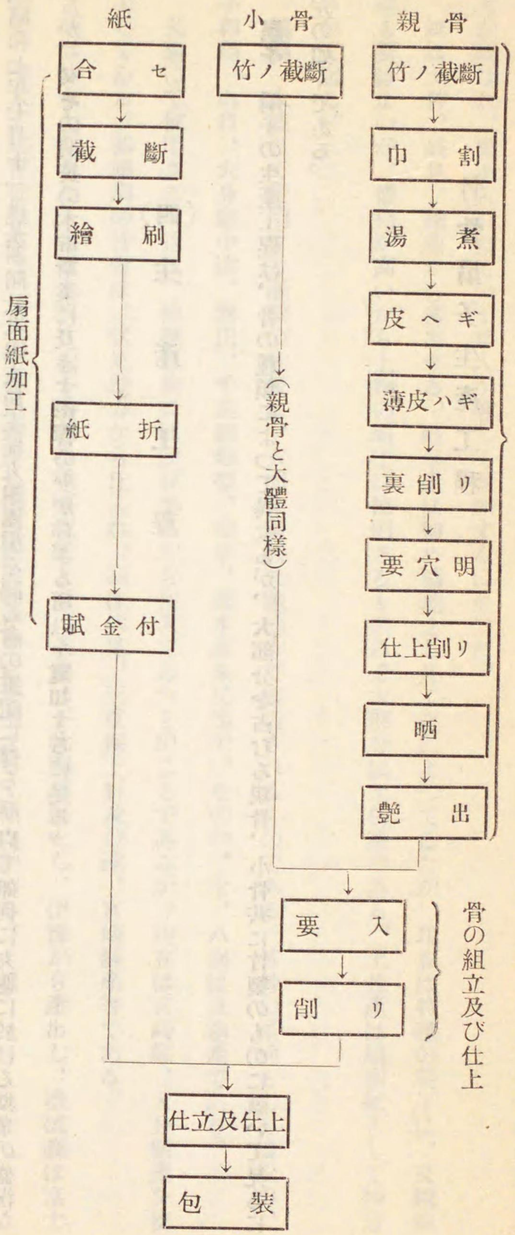
尚丸龜にては昭和六年十月三十日香川縣團扇工業組合設立せられ生産檢査をなしつゝあるが、同地の受驗團扇骨製造所は百九十七工場、家族の從業員千二百餘名、通ひ職工千七百五十餘名、家庭の副業としての從業者婦人、子供千八百餘名合計四千七百五十餘名、團扇の貼仕立てを主にする製造販賣者二十五戸、家族從業員百二十五名、通ひ男工六十名、女工四百五十名合計六百三十五名、兩者を合し實に五千三百八十五名の團扇工業從業者を有すると云ふ。(昭和七年七月十一日某新聞社丸龜支局主催丸龜團扇を語る會の筆記に據る)。以て如何に丸龜に於ける斯業の盛況なるか、又その消長の本市斯業に及ぼす影響の少からざる所以を窺知するに足る。

(四)　生　産　工　程

扇子　扇子の生産工程は、骨の種類によつて異なるが、大部分を占むる親骨、小骨共に竹製のものに就いて見るに左の如くである。

竹骨扇子生産工程

骨の製作



以下扇子の生産工程を、(一)骨の製作、(二)骨の組立及び仕上、(三)扇面紙の加工、(四)仕立及び仕上、(五)包裝とに區別して說明する。

(一)骨の製作　親骨は先づ(イ)扇子の長さに應じ竹の兩節を截斷し、(ロ)所定の巾に削り(ハ)湯煮してあくぬきし(ニ)皮をへいで扇子の骨となる皮の薄皮を剝ぎ、(ホ)一定の厚みとなるやうに裏を削り、(ヘ)要入の穴を明け、(ト)

五十本位要入の穴に竹ヒゴを通し臺の上に載せ包丁や鑿で見本の如き骨に仕上げ、次に小骨は親骨の如く皮をへいでから剪や庖丁で搔き上げて要入の穴を明け、かくして親、小骨共に冬季は一週間、夏季は一日位日光にて晒し、最後に木賊及び羽布にて磨き艶出する。一日の能率は三十本骨で扇子二十七、八本分を仕上げ得る。

骨の製作は凡て庖丁又は小刀等の刄物を用ひ、手先によつて操作するので、極めて熟練を要し、削方のよい程開閉の際に音がよく立ち、製品が優秀であると云はれてゐる。

(二)骨の組立仕上　親骨と小骨との要穴に鯨、護謨、牛骨、銀、アルミニユーム等の細斷された要を入れて骨を組立て、小骨の先を鉋又は小刀にて削る。要入は加熱した鐵製の要箸に挾んで行ふ。

(三)紙の加工　紙を三枚又は五枚を糊で合せ扇面紙となし、〈　〉形に截斷して繪、圖案、金銀箔を施す。この紙の合せ及び截斷したものを俗に繰地と云ふ。

之が終れば地の方にヘラ口を明け、濕布にて濕し、原型紙に挾んで折り方をつけ、乾燥して紙と紙との間に小骨を入れる穴を明け、四方を仕上斷し、而して賦金ものは天のみに先押をする。而して賦金ものは天又は地に一分巾位に金箔、銀箔、色付をする。

(四)仕立及び仕上　斯くて扇面紙の間に小骨を入れ、疊んで板の上に十本內外並べたものを十段位に重ね、一晝夜萬力を以て押をつけ、親骨を矯め扇面紙の兩端に貼付けする。扇子は茲に完成し、開かぬやうに攻紙をつけるのである。

(五)包裝　印のものは五十本、仕入品は十本づゝを紙函に入れ又進物用は一本づゝを紙函又は桐箱に入れるものもある。團

團扇　扇の生産工程は、種類によつて異なるが、最も多い骨と柄とが共に竹製共柄の場合を說明すると、

(一)骨の製作　丸竹を團扇の長さに截斷して所定の巾に割り、更に小刀にて一端を細かく割り、鎌を入れる穴を明けて鎌を通し、細骨と細骨との間を一定の間隔を保ち糸かけし大體の格好を作る。又柄には艶出、ニス塗、染、漆塗、模樣入、その他種々の加工が施される。

(二)貼り　地紙を適當に截斷して骨に糊を付け、表及び裏紙を貼り、骨と骨との間を竹篦又は筋立機で筋立し、團扇の格好に緣を截斷し色紙、緣卷、元貼等を行ふのである。截斷には丸鋸、截斷機、打拔機等が使用さる。貼は主に女工之に當り一日の能率は十二時間內外勞働して五、六百本位で、賃銀は製造者から貼屋(請負者)へ支拂はるゝもの一本に付き高級品二錢、最低級品五、六厘位、(加工賃全部を含む)。

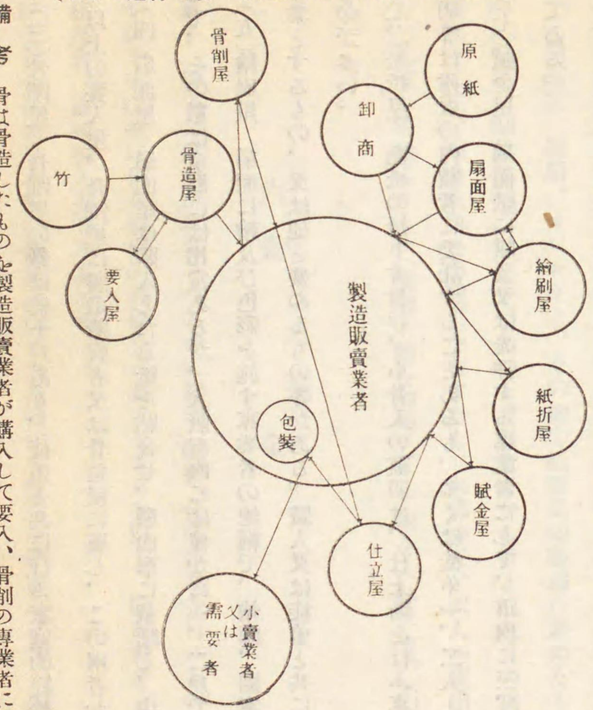
(三)包裝　一定の敎量を麻繩で束り、地方へは更に木箱又は籠に入れる。地紙は表となるべきものには石版、オフセット版、木版等の機械刷又は手刷、刷込、描繪、ピース刷(型を紙にあて、繪具を吹込む)等手先により繪又は模樣を施し、表裏共に一定の寸法に截斷される。

(五)生産組織

扇子　扇子の製造販賣者は法人組織にあるもの少く、大阪扇子會に加入せるものゝ中、合資會社一戸、合名會社三戸あるのみで殆んど個人經營である。

作業は繰地又は紙折、仕立の一部を行ふものある外、凡て專業者に委託して操作する。今、最も普通の作業關係を表示せば上の如くである。

第十九圖　扇子の生産組織(最も普通のもの)



備考　骨は骨造したものを製造販賣業者が購入して要入、骨削の專業者に委託加工する場合又は骨造、要入、骨削したものを購入する場合さがある。

(一)骨造屋　骨造屋は丸竹を購入して之を割り、親骨と小骨とを別々に仕上げするもので、大阪市內には極めて少く、多くは江州、山城、名古屋地方に居住する。今より二十年以前には大阪にも十戸位もあり、大經營者は職工十人以上を使用してゐたが、現在は僅かに四、五戸、而も大なるもので三、四人の職工を使用するに過ぎぬ。

(二)要入屋　要入屋は市內に二、三戸あり、家族と共に作業するもので

骨造屋と同じく、大阪市内在住者は著しく減少してゐる。

(三)骨削屋　骨削屋の數は約十戸あり、徒弟と共に行ふ家庭的經營者である。

以上の要入屋、骨削屋は製造販賣者又は骨造屋に屬し、この兩者から材料の供給を受け操作するのである。

(四)扇面屋　扇面屋は購入したる紙を貼合せ、扇面形に截斷し、中には繪刷までも行ひ、製造販賣者に供給するもので、その數は京都には相當あるが、大阪市内には僅かに一、二戸である。

(五)繪刷屋　扇面に繪及び色彩を施す專業者の總稱で、繪師、圖案師、木版師、金銀箔置師等に分れ、扇子のみを專業とするもの、又は他と兼ぬるもの等がある。職人又は徒弟と共に主人自ら操作する。之等の使用人は共に住込のものが多い。

(六)紙折屋　面紙の折り方付け、小骨入の隙明け、仕上斷を行ふ專業者にして、市内に十三戸位ある。多忙時には穴明等は附近の内職者に委託することあるも、多くは徒弟一、二人と共に操作するのである。

(七)賦金屋　扇面紙に賦金又は先押する專業者にして、市内に三、四戸を有し、二、三人の職人を置いて之に從事してゐる。

(八)仕立屋　仕立屋は市内に三十戸内外あり多忙時には五、六人の職工及び徒弟を使用するものもある。

其他親骨の牛骨、象牙、セルロイド、銀、合金等の加工をする牛骨、象牙細工屋、金銀細工屋等がある。

團扇　團扇製造販賣者は扇子と同樣、個人經營組織によるものが多い。而して製造者は、(一)地紙及びその他紙製

品の製造と兼ね行ふものと、(二)貼、印入及び包裝を行ふものと、(三)包裝のみを行ふものとに分れ、又(一)の中には地紙を製造し自家用の外、地紙として販賣するものもある。製造者は大部分(二)及び(三)で、(一)は僅かに十數戸である。(二)及び(三)の製造者が使用する地紙は凡て地紙屋又は(一)の製造者から購入するのである。

(一)地紙屋　團扇、カレンダー、その他の紙製品の製造を兼ぬるものを合せ市内に五、六戸を有する。

(二)貼屋　貼屋は約二、三十戸あつて、製造者から骨と地紙との供給を受け仕立作業を行ふ專業者で、大なるものは盛況時に三、四十人内外の職工を有するも、大部分五、六人を使用するものである。

(三)其他　地紙にローサ(明礬、膠を溶解しキラ紛を入れたもの)引を行ふローサ引屋、繪屋、製版屋、手摺屋等がある。

(六)資　金

扇子　扇子の製造を專業とする中に繰地、紙折、仕立作業を行ふものあり、繰地にはボンス、庖丁、仕立には萬力、刷毛位でその他に何ら機械的設備を必要とせざるを以て、固定資金としては店舗に關するものゝ外、敷地購入費、工場建築費、機械購入費等を要せぬ。

經營資金は斯業本來の性質上毎年九月頃から製造を準備し、骨、紙を漸次に購入し、而も自扇で生産費の三割乃至四割を占むる骨は月末現金で代金を決濟し、中には前貸しなくてはならぬこともある爲め、現金を要すること多く、

加ふるに製品賣掛代金は地方にあつては、總決濟は長きは送荷してから十ヶ月以上を要するものがあり、資金の固定すること甚だしく、地方向を製造するものは小經營にても數千圓、中經營一、二萬圓、大經營では十萬圓以上を投資してゐる。斯くて資金の回轉意の如くならざる爲め、倒産するものも往々あると云はれてゐる。

團扇 作業は凡て扇子と同じく各專業者に委託し得るを以て設備資金を要せずして製造し得る譯であるが、大經營者は地紙、その他の紙製品の製造を兼ね、敷地、機械購入費、工場建築費等合せ、數十萬圓に上るものがある。經營資金は代金の決濟が扇子と類似の點が多いから大體同樣と見られてゐる。

第三節　販路並に取引

（一）扇子及び團扇の仕向先

扇子 大阪製品は大部分內地向で、東京を初めて全國各地に仕向けらるゝも、就中大阪以西を主たる販路とし、中國四國、九州、臺灣、朝鮮方面に仕向けらるゝものが多い。而して大阪製品は歐洲大戰當時は支那を初め、歐米各國へも相當輸出され、大正八年には大阪、神戸兩港の輸出額（團扇を含む）は六十二萬圓を示したが、現在は支那、滿洲方面に少量あるのみである。輸出向としては京都、名古屋製品が大部分である。

團扇 團扇も扇子と同樣殆んど內地向で各地に仕向けらる。而して大阪製品は海外へは滿洲、南洋、米國方面へ少量のものが輸出さるゝのみである。左に參考の爲め最近五ヶ年間の大阪、神戸兩港扇子及び團扇輸出額を示さむ。

大阪神戸兩港扇子團扇國別輸出額

（大藏省調査）

國別	昭和二年 數量	昭和二年 價額	昭和三年 數量	昭和三年 價額	昭和四年 數量	昭和四年 價額	昭和五年 數量	昭和五年 價額	昭和六年 數量	昭和六年 價額
	千個	円	千個	円	千個	円	千個	円	千個	円
滿洲	一		一		一		一		一	
中華民國	二三五	一二、五一四	一一五	八、四四二	三八六	二一、八三九	一〇五	三、六一九	八九	八一四
關東州	二五六	二〇、八三五	四一三	二八、二六三	四九七	三二、八五七	五二九	三〇、〇一八	五二八	二〇、六一二
香港	三三	一、五八七	一九	六九二	三	九二八	四	二三二	一六	六五七
英領印度	二三三	二一、一七九	二四七	一五、七五五	四五〇	七、六三五	六〇二	一七、九八〇	三二九	八、七〇八
海峽殖民地	一五六	六、〇九一	六八	二、四六九	四八	二、七一三	四一	二、八〇三	二三	八一三
蘭領東印度	五七七	一五、三五五	三六〇	一〇、九七五	六八七	一七、四〇三	一、四二〇	一六、三五二	二四一	六、二五一
比律賓	一、八一六	一二〇、五六二	一、〇八六	八〇、九六七	八〇九	六二、一六六	九四九	六五、三八九	一、二五五	五八、九四九
英吉利	六五五	一六、七〇八	八七六	二一、八九七	六〇七	一四、二〇五	六九〇	一〇、六二六	五〇三	七、二九四
佛蘭西	四五二	六〇、〇九五	六二五	六一、二四二	一、三四一	七九、〇三四	八一〇	三〇、四三六	三九四	一二、四八四
獨逸	九五	四、一九四	七六	二、二〇一	一〇七	三、〇九九	三四八	三、二七二	二〇	五〇五
伊太利	一九九	三、四〇九	五二五	七二、八三八	一、一五一	一二五、七四〇	一、六六〇	八四、五八四	一、〇四九	五九、二八六
端典	二九	三二八	一四	四〇四	—	二九	四〇	四、九二〇	三七	八七六
西班牙	一〇四	二、三九六	八二	一八、二〇七	一八四	三六、七三四	八九	一七、三五八	八一	四、三〇七
丁抹	九	三二	六	三三九	二一三	一、〇九八	二〇三	三、四四八	四〇	八四五

米國	五四九	一九、五一六	二八九	一一、八七六	三四二	一七、二三〇	四六〇	一九、〇〇七	四五二	二〇、一八二
玖馬	二七五	三七、九四五	三三三	二八、二六〇	四三	一六、一六五	六二	一一、八七三	八四	四、一〇五
亞爾然丁	五四七	一三、〇二四	一五七	一一、二〇八	二六九	五、七八九	一五一	六、〇〇五	四〇五	七、六〇二
伯剌西爾	九	一、五五〇	一九	三、四八四	三八四	一三、〇三五	三四三	一〇、七六七	二〇四	四、七七七
埃及	一〇二	七、九〇八	二二五	四、六四八	三四八	六、七〇三	三六六	三、五九〇	一三三	三、四二五
濠洲	二六二	一九、七五五	一一八	八、五一〇	二〇三	一一、二八九	九四	三、八〇一	二八	一、三四三
布哇	一八	一、四八六	二一	二、四七九	一九	二、三六八	六三	二、九二六	九〇	二、三二三
其他	三九四	一七、九四四	二四九	一五、一四七	四一四	二一、九五	二五五	八、六〇七	二五二	八、〇三五
計	六、九九四	四三一、七九二	六、〇二三	四一〇、二〇三	八、四〇三	四八、二四四	九、三五四	三六二、三二八	六、二七〇	三三七、〇九七

（二）需要時期

内地向 扇子及び團扇共に内地向は一般に五、六、七月を最需要期とし、製造者への注文は二、三月から五月頃までが最も多く、隨つて製造は普通一月から五、六月頃までに行はれる。而して團扇製造者は凡てカレンダーの製造販賣又は販賣を兼ぬるを以て、團扇の閑散時である八月末から翌年一月までは專らカレンダーの製造販賣に從ふ。

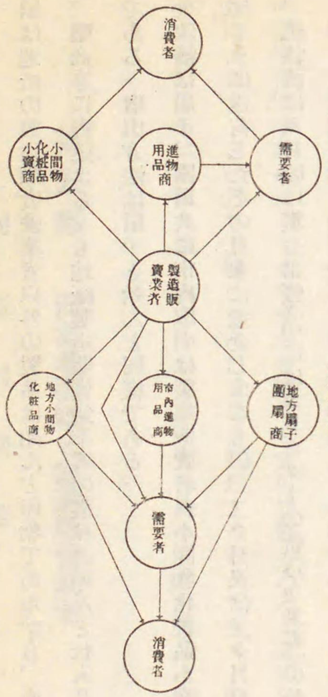
輸出向 輸出向は毎年十一月から翌年二月頃までの注文が最も多い。

（三）取引の經路とその方法

内地向 扇子は印物にあつては、市内と地方とを問はず製造販賣者から會社、商店等需要者へ直接、又は大阪市内の進物用品取扱商を經て賣込まるゝが、前者によるものが多い。

仕入品にあつては、市内は製造販賣者から小間物、化粧品小賣商に、地方向は地方の小間物、化粧品卸商及び扇子團扇、カレンダー卸商を經、夫々小賣商へ賣込まるゝのである。今、取引經路を市内と地方とに分ちて示すと左の如くである。

第二十圖　扇子取引經路



製造販賣者は印物を製造するものと仕入品を製造するものとに自ら區分され、大阪扇子會員中、前者は五、六戸、後者は二十四、五戸程ある。

製造販賣者の仕入は、毎年八月末頃から圖案其の他に關し流行に應ずる樣に考案し先づ骨は骨造屋の提示したる見本に基き、十、十一月頃から二、三月頃までに製造せしめ、又紙も骨と同じ時期に購入して圖案、色彩等を專業者に委託して大體數量を定め製造するのである。

地方への賣込は、最初は見本により行はれ、出張時期は舊正月前後である。又地方の中卸商、小賣商が大阪に仕入

に出張し、或は型錄を送り地方祭用として地方の小賣商相手に賣込むもの等がある。大阪市内は扇子のみでなく桐箱類の販賣を兼ね、絕えず小賣商を訪問して賣込むのである。取引の單位は普通百本を以て標準とする。輸出向は製造者の直輸出又は大阪、神戸在留の輸出商を經て之を行ふ。

團扇は地紙の製造販賣兼業者以外の製品は殆んど印物であるから、直ちに市内及び地方の吳服、雜貨、酒醬油、化粧品、藥商等に賣込まるゝも地紙製造販賣兼業者の製品は殆んど仕入品で、市内及び地方の卸商、小賣商に賣込まるゝのである。取引方法は扇子と殆んど同樣である。

代金決濟は扇子、團扇共に市内取引は製造販賣者對小間物化粧品小賣商、進物品商及び需要者は月末一回勘定とし地方は早きは送荷したその月末に送金し來るもの、二ヶ月又は三ヶ月目に集金に出張するもの、荷爲替付のもの等あるも、總決濟は八月頃に集金出張(中にはカレンダーの賣込を兼ぬ)の節行はるゝを常とし、遲きは翌年の賣込出張の時行はることもある。

第四節　斯業の將來

扇子　扇子の需要は毎年漸增の趨勢にあり、殊に近年は謠曲の流行、其の他女子事務員の增加も關係し、著しく數を增し、今後需要は增加するとも減少することは先づないと見られてゐる。併し中流以下の製品は數年以前には名古屋は大阪製品と殆んど同一の價格であつたが、爾來名古屋は副業的に從事し工賃安きを以て、大阪品は之に壓倒され、今や中等品以下は名古屋品が優位に置かれ、大阪の製造販賣者中同地製品を取扱つてゐるもの〻少くないことは注目すべきことで、現在は中流及びそれ以上の製品は尙影響を蒙ることなきも、工賃安を唯一の武器とし、躍進するに到らば、今後大阪品は決して樂觀を許されず之が對策の考究は忽緒に附すべからざるものがある。

團扇　大阪にて使用さるゝ骨は、凡て他に仰ぐと雖、地紙は大阪を唯一の生產地とし、全國各地に仕向けらるゝ現狀であるから、團扇の產地としては有利の地位にあり、加ふるに近來本邦内地に於ては、廣告用としての用途著しく開拓され、現在はこの方面に使用さるゝものが六、七割を占むると云はれ、意匠、形狀の考案に一層の努力を致さば需要の激增は望まれぬとしても今後尙發展すべき可能性のある工業の一であらう。

唯茲に注目すべきは近年丸龜地方に於て骨を製造するのみでなく、貼をも施し貼上品として販賣するものが漸次增加し、大口需要者は直接丸龜と取引せんとする傾向あるに至れることにして、大阪の當業者としては將來相當考慮を要すべきことであらう。

第五節　同業者團體と製造販賣業者

(一)　同業者團體

大阪扇子會　本會は大正五年同業者の申合せにより創立せられしもので、大阪市内を地區とし、同業者相互一致して得意先の爭奪、價格の競爭を防止し、共同利益の增進を圖るを目的とする。

而して組合員各自の滯賃を尠なからしむる爲め、毎月一回賣立會を開催し持合品の交換賣買を行ふことゝしてゐる賣立に際しては一定の手數料を徴收し、會の經費に充つるのである。

役員は會長一名、副會長一名、幹事二名又は三名を置き會長は久保田與一氏、副會長は稲垣政七氏にして、昭和七年末現在組合員三十名、事務所を別に置かず輪番幹事制としてゐる。

大阪團扇商組合　本組合は明治二十四年八月重要物産同業組合法に準據し創立せしもので、大阪市を地區とし、設立の目的は前記の大阪扇子會と大體同一にして、例月會を開催し各組合員の交換賣買を行ふ。この例月會の開催は毎月行はれず大體五、六、七月夏物（團扇、扇子）と、十一、十二月冬物（カレンダー日表及び臺紙）との二期とである。

本會の役員は組長一名、副組長一名、評議員四名、會計主任一名にして、組長は古島德二郎氏、副組長古椀嘉三郎氏事務所を西區西長堀北通一丁目大阪實業協會内に置き、昭和七年末現在の組合員數四十三名である。

（二）製造販賣業者

（イ）大阪扇子製造販賣業者

（大阪扇子會員イロハ順）

氏名	住所	電話番號
稲垣政七扇舗	東區南久寶寺三丁目	船場（六七七 六七八）
岩澤金治扇舗	東區南久寶寺町一丁目	船場 二九四〇
岩田幸次郎	南區鹽町板屋橋北入	船場 六〇五
濱上角藏	北區樽屋町一二	北 七〇四四
畑井久行	東區住吉町	
羽津米吉	南區周防町二四	南 六五五六
西田松三郎	南區順慶町中橋東入	船場 三〇九七
西村定次郎	南區竹屋町八幡筋北入	南 三五四一
戸田恒次郎	南區二ッ井戸大和橋南詰	南 六九二
大久保庄吉	東區北久太郎町御堂筋西入	船場 七三八
横山市松	東區南久太郎町浪花橋筋西入	船場 一七九七
横山常次郎	東區北久寶寺町中橋西入	船場 九二
吉井照影堂	東區北濱四丁目	本局 一六四九
米田寅之助	西區北堀江宇和島橋南詰南	新町 四四五七
長田正義	南區高津地藏阪北阪南	
中井德商會	東區博勞町二丁目堺筋東入	船場（三五七〇 二八八二）

村上萬治郎	南區玉屋町八幡筋南入	南 七〇六	
熊谷分七	南區地藏阪上汐町北入東側		
久保田與市	南區心齋橋筋一丁目	南 三三三～二二三三	
松村直次郎	東區北久寶寺町三休橋筋	船場 四〇六七	
松本茂太郎	南區周防町浪花橋筋西入	南 一一六一	
古椀嘉三郎	西區北堀江御池橋電停前	新町 三七一〇	
青木五三郎	南區南久寶寺町二丁目	船場 六三〇	
佐野藤助	東區南久寶寺町四丁目	船場 二九九〇	
宮本德次郎	東區南久寶寺町堺筋東入	船場 二三一九	
宮崎繁商店	港區市岡元町三ノ二九	西 二七六九	
鹽谷德松	北區老松町二丁目	北 八二二六	
柴田松太郎	東區南久寶寺町中橋東	南 一八八一	
平田三平	南區北炭屋町四橋南詰	南 六六三四	
森岡清	天王寺區東平野町地藏阪南	南 五三〇二	

（ロ）大阪團扇製造販賣業者　（大阪團扇商組合員）

氏名	住所	電話番號
石原仁三郎	北區地下町一八	堀川 六四一
畑善三郎	北區天滿橋筋四ノ一	
長谷川昌平	港區抱月町一ノ六	櫻川 三五六九
羽野博商店	浪速區西神田町八八三	西 三〇九八
畑治郎	港區八幡屋元町一丁目	南 三八九五
二宮雅義	東成區東小橋南ノ町五ノ二三	
西田林平	東區道修町五ノ二三	本町 五五四九
二宮秀雄	東區東雲町三丁目	東 五五五九
西田商店	南區順慶町三ノ二六	
渡邊外城	南區高津一番丁二二	船場 三〇九七
野村印刷所	東區松屋町筋內久寶寺町四ノ二〇	
大久保庄吉	東區北久太郎町四ノ三〇	東 三二五三
神原秀太郎	住吉區松田町二ノ二七	船場 七三八
田村武次郎	北區市之町一九	北 四〇五三
田村半治郎	南區瓦屋町二番丁六二	
高木七太郎	東區材木町三	東 六四二

中井德商會	東區博勞町二丁目六七	船場	二五七〇 二八八二
中村孝平	港區八幡屋元町二ノ二一〇	南	三〇二三
矢中啓介	南區大寶寺東之町五二		
山本多三	南區高津町四番丁一	北	五三六八
安田作造	北區伊勢町九	東	三九七一
前川新藏	東區内久寶寺町三丁目	新町	三七一〇
古椀嘉三郎	西區北堀江御池通一ノ六	船場	四一一九
藤野尙三郎	南區鹽町三ノ一一	土佐堀	一六一八 三九〇四
古島印刷所	西淀川區浦江中一ノ六一		
近藤眞晟	北區樽屋町七	北	六三七五
小南新	北區信保町一ノ二七	南	三二七四
寺澤卯三郎	南區三津寺町三二	東	五三六九
新清左衛門	東區森ノ宮東之町三九七		
青山清	北區今井町三四	東	五〇五三
酒井小三郎	南區松屋町末吉橋南入	土佐堀	二五一二 三四四一
佐野藤助	西淀川區浦江北三丁目	南	五八九〇
榮屋商店	天王寺區上本町七ノ五三三八		
宮崎市太郎	南區鍛冶屋町一一	南	二六八四

宮崎繁商店	港區市岡元町三ノ二九	西	二七五九 三一八四
宮川鳳助	東區南久寶寺町四ノ一二	東	二九七六
三宅明八	港區市岡元町三ノ二八	西	三〇七二 三〇七三
下平尾數行	東成區猪飼野町榮橋西詰	天王寺	一一八〇
廣田米太郎	南區東清水町五〇	南	二五五五
樋口和三郎	南區大寶寺町東ノ町二一	南	七八三一
杉原榮治郎	北區樽屋町五	北	一九五二
杉岡新七	南區大寶寺仲之町六七	南	一〇二六
杉本庄之助	北區南森町四	北	五〇六一 五〇六二

第十三章　海外市場に於ける本邦品

前章迄は主として内地に於ける一般の狀況であるが、更に本章に於ては海外市場に於ける本邦品の取引狀況に關し述ぶることゝした。その資料は曩に本邦製の紙製品（紙器、帳簿、手帳、封筒、玩具、ナプキン、レベル、扇子、團扇、提燈、和傘、その他紙製品）に關し、在外本邦公館及び大阪市上海、天津、哈爾賓貿易調査所その他本市通信囑託員に左記事項の調査を依囑して得たる報告である。而して報告中類似又は重復せる個所は適宜取捨した。

海外市場に於ける本邦品

調査事項

一、本邦品と外國品との競爭狀態
二、本邦品の需給狀況
三、本邦品及本邦當業者の缺點
　A、品質上の缺點
　B、取引上の缺點
　　(イ)賣込方法
　　(ロ)荷造其他輸送方法
　　(ハ)代金支拂方法
　C、其　他
四、本邦品の改善策
五、需要者の嗜好其他に就て本邦當業者の留意すべき點
六、海外市場に於ける本邦品の將來
七、海外市場に於ける紙製品工業

第一節　需給の概況

各種洋紙の需要は相當旺盛で、模造紙の如き年消費高四千噸以上に上り、專ら本邦から輸入されてゐるが、他方紙製品となると據るべき資料なき上に何分その種類が甚だ多岐に亘る爲め、一括して述べることは甚だ困難である。故にこゝには紙製品中當地に於て比較的需要あるものと認めらるゝ諸品につきその需給狀況を概記しやう。只以下記述するところによつても知らるゝ如く、この種製品を通じて大體獨逸品が依然優勢を占めてゐる點は注目に値ひすべく同時に今後殊に現在の爲替關係その他有利なる條件の下に於ては、技術的及趣向的研究により本邦品には進出の餘地多分に殘されてゐるものと言ふことが出來る。因にこれ等の輸入年額は數千圓乃至數萬圓程度たるべく、全部を合しても十萬圓には上らないであらう。

第二節　品種別による需給

(イ)紙テープ　特種の用途を持つものを除き殆んど全部本邦品で占めてゐる。輸入年額一萬圓前後であらう。本品の需要先は主として銀行及錢莊で、紙幣を束ねるのに使用される。通常のくゝり紐用としては地場に出來るシデ紐が遙かに安價なる爲め、書籍店等の外はテープは餘り使用しない。從つて需要せらるゝものは殆んど白色に限られ、色

物は附隨的に輸入される位のものである。

相場は一個邦貨五錢乃至六錢、包裝は通常五百個乃至六百個入一函としてゐるが、當地への輸出物は運賃の關係上一千個入となす場合が多い。普通テープの外に舞踊場用テープが以前は相當需要されたのであるが、近年は舞踊場そのものが昔日の面影なく、僅かに冬季の舞踊シーズンに少量需要されるに過ぎない。本品は獨逸品の一打大洋二十錢乃至三十錢程度の極く安物が多く使用され、本邦品は値段が高過ぎる（打邦貨一圓程度）上、型が小さい爲め露西亞人には扱ひ難く、さりとて扱い易い大型のものは打二、三圓もするので一般には使用されない。本邦製テープとしては小田原製紙及日本紙業兩社のものが最も多く入つてゐる。

（ロ）トイレット・ペーパー　本品が一般家庭で多少でも使用され出したのは極く最近のことに屬し、從來はホテル及一部上流家庭に限られてゐた、從つて現在のところ消費量は至つて少なく、寧ろ宣傳中と言つてよい。全部輸入品で、從來獨逸品が壓へてゐたが、現在は本邦品優勢で年輸入高五百三入二、三十箱、獨逸品は約その三分ノ一と見られてゐる。獨逸品は大部分クレープせるもので、全長五十米突乃至五十五米突、一個邦貨五錢程度から二十五錢程度までゞあるが、安物が最も歡迎されてゐる。本邦品は全長七十五米突、一個十五錢乃至二十錢程度がある。宣傳が行き亘れば將來多少の需要增加は見込まれるが、ホテル等を除いて一般家庭向としては比較的上流家庭を主とするものだけに、左程の期待は出來ないであらう。

（ハ）ナプキン　紙製品としては最も需要多きもので、年四、五百萬枚が消費されてゐる。需要先は大小レストラン

であるが、露西亞人家庭に於ても相當消費される。從來獨逸品及佛國品殊に前者が多く輸入されてゐたが、本邦品が輸入されて以來漸次他國品を壓倒して現在では本邦品七割、獨逸品二割、佛國品一割といふところである。

當地で需要されるものは十二吋角一度もみの無地品が大部分を占め模樣物は殆んど需要されず、緣取のもの僅かに使用されるに過ぎない。相場は一千枚を單位とし、當地卸値邦貨九十錢乃至一圓程度である。包裝は十萬枚入一函又は一包とする。

品質から言へば本邦品は手障り軟かく獨、佛品に優つてゐるが、露西亞人の嗜好としてバリ〳〵した手ごたへある厚味のものを歡迎するから、將來本邦品としては品質もさることながら、白を考慮する必要がある。大體獨、佛品は秋林洋行その他外商により、本邦品は邦滿商によつて取扱はれてゐる。

（ニ）クレープ紙　主として植木鉢の外包用として使用されてゐるが需要量は大したものではない。青、赤、紫等各種のものあり、現在殆んど獨逸品である。

（ホ）帳簿　大銀行、商店は特別に調製させて居り、滿洲人側は依然舊式帳簿を使用するものが多い關係から、仕入帳簿の需要は左程の數量には上つてゐない。只最近滿洲人も新式帳簿を次第に使用する傾向にあるから、今後この方面の需要は漸增するであらう。露西亞人向のものは値段の關係と特種のものであるから、輸入品は多く使用されず、地場品で間に合せてゐる。

（ヘ）手帳　滿露人方面には安物の地場品が使用されてゐるので、現在のところ輸入品の需要は殆んどない。只本年

皇軍入哈以來この方面に本邦品が相當需要されてゐる。

(ト)ノート　滿露人學校は何れも地場品を使用してゐる。露西亞人に特有なラトラードは一時日本からも輸入されたことはあるが、引合はず現在では當地邦人紙商が注文を受けて大部分を製造してゐる。

(チ)封筒　滿洲人向のものは一時內地からも入つたことはあるが、現在は殆んど地場品である。外人向角封筒は殆んど獨逸品で占め、波蘭品も多少輸入されてゐる。輸入本邦品は現在のところ外人には使用されず專ら邦人向である最も需要あるサイズは四寸×五寸物及それ以上の物で、裏印刷模樣ある物及なきもの共に需要されてゐる。相場は前者一千枚大洋四圓五十錢前後、後者四圓乃至八圓程度である。この外婦人用花封筒も相當需要されてゐるがこれ又殆んど獨逸品である。サイズは一定せず、便箋との組合せになつたものが多く歡迎されてゐるやうである。

前述の如く本邦品は現在のところ邦人向以外には輸入されてゐないが、今後殊に目下の爲替關係から見て充分進出の見込がある。

(リ)便箋　殆んど地場品で間に合せてゐるが、將來滿洲人向のものを研究すれば相當見込はあらう。露西亞人向には婦人用のもの以外には先づ見込はない。現在入つてゐる本邦品は封筒同樣專ら軍人その他邦人向である。

(ヌ)名刺紙　殆んど本邦品で占めてゐる。滿洲人向として最も需要あるは四號乃至五號品の長手のものである。相場は普通品四號百枚十三錢、五號十四錢程度である。露西亞人向には獨逸品が多く使用されてゐるが、函の日本文字を除く等彼等向に作ればこの方面にも出るであらう。

(ル)ファイル　全部獨逸品である。サイズにはフルス型とレター型とあるが、前者は專ら露西亞人に後者は滿日人に需要されてゐる。今後本邦品の品質の改良が出來れば充分見込はある。

而して本品は大體に於て獨逸品その他の外國品は外商の手で、本邦品は滿邦商によつて取扱はれてゐる。今、主なる取扱商を示さば左の如くである。

近澤　洋行	(邦　商)	哈爾賓道裡中國十五道街	益順興　(〃　)　〃　〃
荻原洋紙店	(〃　)	〃　石頭道街	秋林　洋行　(外　商)　〃　新市街
兼田　商行	(〃　)	〃　〃　〃	ツツケルマン　(〃　)　〃　道裡一道街
文明堂	(〃　)	〃　〃　〃	クリートラ　(〃　)　〃　石頭道街
濱一號	(滿　商)	〃　〃　新城大街	ゲンヘル　(〃　)　〃　〃　沙紋街
天德信	(〃　)	〃　〃　傳家甸	

昭和七年十一月哈爾賓大阪貿易調査所報告

二　奉　天

第一節　本邦品と外國品との競爭

奉天に於いて需要される紙製品類は殆んど總てが本邦製品であると云ふて差支へない。只外國品としては滿洲人側に於いて製造される商品用の下級な各種紙函類及び支那紙を使用した帳簿、手帳、封筒類、其他扇子、提燈、レベル

等が多少市場に勢力を占めてゐるが、歐米品は僅かにトランプ（骨牌）類が販賣されてゐる程度で全然問題とならない。而して滿洲人側に使用されてゐる紙函原料は從來天津、上海方面で製造され、本邦品に對抗し相當勢力を占めてゐた支那製のボール紙がその大部分を占めてゐたが、本年九月二十五日より支那製ボール紙は、滿洲國海關に於て外國品と看做し、輸入稅の徵收を開始して以來全く輸入されなくなり、本邦品は非常に有利な立場に置かれてゐるから、將來この種原料品に於いては本邦品が市場を獨占するものと見られてゐる。扇子類も本邦品に對抗し南支製品が相當輸入されてゐたが、これも事變後は殆んど輸入されず、本邦品は益々有望視されてゐる。團扇、和傘、提燈等は風俗習慣等の關係上、滿洲人側に需要されるものは從來からある土產品に限られ、本邦製品の需要は當地在住の邦人側に限られてゐる狀態である。尙骨牌類は賭博癖を多分に有する滿洲人向の商品として紙製品中相當の需要を有つてゐるが、これは大連方面で盛んに印刷され本邦製品は極めて少い。

第二節　需給並に取引

輸入額　奉天に輸入される紙製品中滿洲國人に需要される本邦品は紙函、玩具、扇子、手帳、帳簿、封筒、ナプキン、レベル等がその主なるもので、滿洲人側の文化の發達に伴ひ需要は年々增加の傾向を示してゐる。當地に於ける種類別輸移入數量を示せば左の如くである。

紙製品奉天驛到着數量

（單位瓩）

品種別	昭和五年	昭和六年
廣告紙	一、五四二	六、四四三
便箋	一〇、一五七	四、三八一
封筒	一六、二一三	四、二八〇
名刺用紙	一、〇五四	一〇、一二三
包裝紙	一五四	七、八一三
煙草用紙	三六八、四七六	七五四、七五三
吸取紙	一九三	—
帳簿	一四七	—
印刷紙	二六、五〇三	三〇、三九九
商標紙	四二、七五三	三四、五四九
金紙	—	七三
燐寸用紙	一三、四七三	一〇、三三三
寫眞臺紙	四八、二七一	三、一四〇
圖用紙	七	—
感光紙	五〇	—
其他紙製品	三三、九七一	五三、八六〇
計	五五七、九六二	九二〇、一四七

需要品の種類及最近の價格　（イ）手帳類　最近數年來滿洲人側に於いて洋式手帳類（主として懷中物）を利用するものが非常に增加して來たので、滿洲人對手の邦人雜貨貿易商等でこれを取扱つてゐるが、價格は懷中物で打三十錢から四十錢、普通の手帳で六十錢から九十錢程度のものが最もよく賣れる。高級品となると打四、五圓內外のものもあるが、これは滿洲人には需要がなく本邦人側に限られてゐる。小賣は普通前記卸値段の二割增見當で販賣されてゐる。

（ロ）便箋　滿洲人の信書類は從前は殆んど毛筆で認められてゐたが、文化の發達に伴れインキを使用するやうになつた爲め便箋類も弗々需要されるやうになつた。價格は滿洲人向のもので百枚物十册七十錢乃至八十錢、日本人向のものは五十枚十册七十錢見當のものが最もよく賣れてゐる。

（ハ）封筒　封筒類は普通一萬枚を單位として取引されてゐるが、滿洲人向賣行のあるものはハトロンで一萬枚六圓乃至十圓

二重封筒で十七、八圓、西洋封筒三十圓見當のものである。本邦人向のものはハトロン百枚十二錢、二重封筒二十六錢乃至三十五錢見當である。

(ニ)ノート　滿洲人側の需要は極めて少い。日本側に於ける各學校の需要がその主なるものである。價格は小學校用一册五錢、大學ノート三十五錢見當のものが最もよく賣れてゐる。

(ホ)ナプキン　奉天に於ける一ケ年の需要數量は日本側約五、六萬枚、滿洲人側十五、六萬枚見當であるが、滿洲人側の消費數量は舊軍閥の沒落後これ等を相手としてゐた市内滿人經營の西洋料理店が激減せる爲め、人口に比較すればその需要數量は極めて微々たるものである。滿人がナプキンを使用するやうになつたのは極く最近のことであるが一般に花模樣の入つたものを喜んで使用し、純白のものは餘り好まないやうである。價格は純白物百枚十二錢、花模樣入り十五錢見當で、小賣は各二、三錢高である。

(ヘ)扇子　從前は本邦人向のものと滿洲人向のものはその形狀が非常に異り、滿洲人向のものは所謂貿易扇子と稱し骨組の太いものであつたが、最近は本邦人向の扇子と同じ平骨扇子は全然捌かれなくなつた。特に滿洲人には組付のものがよく賣れてゐる。種類は婦人用、男子用の別、扇子面の模樣其他により二、三百種近くあるが、價格一本四五錢より七、八錢程度のものが最も歡迎されてゐる、本邦人側には一本十二、三錢程度のものが一番よく出てゐる。

(ト)團扇　滿洲人側には羽毛製の團扇を使用してゐるが、日本式の紙團扇は嗜好に適しないためか現在のところ全然賣れない。當地に於ける卸賣價格は普通品一本八錢乃至十錢見當である。

(チ)紙函　滿洲人側に需要される紙函は大部分地場製品で、一般商品用(帽子、靴、化粧品等)としてその用途は非常に廣い。從つてその種類は多種多樣であるが、當地に於ける一ケ年の消費數量は地場製品のみで金額にして約二十二、三萬圓に達すると謂はれてゐる。輸入品は天津方面の支那製品と本邦品であるが、本邦品は高級品に限られ一ケ年約一萬圓見當消費されてゐる。

(リ)レベル　レベルは當地印刷所に於いても製造されるが、内地品に比し品質も劣り、且つ比較的高價であるため輸入品に壓倒されてゐる。當業者の語るところによれば地場製品は品質價格の點に於いて五割方落ちると云ふてゐる價格は千差萬別であるが、化粧品に貼用する普通品で千枚三十圓見當である。

(ヌ)玩具　紙製玩具の需要は殆んど滿洲人側に限られ日本側には餘り賣れない。滿人子弟の使用する紙製玩具は紙鳶、紙人形、骨牌等その種類も非常に多く、古くから愛用されてゐるが、近來これらの在來品に代り本邦製の玩具類が異常な進出振りを見せ、現在滿洲人側に需要される紙製玩具はその十分の七迄は本邦製品であると謂はれてゐる。

(ル)骨牌　當地に需要される骨牌としては日本側の所謂花札並に外國製のトランプ及び紙牌と稱する滿洲人の使用の骨牌の三種に大別されるが、大人の遊戯用として日本内地に於けるそれより需要が比較的多い。花札は冬籠の手すさびとして冬期に需要が多い。トランプは滿洲土産として需要されてゐる。紙牌は時期を問はず滿洲人側に需要されその數量は相當大きいが、主として大連方面で印刷されてゐる模樣で本邦製品は殆んどない。

(ヲ)和傘　和傘の需要は日本側に限られ、滿洲人側には地場の製品に壓されて全然需要されない。價格は五、六十

錢より二圓程度である。

(ワ)提燈　普通の提燈は日本側、滿洲人側共殆んど地場製品が供給され輸入されるものはない。只日本側には夏期室内裝飾用として岐阜提燈等が輸入されてゐる程度である。

(カ)帳簿　滿洲人側各商店等に於ては大部分在來の支那式帳簿を使用し洋式帳簿に記入するものは極く稀れであるから滿洲人側には僅かに銀行、會社等に一部の需要がある程度で、この種帳簿類の需要が增加するのは相當の時日を要するものと見られてゐる。現在當市場に最も需要されるものは二百頁物二册一圓程度のものである。

(ヨ)其他紙製品　當市場に需要される前記以外の紙製品としては寫眞臺紙及び紙製器具(書類綴等)類があるが、寫眞臺紙は原料は外國品であるが製品としては本邦品と云ひ得るもので、その種類は各大小デザイン其他紙質により多數あるが、標準品に就て大別すれば左の七種である。

名刺	百枚に付卸	一圓—三圓	大キヤビネ　百枚に付卸
手札	〃		八ツ切　〃
合板	〃	二圓—十圓	四ツ切　〃
中板	〃		七圓—三十圓

以上各種平均して需要されてゐるが、滿洲人側には下級品が多く高級品は餘り賣れない。消費は年々增加の傾きを示してゐるが、現在のところ日本人側及び滿洲人側の需要は半々の割合である。

其他の紙製品としてはアルバム、書類綴込器等があるが、これらの需要は殆んど日本側に限られ、滿洲人側の需要は極めて微々たるものである。

需要の時期　手帳、帳簿、封筒、ナプキン、其他普通紙製品類には一定の需要期と云ふものはないが、大體に於いて一般商品の仕入季である春及び秋に最も多く取引されてゐる。扇子、團扇、傘の如きものは商品の性質上春から夏にかけて取引され、玩具類の需要は舊正前後が最も多い。

取引の經路　本邦より輸入される一般紙製品は大部分大連經由大阪方面の生產地より直接當市場に輸入せられる。滿洲人側には當地在住の邦人卸商の手を通じ販賣せられてゐるが、商品によつては直接大阪方面の邦商と取引されるものもある。

代金決濟方法　當地に於ける本邦人取扱商と內地當業者間の代金決濟は各商品共普通六十日乃至九十日の手形によつて決濟されてゐる。當地邦商と滿洲人側取扱商の代金決濟は二、三年來現金主義に改められてゐるが、これは相手方の信用により毎月末集金なるものもあり、一律に實行されてゐる譯ではない。

第三節　本邦品の缺點とその改善策

品質上の缺點　奉天に輸移入される本邦紙製品に對する競爭品としては滿洲人側の地場製品及び天津方面の支那製品があるのみで、生產工程が極めて幼稚であり、他の外國品がないため、これに比較し品質上不評を受けてゐる點は

先づ無いと云ふて差支へない。只滿洲人向の扇子の如きは支那製品に比し本邦の扇子は骨が薄く非常に華奢に出來てゐるため破損し易いが、骨組を太くすればそれだけ價格が高くなり、値段の點でジレンマに陷つてゐる。

取引上の缺點　滿洲事變後本邦に於ける斯業者で當地方に販路を擴張せんとするものが非常に增加してゐるが、從前海外取引の經驗を有つてゐないものが、只無暗に商品を賣り焦る傾向があり、折角注文を受けながら輸送の拙劣、荷造りの不完全等から種々のクレームを惹起し失敗するものが尠くない。之等は新に當市場に販路を求めんとする者の充分注意すべきで、取引に際し對手方とよく連絡協調し輸送の方法其他は前以て詳細調査すべきで、特に荷造りは長距離の輸送に耐へ得るやう嚴重にしなければならぬ。殊に本邦當業者に非難されてゐる點は取引の條件が多く大阪渡しで行はれるため、荷造り等も往々不完全になり勝ちで、輸送に際し一箱に詰め得られるものを二箱に詰め、輸送費の增加等に對し全然無責任な態度をとるものがあることで、之等は特に注意を拂ひ改良するやう希望されてゐる。

尙當市場に於ける紙製品類の販路は日本側と支那側と大別されて居り、從つて日本側に需要されるものと滿洲人側のそれとは品質、種類共非常な差異のあることを見逃してはならぬ。滿洲人向のものは安價な商品であればある程有望で、品質の點も將來の發展上考慮すべき要があるが、品質よりも寧ろ價格に重點を置く必要がある。代金の決濟方法に就ては現在のところ非難の聲を聞かない。

需要者の嗜好其他に就き特に注意すべき點　紙製品に對する滿洲人側の嗜好に就ては商品の種類により一概には云ひ得ぬが、手帳、封筒類は最近日本側の需要品と同樣のものを使用するやうになつて來た。尤も封筒の如きは更に紅

枠を印刷して支那式に改め販賣してゐるものもあるが、一部商品に限らず最近滿洲國人の間には日本趣味に追隨する傾向が著しく現れて來たから、本邦當業者に於いてその邊の機微を適當に摑む必要がある。例へば支那式扇子に代り最近賣行を增してゐる日本扇子等がその好例であるが、只本邦當業者の特に注意を要する點は商標や扇子の模樣を入れる場合滿洲人の忌む文字、繪などを使用せぬやうにすることである。文字の如きも必ず滿洲人側に於いて吉祥を意味するやうな文字を使用し、レベル等の色彩も紅、黃、綠等の單純色を使用すれば喜ばれる。

第四節　本邦品の將來

奉天に輸移入される紙製品は前述の如く地理的に有利な立場にある本邦品が市場を壓し、殊に競爭的立場にある支那製品に對し滿洲國に於いて輸入稅を徵收することになつた爲め本邦品の將來は益々有望視されてゐる。而して一方地場に於ける製造狀態は何うかと云ふに滿洲人側に於ける生產品は紙函が主であつて、他の紙製品は生產技術が劣つてゐるため、到底輸入品に對抗し得ない狀態にあるが、最近日本側に於ける對滿洲企業熱が旺盛になりつゝあるから本邦に於ける斯業者が當地に進出するやうになれば輸移入品は相當影響を受けるものと見られてゐる。

第五節　奉天に於ける紙製品工業

日本人側　當地日本人側に於いて製造される紙製品は紙函、提燈、煙草用紙函、レベル及び寫眞臺紙がその主なるものであるが、紙函製造業者は滿洲人側斯業者の壓迫を受け同業者は僅かに二軒あるのみで、日本人側の一部に於い

て需要される菓子箱類を製造する程度に過ぎず、殆んど問題とならぬ。

提燈は奉祝用提燈等が一般に需要されてゐるが普通提燈の需要は極めて少く同業者は二軒あるのみである。煙草紙函は當地東亜煙草株式會社が主なる需要先であるが、これは當地の滿洲オフセット印刷株式會社に於いて印刷納入してゐる。一ヶ年の需要高は、小函、印刷用ボール包裝紙等を併せ約二十萬圓に達してゐる。尚同所に於いてはレベル等も生産してゐるが、價格の點で内地製品に壓迫を受け餘り振はぬ。

寫眞臺紙は事變後本事業に着目した本邦當業者が當地に工場を設け生産するに至つたもので、當地浪速通り寫眞機商木村洋行内に東北寫眞臺紙工廠なる名稱で製造販賣してゐる。開業後日が淺いが、將來はアルバム類も生産する方針であると云ふて居り、運賃稅金の點で輸入品は今後相當壓迫を受けるものと見られてゐる。

滿洲人側　滿洲人側に於ける紙製品としては紙函類がその大部分を占め、他の製品は殆んど見るべきものはない。現在城内に於ける紙函製造業者は約四十軒あるが、その多くは家内工業式のもので比較的規模の大なるのは二、三あるに過ぎない。主なるものを示せば次の如くである。

工場名	所在地	經理人	一ヶ年生産高	職工數	工場名	所在地	經理人	一ヶ年生産高	職工數
吉慶永	奉天小西關	王樹棠	各種紙箱合計十萬千箱	五名	永魁興	小西關電車路	賀永魁	各種紙箱十萬箱	五名
福和祥	商埠地一經路	趙芝武	十五萬〃	八〃	永生號	〃	賀出忠	〃	七萬六千〃
同業新	小西區門外	趙湘雲	七萬七千〃	四〃	豐合隆	〃	賀兆龍	〃	六萬一千〃
德順祥	小西關大宇街	喬俊山	七萬七千〃	四〃	公興達	小西區門外	楊子璋	〃	十萬〃

工場名	所在地	經理人	一ヶ年生産高	職工數	品名	單位	價格	備考
華業工廠	大北關	李華興	〃 十萬〃	五〃	靴函	百個	現大洋二元乃至二元八角	商標は別注文とす
大兵號	大西關	吳董忱	〃 七萬六千〃	四〃	帽子函	〃	三元乃至四元五角	〃
					漢藥函	〃	一元乃至三元五角	〃
					菓子函	〃	七元	商標附

次に滿人側に於いて生産される紙函の主なる種類及び價格を示せば左の如くである

品名	單位	價格	備考
石鹸函	百個	現大洋一元乃至一元一角	商標は別注文とす
煙草函	〃	一元二角	〃

三　天　津

第一節　本邦品と外國品との競爭

紙製品は其種類非常に多きも個々の輸入金額僅少、且つ製品の種類により玩具、文房具、寫眞材料、其他に區別さるゝも海關統計中には紙製品としての數字は掲げてゐない。從つて統計を基礎とする正確なる需要狀況は知り得ないが、當業者の言を綜合した需要狀況並に本邦品、外國品及び當地製品の競爭狀態は次の如くである。

玩具　紙製玩具の主なるものは紙面具、紙風船、落下傘、寫し繪、繪紙、玩具短銃用紙彈、紙人形等であるが、其需要數量は極めて僅少で、金屬製、セルロイド製玩具に比すれば殆んど問題とならない。玩具短銃用紙彈は數年前迄は本邦品が可成需要されてゐたが、玩具短銃輸入が禁止されてからは其需要は激減した。安物紙人形、紙面具は殆ん

現大洋一元は金圓の九十五錢見當（十月中平均相場）
（昭和七年十一月大阪市奉天囑託員報告）

ど當地製品で、本邦品は一部分に過ぎず、大部分は奥地に仕向けられる。歐米品は價格割高の爲め殆んど輸入されて居ない。

扇　本品は夏期の必需品であるから北支那、西北支那全般に亘り年々非常に多數需要される。從來は本邦品が可成輸入されてゐたが、本邦品は形小さく、値段高きに拘らず耐久力弱く、且つ一般支那人の嗜好に適せざる爲め、需要年々減少し、最近では僅かに在留邦人及び上流支那人の一部に需要さるゝに過ぎない。一般支那人向扇は殆んど上海から移入されてゐる。尙上海品移入統計は昭和五年度百四十二萬四千餘本、價額七萬一千二百餘海關兩に上つてゐる

團扇　目下の處需要は在留邦人のみに限られて居る爲め需要數量は僅少である。然し最近少數支那人中に於て本品は携帶に不便なるも、家庭常備品としては扇子よりも便利、且つ裝飾的なるを認め珍重されつゝある外、在留外人間にも弗々需要を見つゝあるから形態、色合、模樣等を改善し、支那人の嗜好に適するものを提供すれば、將來新販路を開拓するは決して至難ではないと思はれる。

文房具　大正十一、二年頃迄は大阪方面より當地洋紙取扱邦商へ向け盛んに送られてゐたが、其後打續く排日貨運動の爲め、本邦品の取扱困難となりたるに加へ、日本政府の原紙輸出奬勵金制度の實施に伴ひ、原紙價の低廉となり文房具製品を輸入するより原紙を輸入し當地に於て製造する方が遙に有利となつた爲め、紙商、印刷所、文房具商等で自家製造に着手するに至つたから本邦品の輸入は年々減少した。文房具中主なるものに就き需要狀況を示せば次の如くである。

(イ)手帳　各地の官吏、學生、商人間に相當需要されて居る。以前は叙上の如く本邦輸入品が優勢を示して居たが當地製品擡頭してより本邦品は漸減し、最近では皮表紙及び高級品に限られ、一般品は當地製品の獨占に歸して居る外國品は高級品が一部在留外人に需要される程度で一般支那人には殆んど需要がない。

(ロ)ノート　普通品は各地の大學、中學生に、安物は小學兒童に多數需要されてゐる。曾ては本邦品が盛んに輸入されたが當地製品擡頭して以來漸減し、最近では在留邦人、外人並に上流支那人用高級品が輸入されるに過ぎず、普通品は當地製品の獨占狀態である。

(八)帳簿　一般華商は依然舊式帳簿を使用して居るが、在留外人、邦人、大都會地の支那官廳、大會社、大工場、新式銀行は何れも洋式帳簿を使用して居る。以前は本邦品、外國品が輸入されたが、當地製品が擡頭してより漸減し最近では當地製品の獨占に歸し外國品、本邦品は一部特殊帳簿に限られて居る。

(ニ)紙石板　本品は大正十一、二年頃迄は各地小學校に可成需要されたが、其後安物ノートが製造されたるに加へ奉天より價格低廉な石板が移入された爲め、需要漸減し、最近では主として安物が奥地に需要されつゝある。從來本邦品は盛んに輸入されたが、當地製品擡頭して以來本邦品の需要は減少するに至つた。

(ホ)封筒　封筒には洋式封筒、新式封筒(洋紙製長形)、日本封筒、支那封筒の四種がある。在留外人は全部洋式封筒を、邦人は日本封筒、新式封筒を使用してゐる。一般支那人は殆んど支那封筒を使用するが、最近支那官廳、大會社、大工場、大商店、學生間には新式及び洋式封筒の使用流行しつゝあり、其需要量は年々增加の傾向を示して居る

從來在留外人向洋式封筒は主として外國より、在留邦人並に支那人向洋式、新式及び日本封筒は本邦より輸入されて居たが、日本封筒を除いては當地で製造される關係上、外國品、本邦品の輸入は減少し、年々支那製品に販路を侵蝕されつゝある。最近の需要割合は大體次の如くである。

新式封筒	本邦品	三割
	當地製品	七割
洋式封筒	本邦品	三割
	當地製品	六割
	外國品	一割
日本封筒	本邦品	七割
	當地製品	三割

尙本品は當地印刷所に於て一部製作するものもある。

支那封筒　當地製品　全部

(ヘ)ファイル　在留外人、邦人並に大都會地の支那人新式銀行、大會社、大工場等に需要されるが、使用壽命永き爲め、目下の處毎年の需要數量は僅少である。尙本品は當地に於て未だ製造されてゐない關係上、本邦品、獨逸品、米國品等が輸入され、其割合は各三分の一づゝと見られて居る。

(ト)水取紙臺　本品も亦在留外人、邦人並に都會地の新式銀行、大會社、大工場等に使用されるが、使用耐久性ある爲め需要數量は僅少である。從來は主として本邦品が輸入されたが最近は逐次當地製品に販路を侵蝕されつゝある

(チ)紙挾み　各地の中學生及び小學兒童に相當需要されて居たが、當地に安物が製造さるゝや本邦品の輸入は激減し、最近では殆んど輸入不引合の狀態である。

ナプキン　從來西洋料理店は主として布を使用して、紙ナプキンの需要が無かつたが、最近本品の反つて經濟的なることを知り一般西洋料理店、カフエー等に於て盛んに使用するに至つた上、高級支那料理店に於ても本品を使用する傾向を生じて來た爲め需要は漸次增加してゐる。外人經營の高級料理店、カフエーでは今尙價格割高な外國輸入品を使用してゐるが、其他は殆んど割安の本邦品を使用して居る。特に將來支那料理店で本品を一般的に使用することにもなれば需要は更に增加すべく、當地に製造工場の設立を見ざる限り本邦品の將來は有望視される。

提燈　從來本邦紙製提燈の需要は在留邦人に限られ、最近は漸く一部外人、上流支那人間にも需要さるゝに至つたが數量的には僅少である。元來此種提燈は純日本式で支那人の嗜好に適しない爲め、一般支那人間の需要を喚起するに至らないが、現在一般支那人家庭に於て室內裝飾用品として可成需要されて居る支那製宮燈（一種の紙製鈎燈籠やうのもの）にヒントを得て支那人嗜好に適するやう改善すれば將來或程度の需要を得るに難くないであらう。

レベル　本品の需要は北支に於ける製造工業の發達に伴ひ逐次其數を增し、最近では平津一帶は勿論、遠く保定、唐山、太原等河南、山西の各都會地にも可成需要されつゝある。特に支那人は牌子を重んじ、華美なレベルを好む關係上、小規模なる家庭工業式製品が反つて大資本工業製品より華美高價なレベルを使用する傾向が著しい。本品は一時は本邦品の獨占する所であつたが、當地の印刷工業が發達してより、印刷機械製安物レベルの販路は當地製品に奪はれ、亞いで數年前より石版製美術レベルの中比較的製造簡易なるものも當地にて製造して居るから、從來の本邦品の地位は多分に當地製品に侵蝕されて來てゐる（本品製造業邦商一、華商三）然し色彩物及び高級品は未だ當地に於

て製造されてゐないから、本邦品が依然獨占的地位を占め年々相當金額の輸入を見てゐる。

トランプ　在留外人、邦人並に上流支那人間に家庭遊戯用として相當需要されて居るが、殆んど米國品で、自轉車印、輪印、桃印、八〇八印等の賣行最も良好である。

花札、カルタ　需要は在留邦人に限られてゐる。花札は家庭遊戯用として相當使用されてゐるが、カルタは麻雀、花札等に押されて殆んど使用されて居ない。

造花　紙造花には室内裝飾用、窓飾用、花輪用、徽章用、婦人裝身用、瓶差し用等種々あるが、何れも古くより北支那、西北支那全土に亘り非常に多數需要されつゝあり、北平、天津が其製造中心地(家庭工業)を爲してゐる。本邦品は瓶差し花が在留邦人及び上流支那人家庭、女學生間に、花輪は在留邦人間のみに需要される程度で其數量は僅少である。

寫眞臺紙　本品は寫眞業者の必需品なる爲め、需要は北支那、西北支那全般に亘り、一年の需要數量は可成多額に上つて居る。從來は本邦品、獨逸品が主として輸入されて居たが、數年前當地に製造工場が設立されてから(邦商一、華商三)は日獨品の輸入減少し、最近は當地製品の獨占狀態を示して居る。

アルバム　需要は殆んど在留外人、上流支那人並に邦人間に限られて居る。財界好況を呈し、素人寫眞の流行せし頃は一時可成の需要を見たが、數年前より一般財界不振に陷りたると、寫眞機及び同材料品の輸入稅暴騰し、素人寫眞熱下火となるに及び其需要は急に減退するに至つた。從來は主として本邦品、獨逸品優勢にして、米國品、英國

品、佛國品之に亞いで輸入されて居たが、前述の如く數年前より當地に設立された寫眞臺紙製造工場がアルバムの製造をも兼ね居る爲め、安物アルバムは之に奪はれ輸入杜絶し、最近では日獨品中少量の輸入あるのみである。

銀行兌換券　外商、大銀行及び華商銀行の大多數は中央政府の兌換券發行權を有し各々多額の兌換券を發行しつゝあるに加へ、奥地各都市の錢舗、總商會、同業公會、個人大商店も亦地方長官の許可を得て各種の角票、銅元票を發行してゐるから兌換券の需要は年々相當の額に上つてゐる。外商銀行は本國より輸入し、華商銀行は銀元票は全部米國より輸入し、角票は北平印刷局又は平津支那印刷業者に製造を委託し、各地方の角票、銅元票は數量多き時は北平印刷局に、數量少なる時は地方印刷業者に製造を依賴して居る。

名刺　本品の需要は一般支那人の文化の進むに伴ひ、逐次其數を增加し、平津一帶は勿論、遠く奥地に迄仕向けられて居る。本品は從來は本邦品が百枚宛小函入として輸入されて居たが、當地製品の擡頭してより漸次減少されつゝある。尤も當地製品の原料紙は本邦輸入品が大部分を占めて居ることは勿論である。

カレンダー　在留外人、邦人の需要は從來と大差なきも、支那人間の需要は年々增加の傾向がある。從來は殆んど本邦輸入品の獨占市場であつたが、本邦當業者が支那人の嗜好に特別の注意を拂はなかつた爲め、當地に於ける印刷業の發達に伴ひ當地製品の擡頭を見るに至つた。之が爲め本邦品の需要は年々減少し、最近に於ては殆んど當地製品の獨占狀態を示して居る。

テープ　本品は包裝上括り用及び室内裝飾用として需要され、殆んど本邦品の輸入に俟つて居るが、最近は此種用

途に護謨バンドが盛んに需要せらるゝと内地の如く船客見送の際にも使用されてゐない爲め需要數量は僅少に過ぎない。

壁紙　色合、模樣華美なるものは支那人の嗜好に適する關係上、最近需要增加の傾向を示し、平津地方は勿論、遠く山西、綏遠、河南地方へも漸次仕向られつゝある。目下の處其需要は洋式家庭に限られて居る爲め多額に上つて居ないらしいが、一般支那人の嗜好に適するものを供給せば相當需要を喚起するものと思はれる。從來は本邦品、獨逸品の勢力相半して居たが、最近は本邦品が市場獨占の姿である。

植木鉢用色紙　都會地の上流家庭、料理店、旅館等に於ては縮み色紙（ナプキンより上質なるもの）を以て植木鉢を包んでゐるが、之等室內裝飾用のものとしては獨逸品最も多く本邦品は未だ見受られない。

カーボンペーパー　本品は外人、邦人を始め支那官廳、大會社、大商店、銀行等に於て可成需要されて居る。目下の處一般支那商店には使用されてゐないが、將來此方面の需要を喚起するに至れば本品の需要は更に一段の增加を示すものと思はれる。當地に於ては未だ本品の製造を見ず主として獨逸品、本邦品、英國品、米國品等が盛んに自國品の販路開拓競爭を演じてゐる。而して目下の處では價格の關係上獨逸品が最も優勢を示し、本邦品之に亞ぎ、米國品英國品の順位である。

紙函　包裝用紙函には大體にボール紙函とダンボール紙函の二種に區別し得る。而して前者は各地紙函製造工場に於て製造され需要亦非常に多い。本品の原料ボール紙は古くより北支に於て製造（新河、鉗記紙板公司にて黃ボール

の製造をなす）されてゐる關係から、平津地方を始め各地に大小無數の紙函工場がある。從つて外國品の輸入は皆無であるが、ダンボール紙函は新興製品なる關係上餘り需要を見ず、價格も割高なる爲め僅かに化粧品製造工場（化粧品は殆んど本邦品を模造又は僞造せる關係から）に於て需要さるゝ程度で、其の數量は少い。然し將來は價格の低下するに伴れ、一般製品の包裝用として需要さるゝに至るべく有望商品として注目に値する。尚當地には本品の製場工造なき爲め本邦輸入品が獨占して居る。

紙器　日本內地に於てはカルトン、塵箱、菓子器、食器、コップ其他種々なるファイバー製品の使用を見受け、新興商品として有望視されて居るが、天津に於ては邦商中一、二がカルトンを使用せる外、右ファイバー製品中の一、二が見本的引合を行はれたらしいが、多數支那人間には需要を喚起するに至らず現在としては問題とならない。但し一般文化の向上に伴れて此種製品の將來は有望ならんと思はれる。

第二節　取引狀況

當地にて取引さるゝ紙製品を一般品と特種品とに分ちて見るに、一般品は

（イ）外國品　取扱華商が當地外商より買入れるものと、上海華商問屋筋より買入れるものとの二種ある。當地取引は二週間拂ひ、上海取引は月二回拂ひが原則である。

（ロ）本邦品　華商の川口出張員が川口で買付をなすものと、當地取扱邦商、華商が直接本邦より仕入るものとある

川口取引は月二回拂ひであるが、當地邦商、華商の直接取引は現金拂ひを原則とする。然し從來の取引慣習乃至は信用如何により十五日、三十日の期限付のものもあり、商店により必ずしも一定して居ない。當地邦商對華商問屋筋の取引は主に現金取引である。

(ハ)當地製品　工場が地元問屋へ卸す場合と、在津奥地客帮へ卸す場合と直接奥地商へ卸す場合とある。對地元取引は月二回拂ひを原則とするが、最近は毎二回拂ひの際は一部分づゝを入金し節期に總決算する向が多い。對奥地取引は荷物發送一、二週間後拂ひの莊票取引（注文主は荷物發送一、二週間後當地錢舗支拂ひの約手たる莊票を工場に渡し、工場は支拂指定錢舗に該莊票に對する支拂ひを確め荷物を發送する）であるから、決濟は確實に行はれて居る。

(ニ)上海品　扇は洋紙取扱店が、雨傘は奬廠子（土產品取扱商）が上海より移入する。取引は前者は月二回拂ひ、後者は月一回拂ひである。

(ホ)當地華商對奥地商　當地華商問屋對奥地商の取引は月末拂ひを原則とするが、最近は月末には一部分づゝ入金し節期に總決算する向が多い。但し文房具のみは從來から現金取引が行はれて居る。

次に特種品は、

(イ)レベル　本邦品は主に當地取扱邦商が需要家の注文に應じ日本內地に製造を依賴し、一部は需要家が直接日本內地に注文を發するが、何れの場合も注文引受けと同時に三、四割の手付金を納入せしめて居る。當地品は製造工場が需要家の注文に應じ製造する。工場は注文引受けと同時に三分の一の手付金を取り、見本出來上がれば一應注文

主に提示し注文主の同意を得れば殘額の半分を取り、製品納付時に決濟を完了する。

(ロ)カレンダー　當地品は製造工場が（專門工場なく印刷屋が兼業して居る）銀行、會社、商店、其他の注文に應じ製造する。工場は注文引受けと同時に三分の一の手付金を取り、製品納付と同時に殘額を受取る。

(ハ)兌換券　北平印刷局又は各地印刷所は發行者の注文に應じ製造する。兌換券原紙は品質良好にして高價であるから、印刷屋は注文引受けと同時に五割以上の手付金を納入せしめ、製品納付と同時に殘金を受取る。

(ニ)造花　製造業者は注文品に對しては現金取引をなし、然らざるものは保證人付委託販賣をなしつゝある。

一般紙製品の需要期は扇、團扇、傘類は夏季必需品であるから需要亦夏季に限らるゝが、其他の製品は四季を通じ平均して需要され、特別需要期と云ふものはなく、一般市況の影響を受け春秋兩期及び年末が比較的に取引が多いのである。

而して紙製品は種類頗る多く煩雜を極め、同一種類のものと雖も原紙、型、色合、模樣により値段に非常な差異あり、工場、取扱商によつても異なるから正確な値段を擧げる事は至難である。併し參考迄に需要多い支那製品の標準値を示せば左の如くである。

海外市場に於ける本邦品

種類	單價		打値		手帳		本		〇・二〇元	打	一・八〇元
扇	本	〇・一〇元	打	〇・八〇元		個	〇・一〇	〃	〇・九〇
	〃	〇・一六	〃	一・四〇		〃	〇・一四	〃	一・三〇

	〃	○・二○	〃	一・八○
封筒	打	○・○三	哥	○・三○
	〃	○・○六	〃	○・六五
	〃	○・一二	〃	一・○○
水取紙臺	個	○・三○	打	三・○○
	〃	○・四○	〃	四・○○
	〃	○・五○	〃	五・五○
カレンダー	個	○・一五	〃	一・二○
	〃	○・二○	〃	一・八○
	〃	○・二四	〃	二・三○
	〃	○・三○	〃	三・○○
名刺	函(百枚入)	○・三○	打	三・○○
	〃	○・四○	〃	四・二○
	〃	○・五○	〃	五・四○
雨傘	本	○・五○	〃	五・七○
	〃	○・六五	〃	七・○○
	〃	○・八○	〃	八・八○

第三節　本邦品の將來

本邦製紙製品の當地市場に於ける需要歴史を考察するに、曾て需要旺盛であつたものは何れも當地に製造工場設立され、當地製品に逐次販路を侵蝕され、甚だしきは輸入全く杜絕したものすらある狀態である。紙製品に對する將來の需要は、支那人文化の發達、之に伴ふ生活程度の向上により益々增加する可能性充分に認め得らるゝも、之に從ひ當地製造工場の技術も進步して行くから、失はれた本邦品の地盤を恢復する事は至難である。故に本邦當業者としては次の二項に留意する事が得策であらう。

販路の擴張開拓　先づ第一に考ふべきは現在當地に於て製造されざるもの、又は現在の需要なくとも將來有望視さるゝもの〻販路擴張、新販路開拓に努むる事である。

(イ)販路の擴張　カーボン紙、ナプキン、日傘、ダンボール紙函等は、需要少き爲めと製造簡易ならざる爲め、未だ當地に於て製造されないが、何れも將來の需要は增加すべき性質のものであるから、本邦當業者としては、速に專門家を派遣し市場を研究せしめ以て販路の擴張に努むる必要があらう。

(ロ)新販路の開拓　團扇、提燈の需要は在留本邦人に限られて居たが、最近漸く一部支那人間に其價値を認められ需要さるゝ樣になつたから、本邦當業者としてはこの際專門家を派遣し支那人嗜好の色合、模樣、型を硏究せしめ、支那人の嗜好に適するものを提供し、支那人の需要を喚起せしめ以て新販路の開拓に努むる必要があらう。

工場の移轉　本邦當業者の努力により前記各商品の賣行良好となれば、利に悟い支那人は必ずや當地に於て之が製造に着手すると豫想せねばならぬ。かゝる場合何等對策を講ぜなければ文房具、カレンダー等の前轍を繰返し當地製品に販路を侵蝕され、徒に利益を支那人に壟斷されねばならない。故に本邦當業者としては時期を見て工場の支那移轉をも考慮し、之により一方關稅障壁を越えて海外進出を企圖し、他方本邦獨自の工業を擁護し、支那製品擡頭の餘地なからしむることが必要であらう。

第四節　天津に於ける紙製品工業

當地に於て製造さるゝ紙製品の主なるものは、各種文房具、造花、紙函、寫眞臺紙、カレンダー、レベル、名刺、

大阪の紙製品工業

玩具、兌換券等である。造花、寫眞臺紙、レベル、紙函等は專門的に製造されて居るが、文房具、カレンダー、名刺玩具、兌換券等の製造は殆んど文房具店、洋紙店、印刷屋が兼營して居る。天津に於ける主要製造業者を擧ぐれば次の如くである。

（一）文房具製造業者

中和文具莊	華街	北馬路	春記	〃	華街	東馬路
秀華齋	〃	鍋店街	永興行	〃	〃	〃
義合齋	〃	侯家后	祥記	〃	〃	東南城角
裕興文具莊	〃	估衣街	振信商行	〃	北門西	
榮信齋	〃	侯家后	華信號	〃	侯家后	
文義齋	〃	估衣街				
文華齋	〃	〃				
文竹齋	〃	〃				
立德昌	〃	〃				

（二）文房具及玩具製造業者

洪昇德洋紙莊	華街	鍋店街			
成記洋紙行	〃	官銀號			
恒記	〃	鍋店街			

（三）レベル、カレンダー、名刺製造業者

精華印書局	華街	鍋店街			
商益印刷所	〃	〃			
益生	〃	北馬路			
天津	〃	〃			
協成	〃	南市榮業大街			
藤石館	〃	侯家后			
灣秘閣	〃	〃			
義興文	〃	官銀號			

義利印刷材料局	〃	東馬路	東華	〃	〃
義文齋	〃	〃	早川印刷所	（〃）	花園街
南開印刷局	〃	南開大街	精藝印刷所	（〃）	宮島街
中東石印局（邦商）	日界	福島術		〃	明石街

（邦商にして、レベル專門）

（四）造花工場

天津には約四十軒の造花工場（小規模工場も含む）があるが、内規模大なるものは次の四軒である。

順興花局	華街	南宮大街	永盛和紙盒莊	〃	白衣菴胡同
鼎昌	〃	西頭橫街	永義和	〃	東馬路
公記	〃	天候宮內			
文勝	〃	〃			

（五）紙函製造工場

（六）寫眞臺紙製造工場

佳麗紙盒鋪	華街	崇仁宮	茂林玉照相材料工廠	華街	白衣菴胡同
立興成	〃	〃	中國草板紙工廠	〃	小劇庄
同慶和	〃	城內津道後	滙川公司（邦商）	日界	宮島街

（昭和七年九月天津大阪貿易調査所報告）

四　漢　口

第一節　本邦品と外國品との競爭

海外市場に於ける本邦品

漢口に輸移入される各種紙製品は年額大約百萬兩(海關兩)と稱されるが、支那品と外國品半々の割合で、支那品は上海製品が大部分を占め、外國品は本邦品が六、七割即三、四十萬兩を占めて居る。今、最近三ヶ年の漢口海關統計を示せば左の如くである。

最近三ヶ年漢口內外國紙製品輸移入額

(單位海關兩)

品名	昭和三年	同四年	同五年
支那品			
カレンダー	一四、八九二	二三、七〇四	八、一〇四
扇子	一五、八四六(五五六、〇〇〇本)	二八、八〇〇(九〇〇、〇〇〇本)	五二、二六二(一、二五一、〇〇〇本)
提燈	五一、八二九	八六、一六七	五四、九四九
傘	一、七〇五(四、七三五本)	一、〇六〇(二、六一七本)	二、二八〇(六、二三六本)
紙函			一、二三一
紙卷煙(カード)草用(包裝紙)	五二、五三六	一八三、四四九	一三五、四三五
	一五八、九八二	四七六、二五七	九四、九二八
計	二九五、七九〇	七九九、四三七	三四九、一八九
外國品			
カレンダー	三、一四七	二三〇、九四三	二二六、三一四
扇子	六三、一〇二	一三二	五五二
提燈	二〇〇、二五八	五一、五六二	二三、九四五
和傘及日傘	三〇、八二四	一二八	一一三、八六七
カルタ及玩具	一二、〇四五	三二、〇〇九	五、六六二
手帳及帳簿		一六、九二三	二六、一九七
廣告用品		一九、八四二	
計	三〇九、三七六	三五一、五三九	三九六、五三七

而して此等紙製品中カルタ(トランプ)は本邦品が主に廉價な下等品で需要相當なるに反し、歐米品は高價な上等品のみで需要甚だ少いが、一般に言へば、近來外支人間に於ける麻雀の流行益々甚だしいものがあるので、カルタの賣行は漸次減退して居る。

紙傘、紙扇類は本邦品は値段割安な支那品に壓倒され殆んど輸入を見ず、手帳、帳簿類は外國より輸入されるもの甚だ少く、大部分原料紙の儘輸入された上製造販賣され、ナプキン、封筒、便箋等も上海で原料紙の儘輸入した上、製造したものが漢口に移入されるので、本邦及歐米よりの輸入は甚だ微々たるものである。

第二節　需給並に取引

需要狀況を種類別に見ると、

パツキング、ケース　支那人向衣服入用、値段割高にて賣行微々、

玩具　セルロイド、ゴム及鍼力製品のみで、紙製品殆んど無し、

扇子　支那人向黑色物、支那蘇州、杭州產に壓倒さる、

團扇　殆んど全部本邦人向、支那人向は蘇州、杭州產に壓倒され輸入杜絕、

和傘　本邦人及歐米人向、支那人向は湖南及漢口產に壓倒され輸入皆無、

提燈　歐米人向岐阜提燈(電燈用)、年約千五百個の輸入あり、

手帖、帳簿　上海及漢口製品多く、本邦品殆んど皆無、

封筒　歐米人向橫封筒、上海製品に壓倒され輸入極めて少し、

ナプキン　歐米人向多し、上海製品に壓倒され輸入極めて少し、

レベル　輸入極めて微々、

カルタ　各國人向下級品トランプ、麻雀の流行により輸入漸減、

萬國旗　年約三千枚の輸入あり各國人向、

カレンダー　支那人向、陰陽兩曆並記のもの、正月贈進物用として歡迎さる、

便箋　本邦人向、

裁縫板　本邦人向

裁縫函　同

需要時期は品種によつて異なり一樣でないが、先づ扇子、團扇は六、七月中、提燈は七、八月中、封筒はクリスマス前後及び正月、カレンダーは十二月、正月中にしてその他は一定して居らぬ。

最近の卸及小賣値段、

		卸値段	小賣値段
パツキング、ケース	百個	一〇〇・〇〇弗	一・八〇—二・〇〇弗
扇子	一	一個	〇・三〇—〇・四〇
團扇	一	一本	〇・〇四—〇・〇五
扇	一	〃	〃
和傘	一	〃	一・五〇—四・〇〇
提燈	一	一個	〇・四〇—五・〇〇
封筒	一	十枚	〇・〇六—〇・〇七
ナプキン	千枚	百枚	〇・六〇
カルタ	一哥	四五・〇〇	一組(二ツ)　一・〇〇
萬國旗	一	百枚	二・〇〇—三・〇〇
カレンダー	一	一個	〇・三〇—二・〇〇

裁縫板	一枚	三・〇〇
裁縫函	一個	一・〇〇

本邦産は昨六年秋排日貨風潮發生以來、漢口支那商が在本邦或は上海支那商の手を經て輸入するもの大部分を占め漢口邦商の手に輸入されるものは甚だ少い。

代金の決濟は邦商の本邦に對しては普通二ヶ月拂、支那商に對しては現金賣で掛賣は殆んど無い。

而して本邦品の將來は、扇子、提燈、カレンダー等が多少有望なる外、支那産安物の壓迫を受けるので發展至難とされて居る。

第三節　漢口に於ける紙製品工業

歐米人側には紙製品製造業者なく、本邦人側では一軒小規模印刷業者が注文に應じて洋式帳簿、便箋、封筒類を製造するのみである。支那人側に至つては該製造業者甚だ多いが、何れも小規模で、製品も大體安價な粗惡品ばかりである、然し支那人間に相當需要があり、勢力侮るべからざるものがある、其主なる製造業の現況略左の如くである。

(イ)紙傘　西會館、大夾街、老水巷河街等に雨傘店なるものが五、六十軒あつて、直柄雨傘、彎柄文明傘（柄端を曲げた晴雨天兼用の新式傘）有花文明傘（同上模樣物）等を製造販賣して居る。而して此等紙傘は數年前本邦に輸出されてゐたが、其後品質不良、値段不引合の爲め輸出杜絶した。然し一般支那人向として需要多く、殊に有花文明傘に

至つては、夏季婦女子用の日傘として歡迎され需要漸增の勢である。

(ロ)紙函　三義殿、後堤街一帶に紙函製造を營む者が二十餘軒あり、每軒三、四名乃至七、八名の職工を使用し、注文に應じて各種の紙函を製造して居るが、從來食料品、菓子、化粧品、靴、靴下、帽子、文房具、其他雜貨の包裝に支那紙、蓮の葉等を使用して居たものが、漸次紙函を改用するに至つたので、之に伴つて其需要も次第に增大して居る。

(ハ)油紙　中山路、夾街一帶に油紙、油布及雨衣の製造販賣を營む者が二十餘軒あるが、何れも製品の品質粗惡である、唯値段が甚だ割安なので支那人間に相當需要がある、油紙の卸賣値段は左の如くである。

百枚に付	大號	十五弗、	中號　十弗、　小號　五弗

(ニ)扇子及團扇　之が製造業者は甚だ多いが、主なものは帝主宮、萬壽宮一帶に在る七、八軒で、何れも製造卸賣を營んで居る。而して其製品は主に安價な下級品のみで需要相當にあるが、上中流支那人は一般に蘇州、杭州及上海産を歡迎して居る。

(ホ)提燈　市内各茶館に寄寓して提燈の製造販賣に從事して居る者は甚だ少くないが、其製造は金骨或は竹骨の支那提燈が主で、陰曆の年末及正月、其他祝日前に相當繁忙な外、平生は一般に甚だ閑散である。

(ヘ)手帖、帳簿、便箋、封筒　七、八軒の印刷業兼文房具販賣店に於て本邦産原料紙を仕入れ洋式帳簿、手帖、便箋、封筒等を製造販賣して居るが、此等製品は支那人間に相當需要がある。

(ト)其他　支那式帳簿、便箋、封筒、對聯(對物の掛軸)、中堂(客室の正面中央にかける大幅の掛軸)及文房具等の製造を營む者は甚だ多く、蘇帮(江蘇人組)、本帮(當地人組)合計百餘軒と稱されるが、就中蘇帮の製品を以て優良とし、一般支那人間に相當需要がある。

(昭和七年十月大阪市漢口囑託員報告)

五　上　海

第一節　需給の概況

本邦製紙製品たる紙器、玩具、扇子、團扇、和傘、提燈、手帳、帳簿、封筒、ナプキン、レベル、骨牌其他の紙製品中、從來當地に於て相當賣行のあつたものは骨牌就中トランプのみに止まり、夫れも滿洲事變による排日以來賣行は絶へた。扇子、團扇、和傘、提燈、封筒、手帳、ナプキン等は單に當地在留邦人向に輸入さるゝに過ぎず、數量は極めて少ない。紙器、帳簿、レベルは當地邦商にて製造され輸入に俟たない。之等當地邦商製品中帳簿及びレベルは專ら當地邦人商社相手なるも、紙器は支那人方面にて賣行があり、有望なる事業である。故に以下主としてトランプ及び紙器製造業に就き詳述しやう。

第二節　品種別による需給

トランプ　支那人がトランプの遊戯を知るに至れるは約三十年前のことにして、創立百五十年の歴史を有するU.S.

Playing Card Co. の宣傳せしに因る。同社は爾來支那市場に獨占的販路を確保し、現在に至るも尚他の追隨を許さぬ程度の活躍をなしつゝある。同社製品の商標は左の如くである。

808 (Bicycle) {1st Quality / 2nd Quality}

999 (Steam Boat)

808 は高級品にして、支那奥地向には 999が最も多く需要され、同社製品の八割を占めてゐる。十年前の好況時には一ヶ月一千箱乃至二千箱(一箱六哥入)の輸入を見た、この會社の獨占の永續性の理由如何と云ふに、他の商品よりも(骨牌)は商標を迷信的にまで重要視され、他の商社が容易に賣込成功の見込をつけ得なかつたに因る。然るに七、八年前我國の Universal Playing Card Co.(環球紙牌公司)が最初の挑戰者として登場し、前記會社の 808 2nd Quality を目標に 888 なる商標を用ひて競爭を開始し、幸に成功を收め好況時には一ヶ月五百箱程度の輸入をなす迄に至つた。同社製品は當初本邦品に非るを粧ひし爲め、數次の排日にも左して影響を受けざりしも、販路の擴張に從ひ漸次本邦品なることを看破さるゝに至り、今次排日に於て完全に賣行の停止を見た。本邦品の成功に刺戟され、一時各國品の競爭者續出の傾向を生じ、夫々見本を配布して宣傳に努めたるも多くは失敗に歸し、たゞ次の二品のみ稍々見るべき成績を收めた。

Goodall & Co. (英國) 575　　2. ハルセー號品

而して最近の本邦品荷動停止に乘じ、之等外國品は輸入稍々增加し、Goodall 社の 575は U. S. Playing Card の999

Universal Playing Card の 888 の販路を多少浸蝕した。Goodall の宣傳は四年程以前より行はれ居たるも、排日勃發により漸やく成功を收めたるものである。本邦品も排日さへ終熄すれば原價に於て割安なる關係から、販路を取戻す自信ありと當業者は稱して居る。

トランプの支那に於ける需要は季節により差あり、大體九月より翌年三月頃迄を最盛期とし、この期間は農閑期にして特に舊正を控ふるが故である。舊正がかゝる遊戯品取引の目標となるは支那の特徴とする。需要區域は長江以南にして、上海、汕頭、厦門方面に賣行よく、北支は文化程度低き爲め需要は殆んどない。

當地に於ける値段は 808 1st Quality にて一哥八十兩見當、同 2nd Quality にて四十兩見當、999 ハ三十兩見當888は三十五兩見當である。

當地市場への賣込に就き注意を要することは、支那人間では該品が賭博に用ひらるゝと云ふ點である。即ち日本に在りてはトランプは玩具なるも、當地にありては賭博の用具にして謂はゞ眞劍勝負に用ふる刀に等しく、只一點の疵も有つてはならぬ。値段の安きことは勿論喜ばるゝも、第一條件は品質にあり、不透明、彈力性、滑り良きこと、無疵なること等の點に最も注意を要する。日本にては美麗なるものが好まるゝも、支那に在りてはその點は問題ならず只前記の如き賭博用具としての條件を具備するの要がある。支那製品の如きが成功せざるは、かゝる品質上の條件を到底企及し得ざるが故である。

トランプの取引習慣は一般雜貨と異る所なく、賣込先は東洋莊及び西洋莊方面である。今、參考の爲め最近四ヶ年

の上海港骨牌輸入高を示せば左の如くである。

一九二七年	一一一、四二四	海關兩	一九二八年　二〇一、二一二海關兩
一九二九年	七五、一五八		一九三〇年　一四二、三七〇

紙器　當地にて需要さるゝ紙器は全部當地にて製造供給せられ、本邦品及び外國品の輸入は全然無しと云ふも可である。當地に於ける紙器製造業は外人經營のもの、本邦人經營のもの及び支那人經營のものゝ三種あり、主として當地各種工場に製品を賣込みつゝある。當地にて需要ある紙器の種類は左の如くである。

一、荷造用大函

（イ）フアイバー製　靴箱等
（ロ）チツプボール製
（ハ）ヘンプ付チツプボール製　卵包裝用
（ニ）ダンボール製　硝子器箱等

二、小函類（化粧用品函）

（イ）ストロボール製
（ロ）白、茶、鼠ボール製

需要の時期は九月より翌年五、六月頃迄にして、十月、十一月を最盛期とする。當地の紙器工場中最大なるは左の工場である。

中國板紙製品公司　（China Fibre Container Co.）　海州路五號

海外市場に於ける本邦品

大阪の紙製品工業

同會社は米國人經營にして、資本金百萬弗見當、原料用紙を米本國より輸入し之に加工をなす。各種函類を製造するも、主たる製品は船積用及び荷造用大函、就中ファイバー製及びチップボール製である。外國人經營の紙器工場は右の外に尙小規模のもの二、三軒ある。邦人經營工場中主なるものは左の五軒である。

上海紙業公司	漢口路六號	恒誠洋行	密勤路久耕里A三〇一號
東華紙器工業廠	周家嘴路七〇號	秋葉紙器製造所	吳淞路長安里九六號
恒誠紙器工業廠	斐倫路二二三號		

この外極めて小規模のもの尙二、三軒ある。之等工場は主として化粧品小函及びダンボール、バツキンギ、ケースの製造に從事せるものにして、多くは昨年來爲替下落による原料安に乘じ、千弗、五千弗又は一萬弗位の小資本にて初めたもので、右の內、上海紙業公司は創立稍々早く、投資額は五萬兩見當(神戸二見商店を主たる出資者とす)にして活躍最も目覺ましく最近の爲替有利に乘じ從來のダンボール函、小函の外にチップボール函の製造をも計畫中の由。

支那人紙器工場は甚だ多く、資本金十萬弗見當のもの三、四軒ある。その內規模最も大なるは民豐造紙廠にして、一日二十噸の製造能力を有し、昨年あたりより邦人製品の販路を浸蝕し初めた。

邦人製品により現在最も有望なるはゴム靴函である。之は當地に於けるゴム工業の發達に因る。ダンボール、バツキングも邦人製品は有望で、之は本邦製ストロボールに當地で加工するものにして、電球工場、硝子工場、魔法瓶工場等の增加と共に需要頓に增加した。支那人紙器工場にても五、六軒のものが價格三千弗乃至五千弗の機械を以てダ

ンボール、バツキング、ケースの製造を始めたるも、技術上の點にて未だ邦人工場製品に及ばぬ。ストロボール製の小函は厚手のものは支那品の方が賣行よく、邦品は競爭し難い、色ボール中では白色ボール製が最も賣行が多い。一般に紙器の取引は直接工場收めにして代金は長期決濟を普通とし、通常每月末決濟をなし居り、外銀小切手又は十日乃至十五日先付の支票に依つてゐる。China Fibre Container Co. の如きは顧客工場と半年乃至二年位の契約を締結しその期間該工場の必要なる函全部を必要に應じ調製すると云ふ方法を採つてゐる。現在排日の爲め邦人工場製品の支那人工場への紙器賣込は勿論公然とは行はれず、支那人工場のみならず外人工場すらもその使用職工が支那人なる爲め、邦人製品なること判明すれば怠工等の態度に出づることあり、從つて外人顧客工場も邦人製品使用を嫌ふ狀態にある。されど排日さへ終熄すれば本事業は有望なる企業たるを失はない。邦人製紙器は外人製品に比し品質劣るものあるも、上等のものは絕對に劣らぬ、支那人間では安いもので見カケの良きものが喜ばるゝも、外人顧客には丈夫なるものが希望さる。當地邦人製造者の日本內地製紙家への希望は、(一)國內と國外との値段を區別し、國外値段の維持に努められ度いこと、(二)値段を引上げる際も急に上げぬこと、急に値上げされると支那人が驚いて買はなくなると云ふ點である。紙器の將來觀としては、爲替關係と內地原料値段如何にかゝるが、需要は益々增しつゝあれば、有望と云ひ得る。

ナプキン 最近當地邦人カフエーの增加と共に稍々輸入され居るも、支那人方面への賣込は未だ望み薄である。支那料理店は未だナプキンを使用するものなく、需要の增加は期待し得ない。本邦製ナプキンの當地輸入商は左の如

くである。

謙源洋行　密勤路八三五號

（昭和七年十一月上海大阪貿易調査所報告）

六　盤　谷

第一節　本邦品と外國品との競爭

本邦より紙製品として當地に輸入せらるゝものは、年額約三萬銖内外のものにして、輸入商品としては極めて僅少である。本邦品中その大部分を占むるものは、目下當國洋灰製造會社の需要に供する洋灰包裝袋を指すものである。その他一般紙製品として當地に需要せられ、且つ外國より輸入を仰ぎつゝあるものに、現在文房具用品がある、之等は主に事務用文具品に屬するものにして、その他寫眞臺紙、アルバム、カード、ハガキ類、提燈、扇子、日傘、雨傘、骨牌、煙草卷紙等を數ふ。但し之等各商品に亘る年別統計を茲に詳かにし難きを遺憾とすれども、年額相當の額に達するであらう。今、同製品の需要狀況に關し大略を述ぶることゝする。

第二節　需給並に取引

需要品の種類　需要品の種類に就て國產品及び本邦製品、其他諸外國よりの輸入品とに區別して其の主なるものを見ると次ぎの如くである。

（イ）文房具　當市場に於ける需要の範圍は相當廣大なるも、本品の製造業未だ發達せず、現在の處多く輸入品に依つて需要を充たし居る有樣である。その主なるものは帳簿、封筒、便箋、書類挾、吸取紙、書類入紙函、ファイル類等にして、當地諸官省、會社、銀行、商店等に需要せらるゝものは、相當の額に上るものと見て可なりである。然るに此の種のもはの殆んど現在は英國品に依つて需要を充たし、本邦よりは未だ同製品の輸入を見ない。之れ取扱業者が何れも印度商に限られ、該店が英國等と古き取引を有する關係上、又連絡上一時に之れを改め難く、且つ同國製品を使ひ馴れたる各官廳方面の需要者も、今日迄の習慣を固守して改めざる點もありて、目下英國品が當市場文房具界を支配し居ると見るも不可はなからう。されど本邦品にして將來當市場に於ける事務用紙製文房具品の用途、並に習慣上需要されつゝある製品の研究に意を注ぎ、根強く市場進出を試みるとすれば必ず邦貨をして充當し得べきものと信じて疑はない。而して當國に於ける之等製品の製造狀態を窺ふも、現在華僑民間に於ける之等の生產技術未だ幼稚にして、到底輸入品に對抗し難き狀態にあり、されば本邦に於ける斯業者の當地進出を促すものである。

（ロ）寫眞臺紙　本品は歐州大戰前後に在りては、本邦品を以て殆んど當市場を充たし居たるものなりしが、一九二八年に於ける排日ボイコット運動の起りし當時より當地寫眞同業者は、結束して寫眞原料購入組合を組織し、專ら華僑人同業者の購入すべき一切の材料は同機關を通じて仕入れる事となりてより、本邦製寫眞臺紙は輸入の跡を斷ち、之に代るに高級品には英國名を輸入し廉價品は上海製品を使用するに至つた。されど本品の需要は當市場にあつては年額相當に大、今後共に輸入品として有望視されつゝあり、依つて之れが對策に意を注ぎ舊市場奪取に努むるこそ、

今後の努力に俟つべきものにして、本邦製品の品質を吟味し、敢て英國品に劣らず、價格の點も上海品に比して餘り高からず、兩者に對抗するの準備を有するを必要とする。之れ現在需要者側より見れば英品高價にして適當ならず、上海品餘りに疎惡にして厭き足らざるの非難あればなり、此の機に於て其の中間品として之れに代らしむるに邦貨は最適品にして、一般需要家の仰望するところなるを以て、茲に再起を促し舊市場奪取に努むること大いに斯業者の奮起に俟つ次第である。

(八)紙製玩具　過去歐洲大戰前にありては本品は多く本邦より輸入せられたるものなれど、漸次土人間にも此の種玩具類の製造をなすもの簇出し、各自獨特の習慣と嗜好に投ぜられ製品の製作せられてより、却つて土地製のもの歡迎せられ本邦よりの輸入絶へるに至る。而して現在玩具に對する當關稅は三割三分の高率を賦課せらるゝにより、廉價品たる紙製玩具こそ全く輸入は不可能なる狀態に置かれてゐる。

(二)骨牌　本品は目下獨逸よりの輸入最も多くトランプ並にバイボツクと稱する暹羅人獨特の骨牌、及び華僑民用紙牌と稱する三種に區別せらる。バイボツク及び支那紙牌等年々の輸入數量は相當の高に上りつゝあり、殊に國民一般は賭博を好む習慣を有し、且つ時期を論ぜず需要さるものなれば、本品の如きは室内娯樂用として、殊に當市場普遍の需要を有するものなる點大いに有望の商品と見做すべきである。當國にありて賭博は政府に一定の納稅をなすものに限り公開を許可さるゝ制度なれば、暹羅用バイボツクの地方農村に於ける消費も亦尠からず、曾て本邦より輸入せられたるものなるが、日貨排斥の影響は遂に我が國よりの輸入を絶へしめ、現在獨逸製品に依つて補はれつゝあり

而して同品は品質遙かに本邦品に優り紙質堅牢印刷鮮明なる點が好評を博して居る。支那紙牌は主に支那製品にして何れも廣東より輸入さるゝものである。

(ホ)扇子、團扇　常夏の國でありながら本品の需要に至りては殆んど之れを常用する習慣だになく、團扇としては當地に產するものゝ中に木葉そのものを利用せるもの、烏羽を以て造れるもの等土人間に使用せらるれど、極めて少數の間に限られ居れば紙製品としては市場に全く見受け難い。偶々内地より麥酒廣告用として僅か輸入さるゝも、暹羅人にとりては之れを使用するものはない。

(ヘ)紙製ナプキン　本品は食卓用として需要多きものなるが、現在之等の輸入を見ず、過去盤谷市内に本邦小賣雜貨商の存在ありし當時は相當多く輸入されたるも、その後邦人小賣商を當市場に失ふに至りてより輸入絶へ、今日の處普通輸入ガンピ紙を適度に切り之れに代へつゝある有樣である。

(ト)紙製ドリンキングストロー　本品は麥藁製品に代るに蠟引紙製のもの最近輸入され當市場に販賣されつゝあり米製品一箱二十六仙、本邦品十六仙なり、兩者の品質に就ては本邦品は、米國品に比して永く水に浸す時逸早く軟柔になり易しとの缺點がある。

(チ)提燈　當國年中行事中天長節の祭日に當り一名之れを提燈祭と稱する程、市中提燈イルミネーションの夜間裝飾を競ふて各戸盛觀を極めたりし時代もありしが、その後電燈電氣の普及さるゝと共に提燈に代るに、電球を使用さる等時勢の趨移は同品の需要を殆んど斷たしめた。その他紙製花纏ぎ等何れも邦貨獨占の市場なりしに、現在は支那

製品之れに代るに價格廉價を以て邦貨を壓倒し、目下支那製品市場に獨り販賣されつゝある。

(リ)傘　當地に輸入せらるゝ紙傘は日傘、雨傘に拘らず油紙製にして濃厚なる色彩を施され居るものである。曾て本邦より雨傘用として蛇の目傘の輸入を見たるも、支那製品に比し高價にして遂に壓倒され今日全く市中に之れを見ないやうになつた。支那傘は一本の價普通二十仙見當にして、比較的堅牢小形もので日傘、雨傘兼用として使用され需要は大である。

(ヌ)兩切煙草用紙及包裝紙　同品は主として目下米、獨國より輸入され、當地煙草會社に供給さる本邦品としても此の種商品の割込み可能なるも未だ本邦より之等の輸入を見ない、その他包裝紙としてセロファン紙(透明紙)主に米國より輸入され、菓子、藥品、煙草、その他美術包裝用として最近用ひらるゝに至りしが、需要數よりすれば未だ微々たるものであり、價格は一連に付白色十一圓、色物十三圓位である。

(ル)カード及びポスト繪ハガキ　當國に於ける政府郵便ハガキ切手に至る迄英國製品を用ひ、カード及び風景繪ハガキ類は多く獨逸製品にして、一枚の價十錢、一打一銖に販賣され居り之等こそ邦貨をして充分充當し得べきものなれど、邦商の此の方面に志すものなく、未だ我が商品の進出を見ざる次第である。

需要の時期　何れも品種によりその時期を異にすれど、文房具は主に年度替りに多く需要さる。而して普通銀行、會社は一月前後とし學校及び官廳方面の用品は四月前後を需要期とする、その他一般紙製品には一定の需要期なく、大體に於て一月以降六月迄の上半期は、當國の購買力の旺盛季なるを以て、此の季を以て需要期とし、七月より九月

に入る期間は雨季に屬し、最も閑散を極むる期である。されど九月以後は寺院等に於ける祭日多く行はれるに依つて玩具、提燈等の需要期に入り支那正月に入る頃迄は此の種商品の販賣期であり、洋灰袋の如きも乾燥季中の取引最も多く、雨季に入るに及んで減少する傾きがある。

取引の經路　以上製品の當港への輸入品は、主に當盤谷在の外國商館に依つて輸入さるゝ中、文房具は印度商之れを專門に扱ひ、本邦品中洋灰袋の輸入は當地三井物產會社が獨り取扱ひ、直接暹羅洋灰會社に賣込みつゝあり、その他は暹商、華商の直輸入業者に依つて本邦品は取引され、歐米品は歐米商の直輸入に依るのである。斯くの如く一般輸入業者に依つて輸入されたるものを卸小賣を兼業とせる華商が、一段彼等より仕入れ、更に地方商を目當てに賣込まんとする三ペン街(卸問屋街)華商に依つて一般市中、並に地方商の手に渡り販賣せらるゝのである。

第三節　本邦品及本邦當業者の留意すべき點

本邦品として當地に輸入さる紙製品は、上述の如く今日の處充分市場に紹介され居らざる場合、個々良否の點を擧げ難く一般的に品質の缺點と云ふより、取引上相互の連絡、統制を缺くが爲め、現在輸入製品に玉石混同の弊を來し品質の上に充分の信賴を置かしむる能はざるは惜むべきことである。

最近本邦品に對する一般商人側は、何れも邦貨の取扱ひを渴望するに至れることは事實にして、喜こぶべき現象であるが、相互商取引の上に於て兩者共市場の認識不足觀より遂に商談の整ひ難き場合多く、之れ相手の信用調査不充、

分なること、引合地の商習慣を辨へ居らざること、自己の主張を固守して適宜の裁量に出でざること等によるものであるから、之等は取引上最も注意すべき點である。（昭和八年一月盤谷駐在商工省貿易通信員報告）

七　新嘉坡

第一節　輸入狀況

本調査に含まざる紙製品は書籍、地圖、印刷物（含樂譜、傳票等）切手、切符等とするも紙類中特にクレープペーパー、サンドペーパー、カーボンペーパーの三種は調査範圍に含む。而して新嘉坡市場で現在見受ける紙製品は細かく列擧すれば五、六十種類もあるが其中主なる種類は左の通りである。

封筒	(Envelopes)	帳簿（含日記帳）	(Account Books)
書翰紙	(Writing Paper)	トランプ及カルタ並玩具カード	(Playing Cards)
紙函	(Paper Pox)	手帳及雜記帳	(Note Books)
提燈	(Paper Lantern)	レベル	(Label)
ナプキン	(Napkin)	造花及クレープペーハー	(Imitation Paper)
アルバム	(Album)	荷札	(Tags)
油紙	(Oil Paper)	カレンダー	(Calendar)
寫眞臺紙	(Mounting)	寫眞燒付用紙及繪葉書	(Photo-Printing Paper)
模造皮革	(Imitation Leather)	レターファイル	(Letter File)
煙草卷紙	(Cigarette Paper)	テープ	(Tape)
紙旗	(Paper Flags)	サンドペーパー	(Sand-Paper)
カーボンペーパー	(Carbon Paper)	ビラ及ポスター	
團扇及扇子		紙製コップ	
電燈笠		紙鳶	
紙帽子		紙風船	
面		人形	

今、最近三ケ年に當市場に輸入されたる紙製品の輸入類を品種別に示すと左の如くである。

封筒　(Envelopes)

國別	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
	cwts	弗	cwts	弗	cwts	弗
英本國	一、七六七	七七、九六八	二、三〇九	二一三、六七三	二、五一〇	二一九、四一三
サラワーク			二	二〇	—	—
印度及緬甸			一	一三	二	八三
錫蘭			—	—	四	三〇
香港	六三二	一四、七三七	七三	二〇、〇七一	二三五	九、三三七

國別	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
	cwts	弗	cwts	弗	cwts	弗
加奈陀			一四	八八	一三	九三六
濠洲			一	七三	—	—
白耳義			一七	三四五	—	—
丁抹			二	五〇	—	—
佛蘭西			四	二八一	三〇	九一九

國別	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
	cwts		cwts		cwts	
英本國	二、八四二	一七、八、五七弗	五、三三五	四七、四一三弗	六、四六〇	四八、四九、五一弗
北ボルネオ領						
サラワク						
印度及緬甸			一四	九、一一七	三四一	三〇、一四四
錫蘭	一五三	九、六四六	二	一六〇	一一	五八七
香港			三七六	一〇、七五三	一、二七二	四一、九七
加奈陀			七四	三一四	三	九〇
濠洲			三四三	一四	一四	一、四九〇
端西			一九	三、三七	二七〇	六、八四八
端典			四	二〇	—	六六
和蘭			一六元	四、九七	三〇七	二一、〇三二
伊太利	三二	一四、七三	二	一、一〇〇	四〇	一、四九二
獨逸			四六	四一三	一	六、八四八
計	三、三五五	二九、三九	三、九八八	二四、七四四	四、〇一四	二九、〇三一

Manuscript Account Books.

國別	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
	cwts	弗	cwts	弗	cwts	弗
白耳義			八	三五五	五	三〇〇
スチエロ						
ツバキ					三三	一、五一〇
ヤコ						
丁抹			七	一、〇〇三	一四	一、四八〇
佛蘭西	三九	九、三一五	一〇	七〇七	一〇	七〇七
獨逸	五五	一九、七八	一、六七五	六、六六六	一、六七五	六、六六六
伊太利	五二	五、一五八	三一〇	六、四七四	三一〇	六、四七四
諾威	五六二	一六、一一三	一、五〇五	三九、八六六	一、五〇五	三九、八六六
蘭	—	三〇	—	—	—	—
瑞典						
瑞西						
端和						
端伊						
獨太						
逸利	九七	三一、五四				
計	九七	三一、五四	八、五四一	三五五、八	五、五〇八	三一、二三五

書翰紙 (Writing Paper)

國別	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
	cwts		cwts		cwts	
英本國	二、八三九	五、八四四弗	五、九七一	四七、二四一弗	四、四三三	四九、九九弗
印度及緬甸				五七	五	四五〇
錫蘭	三	一、一九四			八	四一一
香港			二、四三一	六〇、一〇〇	二、三五五	七〇、〇三三
加奈陀	九	一六六	一八	一、四六六	一八	一、四六六
濠洲	一七	四九一	—	—	—	—
白耳義	七四	一〇、四四四	五三	六、九二	五三	六、九二
佛蘭西	二〇	六五五	—	—	—	—
獨逸						
伊太利						
和蘭						
諸威						
瑞典						
瑞西						
米國	二三	二八四	四七五	七、一五七	一五五	五、九五一
日本	三	二四〇	一五五	一、二八二	一〇五	四、二五〇

埃及	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
支那						
米國						
日本						
瑞典						
瑞西						
端西						
端典						
諸和						
威蘭						
伊太利	三五	一四、八三五	四	一、四七〇	一	一、八五八
獨逸						
印度						
緬甸						
錫蘭						
香港						
加奈陀						
濠洲						
白耳義						
佛蘭西						
獨逸						
伊太利						
和蘭						
諸威						
瑞典						
瑞西						
米國	二三	二八四	四七五	七、一五七	一五五	五、九五一
日本	三	二四〇	一五五	一、二八二	一〇五	四、二五〇

埃及	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
支那						
米國						
日本						
瑞典						
瑞西						
端西						
端典						
諸和						
威蘭						
伊太利	三	一四、七三	四	一、四七〇	一	一、八五八
獨逸						
印度						
緬甸						
錫蘭						
香港						
加奈陀						
濠洲						
白耳義						
佛蘭西						
獨逸						
伊太利						
和蘭						
諸威						
瑞典						
瑞西						
端西						
端典						
米國	二三	二八四	四七五	七、一五七	一五五	五、九五一
日本	三	二四〇	一五五	一、二八二	一〇五	四、二五〇

大阪の紙製品工業

國別	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
支那	三、四四八	八四、四二三	四、三四二	二三、〇八〇	二、三七二	八七、七一七
爪哇			七	三三八	三	七二四
計						

トランプ及カルタ並玩具カード (Playing Cards)

國別	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
英本國	一、九〇一 打函	六、一八九 弗	四、一六二 打函	一五、六五五 弗	五、九九〇 打函	一六、五二〇 弗
英領北ボルネオ					八〇	八〇
印度及緬甸	—	—	—	七五		
香港					二、八五三	四、三六〇
白耳義	二、四三九	二、一五〇	二、一五〇	七五		
佛蘭西	四二、五四六	四〇、四八六	一四、一〇四	一二、四四七	一五、八三三	一〇、五四〇
獨逸	一、一三二 打函	五七、一二三 弗	一、一八四 打函	四五、一二四 弗	一、一三二 打函	六一、一六九 弗
日本	八五七	一、九四一 弗	一、六四四 打函	一、五六五 弗	一、〇九五 打函	一、〇九五 弗
米國	三三、〇四〇 打函	六〇、七〇七 弗	三二、一三八 打函	八六、一三〇 弗	六九、九七四 打函	一八、一八〇 弗
支那	二一、一三六 打函	六、五九三 弗	一六、八八六 打函	一一、五三四 弗	三、〇五一 打函	一七、三三 弗
計	八九、四八〇 打函	二一五、九一六 弗	一三〇、一九九 打函	一七六、五七七 弗	二五〇、三八九 打函	三〇〇、一五二 弗

其の他紙製品 (Other Manufact res of Paper.)

國別	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
英本國	一〇、三七四 cwts	九六、九七九 弗	一〇、六八五 cwts	七〇、〇一〇 弗	九、四六二 cwts	五八、〇六二 弗
サラワーク						
印度及緬甸			—	—	一	一
加奈陀	八四三 cwts	三一、三一九 弗	二九〇 cwts	一〇、二五四 弗	二五八 cwts	一〇、六五八 弗
錫蘭			—			
香港			二、一〇五 cwts	七五、七一六 弗	一、一〇五 cwts	六四 弗
佛蘭西	一八五 cwts	一五、四八六 弗	一四〇 cwts	六〇、七四二 弗	一、二九九 cwts	一、四九九 弗

國別	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
濠洲	八	一、〇二九	—	—	六	六〇一
新西蘭	—	—	—	—	一	八三
愛蘭	—	—	一〇	一	三五七	米國
墺太利	三、二七四	二〇五、七〇〇	三、三八二	二九五、七七八	支那	
白耳義	一六五	五、一三八	三八九	八、六六七	埃及	
チェッコ・スロバキヤ	二一六	二、一二五	一六四	一一、四六九	パンカ及ビリトン	
丁抹	一六	七八八	一	二〇	ボルネオ	
佛蘭西	五、〇〇二	二七二、五九九	五、六二五	三四五、九八〇	爪哇	
獨逸	一、二八一	三八、三五一	二、七七五	八二、五五三	スマトラ	
匈牙利	—	—	—	九〇	比律賓	
伊太利	三、〇九六	二〇、六四四	三、二四四	一四〇、〇四八	暹羅	
和蘭	三九六	一四、六七三	二、一三四	三三、八九〇	其他	
諸威	七三九	一〇、〇四二	四〇一	六、二六一		
瑞典	八〇八	九、六四三	二、一八一	三〇、五二一		
計						

國別	一九三一年 數量	一九三一年 金額	一九三〇年 數量	一九三〇年 金額	一九二九年 數量	一九二九年 金額
日本	二、七八九	九四、〇二八	四、六〇四	一六三、一二七	二、〇四四	八四、四九六
米國	一、〇三〇	六六、六六五	一、八三九	八二、七一五	一、四八〇	九七、一〇三
支那			一〇、四〇九	三五九、一二四	七、八〇二	三一、五六三
埃及			五	五六四	—	—
パンカ及ビリトン			二	二〇	—	—
ボルネオ			一〇	一、七八五	七	二、二五〇
爪哇	一八、九九二	四三、六六四	六五七	二八、四一八	一七一	一〇、一六七
スマトラ			九	二〇〇	四一	二、七一七
比律賓			五	四三〇	—	—
暹羅			四	二八二	七	七九
其他			一	三七	—	—
計	四三、五五二	二一、五三八、七五一	四五、九一六	一、九六六、四一四	四八、五〇一	二、三五二、七六五

第二節　需給並に取引

紙製品として市場で最も需要あるは帳簿類、封筒、書翰箋、紙函、カード、手帳及雜記帳、レベル、ナプキン、カ

海外市場に於ける本邦品

レンダー、煙草卷紙、カーボンペーパー、ビラ及ポスター、テープ、アルバム、寫眞臺紙、燒付用紙及繪葉書、レターファイル、サンドペーパー、荷札、造花及クレープペーパー、紙旗等約二十種であらう。之等商品の供給は輸入品及ローカル製品を以て爲されて居るが、當領の推定年額消費量は三百五十萬弗位と見積られる。其中、二百八十餘弗迄は輸入品である。ローカル製品としては書簡箋、エクササイズブック(學生用ノートブック)帳簿、封筒、紙函、レベル、レターファイル等で輸入品より割安製造可能なのと機械設置を要しない家庭工業で出來る爲め、支那人も工業家簇出したのと、近年馬來人、印度人、支那人等の學校教育の普及及事務所用品の需要遞增で漸次製產量を增しつゝある。近き將來或る程度輸入品を壓倒する力を具えるに到るだらう。次に種類別需給關係を述べることゝする。

(イ)帳簿類　紙製品中では帳簿類の需要を筆頭とせねばなるまい。普通銀行、會社、大商店では適當な寸法及樣式のものを特別に注文するが、普通の商店では出來合のも相當用ひられて居る。出來合で最も賣行良好各人種を通じ使用可能なのは Cash Book, Ledger, General の三種である。英國製の主なる寸法頁數小賣値段等を掲げる。Cash Book は月日、摘要、收入、支出、殘高の五欄を有すも日本の樣に文字を印刷して居ない赤線丈けである。レッジャーと呼ぶ原簿は月日、摘要及金額欄二欄を有し、數字單位は十萬位まで勘定可能のもの、紙は Ledger Paper を用ひ三十封度內外の品質である。

British make Account Books.

×	14½″ × 10″	560 Pages	$ 17.50	背皮	Cash Book	×	12½″ × 8″	435 Pages	$ 7.50	背皮	Cash Book (General
	″	560 Pages	$ 17.50	背皮	Ledger	×	″	367 Pages	$ 6.00	背皮	Ledger

×印賣行良好

	12½″ × 8″	367 Pages	$ 5.50	背皮	Cash Book		10″ × 7½″	100 Pages	$ 5.50	背皮	Cash Book

英國帳簿輸入業者としては Kelly & Walsh Ltd., Raffles Place, Motiwalla & Co., Raffles Place. 等が著名であるローカル製品は General 向で 13″ × 8½″ 24封度物一九〇頁物で月日、摘要、金額欄二行のもの九十仙、同サイズ九四頁赤線なし四十五仙見當のものも最近よく賣れるが、矢張最も賣行定評あるは印度人小賣商の賣上簿、金貸業印度人の口座別勘定原簿として使用して居る6″×13″百六十頁位細長い勘定帳であらう。値段一册一弗內外である。

聯樞印務局 (Liang Khoo Press, 16 North Bridge Road)

古友軒英記 (Koh Yew Hean Eng Kee, 18 North Bridye Road)

Phn Yik Press, 240 South Bridge Road. Sing Chew Press Co., 254 South Bridge Road. Khai Mun & Co., 229 South Bridge Road. The Ngai Mun Press, 236 South Bridge Road

等が製造販賣して居るが、聞く處に依ると最近印刷屋の副業として競爭が殖えた樣だ。

Chinese Account Book.

10½″ × 9½″	200 Pages	$ 0.85	赤罫線入美紙布張日本式綴	10″ × 6½″	200 Pages	$ 0.60	(表紙鼠色のものが多い)				
6″ × 4″	80 Pages	$ 0.3)									

上海及廣東製のものが輸入されるが、支那紙を用ひ日本式に背綴が向右手になる方が表の表紙で毛筆用である。動物園の檻の樣な赤罫線が敷いてある。日記帳、元帳、貸賣帳、現金賣上帳、金錢出納帳、仕入簿、爲替手形帳、銀行簿等に使用するのであつて、月何十萬弗の商賣をする大商店も此種支那帳簿を使用する舊弊な店では何れも帳簿はこ

の程度の複雜さで日本の昔の大福帳式の域を脱して居ない。然し近年若い學生出を記帳係に採用して居る新空氣の店は洋式に改め複式振替紙票制度を取つて居るが、數の上から見て未だ〳〵大福帳式が絕對多數の現況である。

帳簿類は日本より進出の可能性あるものは二四封度 6½″×13″ 位寸法もの百五、六十頁以上精々三百頁以内のもの小賣八十仙—一弗二、三十仙見當賣可能なれば奬し得るだらう。

統計で見ると日本から一九三〇年二萬弗輸入されて居るが大部分は會社商店の自家用で、洋式帳簿で僅少が文房具店、雜貨店等で輸入されて居る金錢出納帳、元帳、賣上簿、買入帳等邦字の背文字を冠した邦人商店向のものであつて問題でない。

Chinese Account Book Importers.

Guan Moh Paper Merchants & Co., 233, Telok Ayer Street.
Soon Moh, 231, Telok Ayer Street,
Tan Hup Hong, 233, Telok Ayer Street.
Hap Mu, 229, Telok Ayer Street.
Poh Aik Lhan, 171, Telok Ayer treet

(ロ)書簡箋 Writing Paper 及 Writing Pad の需要は又各人種を通じて相當量に上る年額輸入三十萬弗ローカル製品が年産額十四、五萬弗、合計略ぼ五十萬弗月約四萬弗に上るを見ても頷かれるであらう。近時在住支那人間では無學文盲を恥とする觀念が高まり學業の群小私立學校が雨後の筍然と增加し、割合若い者の間には教育普及を見、支那特有の占者然たる代筆業者の影が薄れる樣になつた。この動勢に伴ひ書簡箋等の需要が連增した。市場で賣行のよいのは横文字用ではレターサイズの八〇/一〇〇枚綴物(封筒付及封筒なし)及横文字用では支那人の使用する支那紙を使つ

た八、十、十三行赤罫入りの百枚綴の兩種であらう。後者はさまでないが一般向する前者は近時白熱的競爭を演じて居る。英國品及ローカル製が多く、主なる商標及値段は左の通りである。

英國品

Croxley Combrie	標	一〇〇枚	封筒付	七五仙
			Kelly & Walsh Ltd.,	
Crown	標	八〇枚	〃	六〇仙
Lion	標	一〇〇枚	〃	七五仙
			Kelly & Walsh Ltd.,	

パッド付在色合は白、ブルー、綠等を主とする婦人用でも日本に見る樣な桃色、石竹色の樣な甘たるい色彩は餘り見受けない。清楚な色彩が上流向として歡迎されて居る。

英國品は封筒付の上等品で體裁のいゝものが賣出されて居る。主に百貨店向か、さもなくば印度人洋雜貨店向と云つた恰好である。

ローカル製品

					製造業者
Alhambra	八〇枚	封筒なし	一〇仙	小	笠原商店
E. I. Dawood & Co.,	〃	〃	一〇仙	E. I.	Dawood & Co., 244, Bencoolen street.
Prince Wales	〃	〃	一〇仙	M. P.	Mohamed Sultan Bros, 228, Middle Road.
Challenge	八枚	〃	一〇仙	小	笠原商店
將介石畫印	八〇枚	〃	一〇仙		

孫	八〇枚	〃	一〇仙
中山	八〇枚	〃	一〇仙
Writing			
S. A. Hameed	八〇枚	〃	
Rose			
Lady's			

古友軒普及
有林堂印刷所
S. A. Hameed & Co., 150, Queen street.

ローカル製は英國品と軌を異にし $10\frac{1}{2}'' \times 7\frac{1}{2}''$ 又は $10'' \times 7\frac{1}{2}''$ 四五封度乃至五〇封度が標準で薄書の横罫が這入つて居て一册八十枚乃至六十枚處である。

當地のチエンヂアレーと云ふ安物の道賣が多い小路では最近六十枚綴を八仙乃至九仙で賣捌き、八十枚物製造業者を脅かして居る。

Alhambra, Prince Wales, 孫中山、S. A. Hameed, Rose 等は有名で市中の書籍店、煙草店、雜貨店頭隨所に見受けられる。後者では $18\frac{1}{2}'' \times 9''$ 位 $8''$ 間の赤線引の毛筆用である。五十枚一綴卸十仙、小賣二枚一仙が相場で主として厦門からの輸入品である。

本邦製書簡箋は多少邦人雜貨店が輸入され、七、八十頁物十四、五仙で賣出して居るが、在留民向で所謂「國違ひ」の向きでない。此外上海製品で「親愛」「西湖」等のブランドの $10'' \times 6''$ 及 $8'' \times 5''$ 位の日本式に出來たものが見受ける一册四十枚位で十仙である。

（ハ）封筒　一九三〇年輸入額十六萬弗、同年推定ローカル生産額七萬弗、計二十三萬弗、再輸出を控除しても二十

一、二萬弗を消費する封筒は、又當領紙製品としての一大宗品である。サイズは標準と云ふものがないが Common size としては $4'' \times 6''$ $3\frac{3}{4}'' \times 3\frac{3}{4}''$ $3\frac{1}{2}'' \times 5\frac{1}{2}''$ 等種々あり、色は白、茶、黄、の三種が最も多い。左に普通封筒の賣行良好なものを示すに、

英國製				
Renown Deekle				
ポストサイズ	一箱	一〇〇枚入	〇・五〇弗	家庭向で事務所向でない。
Charla Eeypta	同		一・一五仙	
Fantasie	同		一・二〇五	
Morly Extra（スコツトランド製）	$6\frac{1}{2}''$	厚手	一箱	千枚	四・〇〇	事務所用
Tinted	$4\frac{3}{4}'' \times 3\frac{3}{4}''$	同			三・五〇	
日本製						
	$4'' \times 6''$	厚手	一箱	千枚	三・八〇	事務所用
		同簿	一箱	千枚	三・五〇	
英國製						
Dicken	$7'' \times 6''$	同	上等		五・五〇	
			安物		四・〇〇	

大體最も需要廣汎な事務所用は千枚三弗五十仙見當のものが賣行よく Fantasie 等は贅澤向實用でない。最近左記

の如きマニラエンベロープ格安物が彗星の如く短時日に前者を壓して來た。

※英國製　木の葉印　3⅞″×5½″　一箱千枚　一弗七五仙　※獨逸製　"Manila"　3½″×5½″　一箱千枚　一弗七五仙

本邦品は喰込み得る餘地が充分あることは前掲一覽表を見れば何人も推察し得られるところである。

ローカル製品は勞銀なく口賃の安い支那人の請負仕事乃至は印刷業者片手間の仕事多く Flying Eagle 6½″×4⅜″千枚四弗、No. Brand 6½″×5″ 同四弗五十仙見當で餘り割安でもない。特殊封筒として Window Envelope 市役所を初め一部の會社、商店で使用して居る。

英國製　3⅞″×5½″　千枚　三弗　マニラウインドーエンベロープ

當地で模造紙又は Brown Paper を材料として封筒を製造販賣する邦商は左の三軒である。

有林堂印刷所　76—78　Waterloo Street.　南洋印刷所　75—77　Middle Road.

ニコニコ商會　Middle Road.

(二)雜記帳及手帳　此種の中で最も數量の捌けるのは學校用のエクササイズブックと通帳代りに用ひられる小型の手帳の兩種であらう。官私立を不問各人種の經營學校では此のエクササイズブックを雜記帳として用ふ。下は小學校から上專門學校に至る迄用ふるのと學校に依つては强制的に使用を命ずるので、此種ノートブックの需要年額は馬鹿にならない。

8½″×6½″　正味八十頁位のブラウンマニラカバーを有つた薄いもので一頁に約二十行の横罫が薄青綠色で這入つた一册十仙乃至十二仙位の粗末なものである。殆んどローカル製品で年額推定十五萬弗に上る。左に參考に海峽植民地

及馬來聯邦州内の學校數及生徒數統計を掲げる。

海峽植民地				
新嘉坡	四六	Primary School	官立	七、五〇〇人
			私立政府補助	七、一四四人
			官立	一二、三七六人
彼南	一四四	〃	私立政府補助	八、四三八人
			官立	八、二一二人
馬拉加	九九	〃	私立政府補助	一、九三四人
計				四五、六〇四人
馬來聯邦州				
四八	一八、二八六人	English School	五三五	土人學校　四一、六二四人
三〇一	一〇、六五六人	タミール學校	三五五	支那人學校　一八、八八二人
計	八九、四八八人			

右統計には柔佛、トレンガヌ、ケランタン、ケダ、ペルリス等の非聯邦國のを含まず且新嘉坡、彼南等の政府補助を受けぬ支那人、私立學校及專門學校、師範學校の類を掲げて居ないから實際の英領馬來全體の學童數は二十數萬には達するであらう。これ丈けの學童が一ケ年に消費するエクササイズブックは僅か八十頁位の薄い物であること、各學校が宿題制度を强要して居る事を考えれば夥しい量に上る事が自ら頷かれるであらうと信ずるのだ。假に二十數萬人中、六割使用するとして十五萬人、一人一ケ月平均三册としても年二十六册、全體で五百四十萬册一册 Cash 五仙

として二十七萬弗の消費と見積り得る。聞く處に依ると、支那人の小規模私塾乃至學校では學用品供給部を設けて學校當局又は出入の商人が學校内で利益を採つて生徒に賣附けて居るのもある樣だ。

日本人では現在倉園ボックスメーカー、小笠原商店の二軒が製造販賣を生徒三百數十名を擁する日本人小學校、其他へ供給して居る、將來ある商賣である。

次に賣行遙かに他を凌駕するのは 3″×4″ 位の小形の通帳であらう。これはドビー(洗濯屋)の通帳ともなれば支那人大道商人の賣上手控ともなり頗る用途が多い。

(ホ)レベル　鳳梨罐詰年百萬箱(四打入)清涼飲料水月二十五萬箱(一箱四打)珈琲年二萬箱(一箱四打)新嘉坡の支那人、其他の工場で製造されるものと見積ればこれに要するレベルの年需要數量は實に八千四百萬枚となる。併し輸出總量の優に八割を占める英國向鳳梨罐詰は近時、無レベルの白罐で輸出され有標無標の割合は三對七位で無レッテルの方が近年增加したから約三千三百六十萬枚を控除すると約五千萬枚程年々消費されるものと看做し得る。從前當地の石版印刷が四、五色刷を不可能となした頃は、此種特に鳳梨罐詰のレッテルは日本へ註文されたものだが、最近は Frazer & Neave Ltd, Malayan Saturday Post 等では優秀な多色刷が出來る樣になつて、日本への註文は全然中止し盡くローカル製品で補ふ樣になつた。

清涼飲料水製造會社として第一流の Frazer & Neave Ltd, は專屬の印刷所を有ち同社製造の清涼飲料水瓶貼布レッテルは全部自ら供給し他社との競爭上コース輕減を計つて居る。Malayan Saturday Post では他會社のレッテルを

請負製造して居るが、種類にも依るが大體四色刷で十萬枚百八十弗内外である。然し支那人製造のレッテルは技術關係からであらう、どこかレファイン味を缺く感を受ける。既述の外ミルクのレッテルも最近新商標の增加に伴ひ當地印刷所でブロック印刷さる數を增した。

(ヘ)紙函　馬來半島華僑隨一の實業家有限公司陳嘉庚は、現在年產額二百八十餘萬足のゴム底キャンバス靴を製造大半を輸出して居るが、これを包裝する紙函カートン(糊付を要さぬ組立式)二百八十餘萬箱は新嘉坡、彼南、馬拉加を通じて紙函包裝商品別に見ても亦使用業者別にしても一頭地を抜いて居る。乍然同社は Printing Department を有して居るから全部自家供給で小規模紙函業者の懷を潤すに到らない。

當地方の紙函用途としてはゴム底キャンバス靴、ローカル製皮靴及布靴包裝用、漢藥入れ、ワイシャツ函等を太宗とする。ゴム靴は陳嘉庚以外南洋製造公司及張永福の二製造業者が年三十萬足製造してゐるが、之等は市中の支那人紙函屋へ製造を請負はして居るらしい。皮靴は馬來半島全體で華僑の手縫で製造するものが百二十萬足もあるから、こゝに相當邦人紙函業者としても割込み得る餘地があり、現在當市の倉園、小笠原の兩店は此方面に割込みつゝある左に代表的の寸法及製造業者を示すに、

		製造業者
陳嘉庚有限公司使用ゴム底キャンバス靴用	8″×26″(平面見取圖に依る)	カートン陳嘉庚有限公司
皮靴用	11″×5″×3½″	Yue Keng Syan, 52. Victoria street.
漢藥用	7″×4″×2½″	右　同(値段百箱二弗五〇仙)

ワイシャツ用　20″×11¾″×4½″

紙函の本邦品輸入は前途がない。これは矢張當地に於ける邦人の小企業家としてやる可き仕事で、邦人勢力の伸張は既存の倉園、小笠原兩商店今後の活躍に俟たねばならない。

倉園商店（値段百箱一〇弗五〇仙）

（ト）ナプキン　新嘉坡は英國の勢力下であるから住民は誰も彼も洋館で純洋式の料理を喰つて居る樣に事情を知らぬ内地の人が思ふ處であるが、事實は人口の四分の三支那人が占めると云ふ上海の延長の樣な市街で、上海と異る處は只熱帶であるのと建物が南國的であるのと、色の黑い印度人が街を歩いて居る點で西洋人、ユウレシアン及日本人支那人、印度人の中流以上を除いては生活文化の程度低い土地である。さればナプキン等にしても何處の家庭でも使用する譯でなく、洋式生活をする中流以上の家庭のみに需要があるのであつて、人口の大半は支那料理であるからこれを必要としない。又洋食を常食とする人種又は家庭又はホテルに於てもナプキン類は内地のレストランやカフエの如き、一枚一枚捨てる紙製のナプキンを用ひない。別に理由はないが要するに不經濟だからで當地では普通十五、六吋角の白布を以て代用する。内地で洋食の時膝に置く白布があれである。

斯う云ふ所變れば品變るの爲に紙製ナプキンの需要と云ふものが當地では割合に尠い。尤も支那人經營の安値なレストラントでは客にナプキンを出すが、これは普通の模造紙を正方形に切つた粗末なもので、ひどいのになると巾二吋長さ三吋餘りの小型の紙片を支那箸に添えて來る一膳飯屋がある。ナプキンペーパーとして日本から輸入されて居るのは十二吋角のもので卸千枚八十五仙、小賣百枚十五仙見當である。

左記商店が輸入小賣をしてゐる。在留邦人家庭向である。

馬場商店　K. Baba & Co., 149, Middle Road.　吉田商會　Yoshida Shokai, 68, Middle Road.

櫻商會　Sakura & Co., 332, North Bridge Road.

これも本邦品の進出は當地事情から觀て力を入れる丈けの面白味はないであらう。

（チ）カレンダー　一般型カレンダーに二種ある。即ちモンスリーカレンダーと日めくりがそれである。會社商店が年末年始の顧客へ贈呈用として一定數吉例註文することは日本内地と變らないが不況の爲め、此種の日めくりを簡易なモンスリーカレンダーに代える向が多くなつた事は注目すべき傾向である。

贈呈用でないローカル製では支那式のもの多く3″×5″位の日めくりで6″×10½″内外の臺紙に取附けたものが華僑印刷所で製造一ケ二十仙位で小賣されて居る。本邦品は殆んど贈呈用と看てよい。普通臺紙に商店及營業の科目を英漢兩語で印刷し、一軒年五十部以上三百部見當の註文である。趣向を純外人向とした上品な垢拔したものと純支那人向きの割安品を供給すれば、日本人も或る程度外國人間に喰込む可能性がありそうだ。

（リ）荷札（Tag）　鐵道便、郵便小包、托送品、物產見本表示用、其他に用ひられるが、日本の大都市に於ける程普及して居ない。例へば郵便小包などでも小包々裝面に發送人及受取主住所姓名を書込む丈けで別に用心の爲め荷札を附けるでもない向が多い。英國、獨逸、瑞典、日本、ローカル製等が主である。

英國製

#2 2″×1½″　#3 3½″×1½″　#4 4″×2″　#5 4½″×2″　#6 5″×2½″　千枚　八弗位

Imported by Parthomensz & Co. A. S. M. Dawood &Co.,

本邦品は針金附千枚一弗五十仙、小賣百枚二十仙見當で邦人雜貨店及印刷所で賣捌いて居る。

(ヌ)煙草卷紙　Cigarette Paper は卷煙草全盛に不拘相當需要あり、主に左の如きオーストラリヤ及支那製品である

オーストラリヤ製

Collins Brand,　一箱　六〇個入　2⅞″×1⅝″　小賣八五仙　Imported by Kwong Shu Chang.

支　那　製（廣東）

朱有蘭煙紙　一箱　二〇五紙函　一紙函一〇〇枚入　小賣三三仙　Imported by Choo U. Lau, 23, Market Street, Singapore

(ル)ビラ及ポスター　汽船會社、保險會社、商事會社、製造家代理店、小賣商等で取扱商品乃至航路事業等の宣傳旁々出すものが多くオフセット又は石版刷四、五色位の優秀なデザインを施したものが見受けられるが、これも現在の處大規模の會社商店に限られ一般化して居ない。一つはローカルでの石版刷が割高の爲ではなからうかと考へる。當地では新聞紙上及人家の白壁突地を利用した廣告の方がより効果的である爲めと看られる。內地の東西屋式の無言サンドウイッチマンに依る廣告は主に活動寫眞の廣告に多く一般商品は全く利用しない處である。兎に角ビラ、ポスターの類は美術印刷の技術と價格が一般に効果を認めしめる樣になる迄は遼遠の感あるも不止得處であらう。

(ヲ)テープ　テープと云へば橫濱、神戸埠頭に於て將に出帆せんとする巨船と突堤間のあの雜多な感情を織込んだ美しいテープの流れを思ひ出すがあの種の用途としての需要は當地では少ないのである。荷造用、買物小包の時、シ

ヨウウインドーの裝飾用等に用ひられる量が全體の八割以上を占める。

英國製は一番上等で打替一弗三十仙內外、日本製は土佐製紙の「日の出」印や他社の「野球」印等が這入つて居る赤、白、青、紫、菫等で十卷卸五十仙、小賣七、八十仙處。

(ワ)カード、トランプ、花札の類　日本の樣に百斤十三圓もする輸入稅の外に骨牌法に依り更に一組五十錢程の稅金の取られる國と異なつて、新嘉坡は輸出入共無稅であるからトランプ類の輸入は一九二九年三〇萬弗、三〇年十七萬弗、三一年十一萬弗もあり、不況と共に追年減少はして居るが家庭娛樂として、又印度人仲間の街上娛樂として手廣く使用され、西洋人、ババチナ(海峽生れ支那人)、混血人種家庭へ行けば必ず一組や二組は具えて居る。又た英米煙草會社等の大煙草會社の如きはカード裏に自家賣出しの煙草廣告を印刷し、顧客にフリーデストリビューションして居る向もある。

一〇〇一	（米國製）	National Lard & Co., Ltd.,	
Ada ddin	（同）	U. S. A. 製造	一組　二〇仙—二五仙
五七五	（白耳義製）	Hagemeyer & Co. 製造	
三〇〇〇	（同）		
Lion	（同）		

支那人小供向繪カード　Toy Card　と稱すは本邦製で一組五仙—十五仙位、在留邦人間に手なぐさみされる花札は京都製の「赤よろし」が最も高級で桐箱入卸一弗、小賣一弗二十五仙位である。百人一首歌留多(純邦人向)は標準カル

タ一組一弗。

(カ)レターファイル　スプリングファイル(11″×13¾″)等の大物は輸入品が多く普通の Letter File 及 Ring File 等は輸入品もあるが近時地方製ものが激増した。「鷲」の絵「East Life」等の商標物は英國製スプリングファイルで卸レターサイズ打十二弗、フルスカツプサイズ十五弗見當が賣行手頃である。Motiwalla & Co., 其他が輸入販賣をしてゐる。獨逸品はクラガー商店が扱つて居る。

リングファイルレターサイズ	卸打　一〇弗一〇仙	普通のレターファイルレターサイズ	卸打　一弗六〇仙
同　フールスカツプサイズ	一三弗五〇仙	同フールスカツプサイズ	一弗八〇仙

主なる取扱業者

Motiwalla & Co., Raffles Place, Singapore.　Ribeiro & Co., Ltd., Raffles Place ,Singapore.
Kelly & Walsh, Ltd., Raffles Place, Singapore.　Malayan Publishing House, Ltd., Stanford Road, Singapore.
G. H. Kiat & Co., Ltd., Collyer Quay, Singapore.
有林堂印刷所　78, Waterloo Street, Singapore.　南洋印刷所　77, Middle Road, Singapore.

(ヨ)アルバム　これは各國人共使用する丈けに相當需要が多いが、中流以上階級向で一般勞働者階級には必要のない商品である。

英國品は 12″×10″ 二十枚物位の寸法が受よく小賣二弗乃至三弗五十仙 (Singapore Photo Studio, High Street 輸入) 獨逸品は 8″×12″ 賣行よく一弗五十仙乃至二弗七十仙止り日本品は一弗以上二弗五十仙の値頃のものが割合に

捌けるが糊のつきの悪いのと紙質粗惡の不評を聞く樣だ。

(タ)寫眞燒附用紙及繪葉書　新嘉坡及馬來半島を通じて寫眞屋は類に於ては華僑に不及が技術は今の處、邦人が最も優秀とされ寫眞師も"Japanese photographer"と必ず Japanese の文字を看板に冠する狀態である。當地方に於ける寫眞の需要は冠婚葬祭其他記念すべき出來事には寫眞師を聘するから相當多く爲めに邦人當業者も仲々多い。元來土人達は自分の全姿を客觀的に眺めることを好むからではなからうか。從而燒付用紙の需要統計なく遺憾であるが相當量に上つて居る。近く政府統計上一口座を設ける必要ある商品である、最も賣行飛ぶが如きは英國製 Kodak 及獨逸製 Gevaert の二つで共に 24″×30″ 市價は前者二弗、後者二弗六十仙位である。其他のものとしては諾威製及白耳義製の 24″×19″ 六枚入一袋が市價三弗見當である。

日本品は從前オリエンタル寫眞工業が進出を策した事があつたが、聞く處品質上の關係で其後進展を見ない儘になつて居る。

Kodak Limited, Battery Road, Singapore.　Y. Ebata & Co, Coleman Street. Singapore.
Singapore Photo Studio, High Street Singapore.

繪葉書、土地の風景、風俗を撮したポストカードサイズ物で全市雜貨店、書店、寫眞屋店頭に見受くる此種のものは主に邦人の製造に係り小野某君は邦人唯一の專業者一枚五仙以上十仙迄である。

(レ)造花及クレープペーパー　これも英米歐洲產クレープペーパーを材料として用ひてやる謂はゞローカルの小企業であり、輸入品は何國品共見込み乏しいから簡單に述べよう。フレッシュな切花は爪哇と近郊で支那人植物園で栽

培してゐるのに俟つて居る、當地は室や机上を飾るべき美花に乏しい。假にあつても高價で長持ちしない等の原因で造花が商品化し、一部では一つの流行となり邦人中にも小峯造花店（Bencoolen Street, Singapore）と云ふ專業者が出來る樣になつた家庭裝飾用の外冠婚葬祭向のものも註文に應じる。Singapore Carket Co., Undertakers, Penpas Road と云ふ葬儀用造花製造外國人業者もある。これが材料としてのクレープペーパーは和蘭、英國、米國等より輸入され

20″×99″ 一卷十三仙位、直輸入業者は、

Sakura & Co. 332, North Bridge Road, Singapore. Yamada & Co., 66, North Bridge Road, Singapore.
Liang Lhoo Press, 16, North Bridge Road, Singapore Koh Yew Hean Eng Kee, 18, North Bridge Road, Singapore.

(ソ)紙旗 大した數量でない。只印度人が御祝事ある日室内、天井裝飾にモールス代りに萬國旗を隅から隅へ張りめぐらす用途が纏つた需要と云へば云へるが、これも他の紙製品に比ぶれば問題でない。 12″×8″ 物二十四枚連れ三十仙、8″×6″ 二十四枚連れ二十仙日本品である。

(ツ)カーボンペーパー タイプライター用、鉛筆複寫用及 Crithograph 用の三種ある。

米國製 Carter's Guardian 8¾″×11″ 一〇〇枚 三弗二五仙
〃 〃 8½″×13″ 〃 三弗五〇仙

其他英國及獨逸製は二弗、三弗見當 Cariborum Kolok 等のマークのものがそれである。色は赤、紫、青、黑、白の五種位 Malayan Publishing House Ltd., Straits Typewriter Agency, Riberio Co., Ltd., Printer's Ltd., Krager & Co., 等が大手輸入筋である。

(ネ)サンドペーパー 英國製多く Flag, Lion, Brand 等は著名である。Watts & Co., の輸入に係る。

(ナ)其他の紙製品 扇子類は當地では相當需要がある樣考へられるが事實は殆んどないと云つても過言でないのであつて、邦人の一部及支那人の中流以上が多少手にする程度である。當地では年中不絕微風があるから扇子の必要なく、發汗はハンカチーフで拭取るを普通とする。支那製一本 10″ 四十仙見當。

團扇、これも一般的はカンチキ用で支那製一本三仙乃至八仙位、納涼用は本邦品の優美なのがある丈後者在留邦人家庭向である。

紙風船、支那、日本、英國製の三種あるがこれを以て遊ぶ子供を餘り見受けない。小賣一仙、二仙、五仙見當。

紙鳶、最近流行となつた傾向あり、ローカル製で二仙乃至五仙位のものが賣行もよい。

紙傘、純內地式の日傘は在留邦人に限られて居るが、大衆向としては油引の日傘、雨傘兼用のものが歡迎される。本邦製六十仙—一弗十仙、支那製三十仙より一弗迄、英國製七、八十仙見當。

紙人形、ローカルの支那人製で最大の用途は折衷式用、一組三弗。

提燈、岐阜提燈は邦人家庭向、意匠こらした本邦製提燈が年々多少纏つて輸出されるのは在留邦人の精靈流しに用ひられる丈である。

ペーパーカップ、大道商人のアイスクリーム屋向で漏斗形米國品でパラダイス印二百個一箱入二弗位。其他紙製電氣シェード、面、ファンシーボール用帽子、模造皮革等あるが大した需要はない。

第三節　本邦品の將來

ざつと見廻した處、數量も相當捌け將來共有望と思惟される物は現在輸入されて居る本邦品中には一寸ないが、當地で最も賣行よきものを研究し割込を策して行く段になれば喰込餘地ある商品は一、二に止らない。帳簿類、レターファイル、アルバム、寫眞臺紙、サンドペーパー類は行方に依れば延びる可能性はありそうだ。封筒、雜記帳、書簡箋類は需要は相當增加しようが、これ等は寧ろローカルでの邦人小企業家として將來ある方であらう。

現在全體的から觀ら本邦紙製品の勢力は微々たるもので約年二十萬弗、消費全額の百分の六に過ぎない。種類雜多にして一々記述を許さないが大體將來あるものゝヒントは述べて置いたから當業者の研究を切望する次第である。

尙當地に於ける紙製品製造業者は左の如くである。

Kelly & Walsh, Ltd., Raffles Place, Singapore.
Malayan Publishing House, Ltd., Stanford Road, Singapore.
Printers, Ltd., Collyer Quay, Singapore.
Phu Yiek Press, Armenian Street, Singapore.
Frazer & Heave, Ltd., Trafalgar Street, Singapore.
Tan Kah Kee & Co., Ltd., River Valley Road, Singapore.
Yurindo Printing Works,78, Waterloo Street, Singapore.
Nanyo Printing Office, 77, Middle Road, Singapore.
Ogasawara Box Maker, Middle Road, Singapore.
Kurazono Box Maker, Middle Road, Singapore.

（昭和七年八月新嘉坡商品陳列所報告）

八爪哇

（註）本調査には紙を含む。

第一節　需給の概況

蘭領印度領內には製紙工場として存在するものは、僅に N. V. Papierfabriek と稱する一小規模の製紙工場が、バンドン市より程遠からぬ Padaralang に存在するのみにて、領內消費の極一小部分を滿すに過ぎぬ。從つて紙類は殆んど是れを海外より仰いで居る、又紙類製品の製造工場も極めて尠なく、當地三大都市に存在する印刷工場が、輸入原紙を以て封筒、洋箋、製本等を行ふて居るもの、或は輸入ボール紙を以て紙器を製造する極小規模の工場が各地に散在せる程度のものであつて、紙製品の工場も極めて尠なく、從つて製紙も製器も大部分は海外より輸入されて居る從來紙類は或る特種のものを除きては本邦品は品質に於て、或は價格の點に於て引合はず、歐米製品獨占市場であつたが、近年本邦對爪哇の交通頗る頻繁を加へ、彼我の距離も著しく短縮され、本品の取引に便となり、且つ先年本邦が金本位制停止以來爲替暴落の影響で、本邦品も輸入原價が頗る低廉となつた爲め、或特種のものを除き弗々と輸入を見る樣になつた。

本品は一般には內外人輸入商より卸商、卸商より小賣商に取引され、小賣商より需要者に供給さるゝと云ふ經路を辿つて居るが、輸入商中印刷工場、製本工場を兼營せるものもあり、或は新聞用紙の如く輸入商より直接需要者に供給さるゝものもある。而して當地の取引には、或る特別な場合を除く外信用狀の發行に依る事が稀で、內外商社の別

なく、金融潤澤なる第一流商社はD•P一覽拂にて爲替手形を決濟し、其他は普通D•A三十日乃至六十日の爲替付を以て取引が行はれて居る。

紙製品の種類は極めて廣汎に亘り、一々之れを枚擧するに遑がない、今、其の主なるものを揭ぐれば、新聞紙、用箋、封筒、罫紙、包裝紙、便所用卷紙、壁紙、コツピーブツク、ブロツクノート、各種帳簿類、ナプキン、レベル、カーボンペーパー、ファンシーペーパー、卷煙草用包裝紙器、雜貨包裝用紙器、扇子、傘、提燈、手帳、帳簿等である。

第二節　品種別による需給

新聞用紙　新聞用紙は悉く歐米諸國より輸入され、本邦よりは未だに輸入されて居らぬ。本邦と當地とは地理的に且つ又人爲的に取引上頗る有利なる地位にあり乍ら、此種本邦製紙界の發達歐米諸國に比し幼稚なるが爲めか、常に歐米製品の輸入原價に壓倒されつゝある現狀である。當地には蘭人經營、支那人經營並に土人日本人の數多の新聞社が存在して居るが、輪轉機を使用せるものは僅に四、五社に過ぎぬ、輪轉機用新聞用紙は一卷千二百米突内外の長さを有し、其他の一般新聞社の使用せる用紙は既に方型に截ちたるものにて一連五百枚ものである。新聞用紙は一般印刷用紙をも含まれて居るが、其の輸入額は、一九三一年には四百一萬八千九百七十一ブルトー基、六十六萬七千六十七盾に上り、紙類中首位を占めて居る。

本品は主として新聞社並に印刷工場等に於て使用され、殆んど需要の時期はないが、一般には毎年三、四月頃一ケ

年間使用數量の概算額を定め、購入契約するものゝ樣である。

取引の經路は當地輸入商より直接需要者なる新聞社或は印刷工場に供給さるゝが、本邦輸出業者或は製造業者は輸入業者を經ず、直接前記需要者に供給する事も容易である。

代金の決濟は此種用紙を取引せる輸入商が殆んど第一流に屬してゐるから、一般にD•P一覽拂の手形に依り、信用狀を發行する場合は極めて稀である。又第一流の新聞社は輸入商に對しては、定められたる毎月の支拂日に納入せる分の支拂を決濟をして居るが、第二流、三流に屬する土人、或は支那人經營の新聞社、或は印刷工場は納入後一ケ月乃至二ケ月に亘り支拂するものもある。

書翰箋、封筒類　書翰箋、封筒類は高級下級に屬するものを合せ約二十數萬盾の輸入額を有するが、仕出國としては和蘭、獨逸が首位を占め、本邦よりは下級に屬するものが僅に一九三〇年に千數百盾輸入されたのみで、茲數年間を通じて殆んど輸入を見ない。夫れ程本邦品は歐洲品に比し輸入原價が高騰であつて輸入至難である。

本品は一般に雜貨輸入商に依り取扱はれてゐるが、極く高級品に屬するものは多く歐人經營のステーション又はストアに依つて直接輸入さる。而して需要時期は特に見るべきものなく、強いて求むれば十一月より翌年の一月までの三ケ月に最も多い。

(イ)書翰箋の種類　今當地に需要ある本品の概略に就て述ぶれば次の如し。

切り取つた一枚が約21cm×26cm大になる樣に21cm巾の上端にミシン目を入れた紙を百枚綴ぢて、これに厚紙

一枚を裏に名柄或は名柄に添ふ一寸した色刷りの繪の上表紙、表紙裏に吸取紙一枚を付け裝訂したものに非ずんば Writing Pad なりとは云はれ得ぬと云ふ程當地方に於ける書翰箋は型に塡まりきつてゐる。用紙も白無地ものは極めて尠く、罫線ものが大部分を占めてゐる。値段は級質に依り一樣でないが、小賣値七十五枚綴三十五仙、百枚綴五十仙から七十五仙位である。

而して官廳、銀行、會社等で用ひらるゝものゝ小賣値段は、ヘディングを未だ印刷しないもの百二十枚一包で次ぎの如くである。

クワルトー	厚手	一盾五〇仙—三盾七五仙見當	
〃	中厚	一・二五〃—二・九〇〃	
オクタヴオー	厚手	〇・八〇〃—二・〇〇〃	
〃	中厚	〇・七〇〃—一・五〇〃	

(ロ)高級(de Luxe)書翰箋封筒類　此の種 de Luxe 級のものゝ輸入は確實に世想を反映してゐる。近年の不景氣で一九三一年は一九二九年の半減となつてゐる。男子用、婦人用、子供用とあるが何れも函入りで書翰箋、封筒組合せ、カード封筒組合せである。左記統計にも明かなる如く佛蘭西ものは極僅少、北米ものは殆んど輸入されてゐないから此の種のものゝ市場にあるのは書翰箋、封筒は勿論、包裝等何れも落付いた地味なもの計りである。書翰箋封筒組合せものは、

	男子用	サイズ	入數	小賣
和	蘭	15cm×19cm	五〇	二盾七五仙以上
		13〃×16〃	〃	二・五〇〃
英	國	16〃×21〃	〃	二・八五〃
		13½〃×17〃	〃	二・五〇〃
婦人用	和	蘭	11½〃×15½〃	〃	二・二五〃

で、和蘭ものが一番多く Bratauo Post, Babant Gelder 等がよく賣り込まれてゐる。英吉利ものでは Lion Linen, Dickinson Wone, 等を見受られ、獨逸ものは少いが、若しあればそれは安物である。紙の色ものは餘り好まれてゐない、特に男子用に於て然りである。カード封筒組合せは主として案内狀に用ひられるもので、その價格は左の如くである。

		サイズ	入數	小賣
男子用				
(一般用)	和	蘭	10cm×15cm	五〇	二盾七五仙以上
	英	國	9〃×13〃	〃	二・七五〃
	獨	逸	9½〃×15½〃	〃	一・五〇〃
婦人用	和	蘭	8½〃×13⅛〃	〃	二・五〇〃

市場に見受くるものゝ商標は和蘭もの、英吉利もの何れも前記書翰箋、封筒組合せのものと同じである。獨逸ものもよく賣り込まれてゐるが、殆んど何れも安物計りである。カードは云ふ迄もなく白色系に限られてゐる。子供用は主として誕生日等の案内狀に用ひられるもので、書翰箋、封筒何れにも可愛らしい繪が一部に刷り込んである。

此の種のものには外函も飛行機を模したもの、人形芝居の舞臺を象つたもの等その他種々ある。而して大部分が獨

逸製品である。

（八）封筒類　126mm×154mm 見當のものが普通の型である。而して内面には麻布のエフェクト薄墨或は薄綠で印刷されてゐる。一般に公私共に何れも此の種のものを使用し、蘭印何處に於ても入手し得られる。二十五枚宛一括り、四括りが一函に收められてゐる。小賣値段は二十五枚十五仙、百枚五十仙、千枚三盾七十五仙見當である。安物としては同じく約 126mm×154mm 大の型で内面に印刷をしてないもので、青、綠、黄、灰色等の色紙の貼つてあるものがあり、値段は百枚三十五仙、千枚二盾九十仙見當である。

此の外に銀行會社筋で用ひらるゝ種々の型のものがあるが、これ等は市場では容易に入手得られるものでなく、會計帳簿店或は印刷屋等が主として歐洲方面から輸入手持してゐるのである。少し型の變つたものなれば、都會地では註文次第、特に紙を截ち、貼り上げて納めて來る、但し製品の仕上りは土地製であるから垢抜けしてゐない。官廳筋では片面の白い反古を整理して作つた封筒を領内通信には相當用ひてゐる樣である。（土人の給仕、小使をして隙な時に作らしめたものであらう）

尙最近現はれた特殊なもので飛行郵便用箋と云ふのがある、この用箋は本國向飛行郵便の料金が二十瓦迄七十五仙で、これでは高きに失すと云ふ事があつたので、特に蘭領印度より和蘭本國間の便に限り五瓦まで三十仙と云ふ特定料金の制定を見るに至つた爲めに出現したもので、トレーシングペーパー樣のもの封筒も小型で强靱にして輕量のものがある。小賣値段は、

便箋	白無地	百枚綴	罫線下數付	一盾二〇仙見當
封筒	8½cm×14cm	百枚		一・四〇〃
	12¼cm×14cm	〃		一・五〇〃

即ち便箋二枚を小さい方の封筒に容れて五瓦以下、便箋十枚と大きい方の封筒で二十瓦以下と云ふのである。又郵便局でも便箋一葉、封筒一通を組合せて三仙で拂下げてゐる。

因に本國アムステルダム、殖民地爪哇、バンドン間の航空路は、實に八・九二五哩（一四・三六〇粁）世界最長のもの毎週一回（アムステルダム木曜日、バンドン木曜日、バタビヤ金曜日）兩地を發し、所要日數十日乃至十二日である。使用機は三發動機付のフォッカーを用ひてゐる。

（二）學校ノート　藍色の表紙（厚さ約〇・二五粍）に三十二頁或は四十頁の紙で簡略に綴じた 16½cm×21cm 大のものが當領に於けるノートブックの王者である。罫線は等間隔の横罫が主であるが、白無地（羅馬字）、習字帳用罫、各種方眼罫、片面白、片面罫、出納簿罫等種々のものがある。學校では勿論、社會一般が此の種のものを日常使用し、小賣相場は次の如くである。

横並罫	一部	五〇部	一〇〇部	五〇〇部
紙質並 三二頁	五仙	二盾二五仙	四盾〇〇仙	一九盾〇〇仙
〃 四〇〃	六〃	二・七五〃	五・〇〇〃	二三・七五〃
〃 上 三二〃	六〃	二・七五〃	五・〇〇〃	二三・七五〃
〃 四〇〃	六〃五	三・〇〇〃	五・五〇〃	二六・〇〇〃

〃 極上	三二〃	六〃五	二・九〇〃	五・二五〃
〃 極上	四〇〃	七〃五	三・三〇〃	六・〇〇〃

白無地は1/2仙安で、變り罫は一、二仙高である。頁數の多い日本で云ふ大學ノート的のものになると何れも厚表紙付、背クロース本綴になる。14½cm×22cm で小賣値段は、

一六〇頁	一部	六〇仙	十二部	六盾六〇仙
二四〇〃	〃	七五〃	〃	八・二五〃

用紙並に罫紙類　事務用々紙並に罫紙類の輸入額は、一九二九年には百三十二萬五千六百六十一盾、一九三〇年には百四十三萬五千七百八盾に達して居る、一九三一年には當地不況の影響が反映し、八十四萬四千四百六十二盾に低減を來して居る。而して仕出國としては和蘭は斷然その首位にあつて、輸入總額の六割六分強を占め、獨逸は之に亞いで居る我國は僅に三千盾乃至四千盾の輸入額を有するに過ぎない。

本邦品は殆んど在留邦人商社の需要に供せらるゝ程度にて殆んど市場には取引されて居らぬと稱するも過言でない事務用々紙の品質は千種萬別で茲に其識別に就て述べ難いがフールスカップは我國製のものに比して其紙質頗る優良なるものゝ樣である。

卸並に小賣値段は紙質多種なるが爲め明記し難い。

巻取包裝紙　本品は當領政府中央統計局の輸入統計表中何れの部に含まれて居るかは判然せぬが、その需要は相當多く、殆んど總て歐洲諸國より輸入されて居る現狀である。最近當地に於ける日新洋行は、精版印刷株式會社の代理

店としてインデント・オーダーの受註に努力して居るが、日を追ひ大に發展するならんと期待さる。併し創業尙日淺く大した成績を見るに至らないと稱せられて居る。爪哇ではニーメクと稱する和蘭人經營の取扱業者は歐洲より原紙を輸入、自營の印刷工場にて各需要者の嗜好に應ずる色彩並に意匠印刷を施し、爪哇全島の受註に努力し、規模も大なる丈に相當の業績を揚げて居る。

本品の需要は、云ふ迄もなく當地の爪哇正月の時期並にセントニコラース、クリスマス等の前後に最も多く、小賣値段は紙質に依り多少は相異せるが大體左の如くである。

包裝紙	（一色印刷のもの）	蘭貨	五十仙（一キロ）
同	（一色を增す毎に）	蘭貨	五仙增（〃　〃）

又五百基以上の註文に對しては一基毎に五仙の値引をし、夫れ以上の註文には更に特別の値引をなすものゝ樣である。又本紙を以て作りたる袋も前記同樣な値段で賣られて居る。

トイレット用巻紙　當地に於ける土人は勿論、和蘭人の或一部では此種用紙は殆んど使用しないが爲め餘り大でない。本品は從來歐洲製品が市場獨占せしものであつたが、近年は殆んど本邦品が歐洲製品を壓倒せんとしつゝある現狀である。歐洲製品は紙質に於て本邦品に比し一般に良好なる丈に頗る高價で、從て實用向としては寧ろ不經濟である、殊に不況に呻吟せる今日、需要者の經濟心理に本邦品は最も合致するものとして歐洲品を壓倒しつゝある現狀である。卸及び小賣値段は左の如くである。

品種	卸値	小賣値
大卷もの普通品	蘭貨 一〇仙—一一仙	蘭貨 一五仙
小卷もの 〃	〃 八 〃	〃 一二〃
淺學紙式のもの(二百五十尺もの)〃	〃 八 〃	〃 一二〃
歐洲もの 〃	〃 一三〃	〃 一八〃

茲に大卷とは二百五十尺、小卷は二百尺が普通である。

壁紙 本品は我國よりも多少輸入さるゝに至つたが、需要者は主として都會地に於ける住宅に使用され、比較的僅少である關係上、紙質に於て、且又模樣色彩等に於ても極優秀にして高雅なるものが一般需要の嗜好に適合するものである。從つて歐洲品が最も歡迎され本邦品は餘りに愛用されて居らぬ。本邦品は價格に於ては寧ろ低廉に過ぎる嫌があり、地理的並に製造原價の關係上、同品質のものならば充分歐洲品を壓倒し得るもの故、一層優良なる紙質を用ひ、模樣、意匠、色彩の配合等に注意を拂ひたる製品の進出を計らば、容易に他の雜貨類と同じく市場を獨占する事寧ろ容易ならんと推意さる。本品は仕出國としては輸入額に於ては和蘭が首位を占め獨逸、白耳義、日本の順位である。而して今、基當値を見るに、和蘭製のものは蘭貨一盾二仙、本邦品は僅に其の三分の一にも達せざる蘭貨二十九仙五厘である。若し本邦品の輸入原價基當最低七、八十仙見當のものを製造せば、須らく和蘭製品以上に優秀なるものを製出すると確信する。

故に本邦當業者は需要者の嗜好、趣味等に就て一層調査を遂げ、之れに合致する優良品を進出しむる事が最も肝要

である。本品の需要は雨期には一般に住宅の移轉を企つる者少なくして、主として乾期に多く、家屋内の裝飾等も一般に乾期に施さるゝ爲め、五、六月並に雨期前の九月、十月頃が多い樣である。

コツピーグツク 本品の需要は格別大ではないが、本邦品は殆んど市場獨占し、歐洲品の輸入せらるゝを見ない程度であつて、在留內外商社は悉く本邦品を使用して居る。

爪哇及マドラ各帳簿類、ブロックノート、コツプブック輸入額

國別	一九三一年		一九三〇年		一九二九年	
		ブルトー基		ブルトー基		ブルトー基
和蘭	一〇一、九〇一	九五、八七八	一七三、一二九	一五八、〇九二	一七三、三〇九	一六九、三五六
英吉利	一八、六八二	一〇、七五五	三二、五九七	一三、七四四	二〇、二一七	一〇、二五六
獨逸	一九、三一八	二七、一三三	三八、九六〇	五〇、五一七	七八、四二六	五一、一〇四
佛蘭西	—	—	一、〇九六	九六六	—	—
白耳義	二、八九一	四、六四三	三、七八〇	七、二一〇	二、四四五	一、三一三
伊太利	一、一〇〇三	二、二三〇	三、一六九	五、六八五	一、〇四二	六、一九六
瑞西	—	—	四、四八三	四、八八四	—	—
北米	六、四一五	七、〇〇七	一二、〇三五	一二、一五一	八、六九二	一二、六四〇
新嘉坡	—	—	二、六〇六	三、七一〇	三、二六五	三、〇一七

港				
香港	一五、〇六八	一三、三六四	一〇、四〇七	九、一四〇
支那	四六、三〇三	四〇、六六八	六〇、六〇四	五三、九三三
日本	四二、四三九	二七、八七一	五八、九九七	四一、八九五
合計	**二五四、九六八**	**二三四、七六六**	**三八七、八九六**	**三六八、二三五**
港別				
バタビヤ	二一〇、七八九	一一四、六八三	一八五、四七六	一八二、二四一
スラバヤ	九〇、六六三	八二、四六一	一四二、三五五	一三〇、一九八
スラマン	三四、四七五	三〇、六一九	五一、七六五	四七、七一〇
チエリホン	八、〇〇六	五、六〇七	六、三九〇	五、六八三
	二、三六、八一	一、七〇九	九、一四〇	六、九二八
	五七、七〇九	五二、〇二七	五三、九三三	四二、三三三
	二六、八四四	八四、三〇一	四一、八九五	一三七、四九七
	四七一、六四六	**四一七、一八三**	**三六八、二三五**	**四四、三七七**
	二五三、七八三	二三三、六〇三	一八二、二四一	六、九二八
	一四九、七一七	一三七、四九七	一三〇、一九八	
	五六、四六六	四四、三七七	四七、七一〇	
	七、七八五	六、九二八	五、六八三	

本品は寧ろ文具房類に屬するものであるが、殆んど本邦品のみで、悉く本邦雜貨輸入商に依つて取扱はれ各邦人小賣業者或は白人文房具商に取引されて居る。又輸入商より直接需要者に供給さるゝ場合も可成多い樣である。取引習慣は他の一般雜貨類と大同小異である。本邦より輸入さるゝものは、九吋—十四吋半(大)及び九吋—十一吋半(小)の二種で、最近の卸及小賣値段は、

	卸値	小賣値
大 一打	蘭貨 九盾〇〇仙	九〇仙 (單價)
小 〃 〃	七・五〇〃	七五仙 (〃)

である。

印刷物 當地の各都市には殆んど印刷工場は存在し居るものゝ其規模極めて小さく、到底住民の需要を充すこと能はざるのみならず、一般印刷物の價格は頗る高い。從つて外國より輸入を仰ぐものは多額に上つて居る。之等印刷物は一九二九年には九十五萬三千五百六十盾、一九三〇年には一百七萬五千四百二十四盾、一九三一年には八十四萬八千六百九十五盾と云ふ莫大な輸入額を示して居る。而して仕出國としては和蘭が首位を占め、日本は第二位にある、最近我爲替が低落し、此種印刷物の輸入に頗る有利となりたる爲め、不況の折柄とは云へ歐洲品の地盤を相當蠶食しつゝある見込なれば我輸入額は寧ろ增加するとも減退を來す事なからう。

ボール紙 當地に於ける小工業、例へば土人用帽子或はヘルメット帽子その他簡單なる小雜貨類の製造工場では、それ等製品の包裝用紙函製造用の原料としてボール紙は輸入されて居るが、不況の影響で、前記島内小工業も不振なる爲め、ボール函の需要減退せると、又ボール紙の原價低下されたる爲め、輸入金額も餘程低減を來して居る。即ち一九二九年に於ける輸入額は、四十五萬二千四百三十二盾、一九三〇年には三十五萬五千七百九十八盾に減じ、翌一九三一年には更に二十八萬五千五百二十二盾に激減し、當地不況の影響を如實に示して居る。而して今之れを仕出地別に就て見るに、北米合衆國は近年輸入額に於て首位を占め、和蘭、獨逸、日本と云ふ順位にして、我國は當地との貿易に於て頗る有利な條件を具備せるにも不拘、辛じて第四位に位して居る。

本品は一般に輸入商より需要者たる函製造工場に供給され其間卸商の手を經ぬのを普通とする。代金は當地輸入商

は本邦輸出業者よりD・A三十日乃至六十日の爲替付にて支拂を決濟し、輸入業者の需要者に對しては現金取引として歐洲品を取扱ふ輸入商は、一般にD・A九十日乃至百日の爲替付にて支拂を決濟し、需要者には同樣現金取引をなすものが多い、是れ本品の需要者即ち紙函製造工場を經營するものには、餘り資本の潤澤なものは少ないと、支拂に定評あるアラブ人が多い爲でもあると推意さる。而して當地にて一般に需要さるゝボール紙は、八オンスから四八オンスまでゞその中最も多く需要あるものは八、一〇、一二オンスである。

當地では次第に各種小工業は增加する一方であるから、本品の需要も從つて增大さるゝものと信ずる。我國は素より當地と地理的關係其他に於て貿易上に於て頗る有利な地位にあるに加へ、昨年末以來一層輸入原價の低廉を來し、現在では殆んど歐洲輸入の餘地を與へないものと推意さるゝが茲に留意すべきは、一般にクレート式の方法で向出の儘本品を包裝する關係上、船積の場合、或は雨水に犯され、或は他の貨物の衝動の爲め、損害を蒙る場合が往々ある故に、船積の際特に注意を促し損傷を來さゞる樣除止せねばならぬ。

フアンシーペーパー　本品は各種の着色したる縮紙であつて、當地で造花用とし、或は棚上用敷紙として使用されてゐる。輸入額は一九二九年には實に八十六萬六千七百九十八盾、一九三〇年には八十四萬三千二百六盾、一九三一年には六十三萬五千九十五盾と云ふ樣に不況と共に漸減を示して居る。而して之れを仕出國別に見るに、獨逸、和蘭相互に首位を爭ひ、白耳義、墺太利は之に亞ぎ、我國よりは一九二九年に極少額輸入されしのみにて其後は全然跡を絕つて居る。

當地に需要さるゝものは殆んどクレープペーパーにして、色彩は殆んど凡てを網羅して居るが、就中赤色、綠、青、空桃色、黑色等の需要が大なる樣である。最近の卸及小賣値段は、紙質の上下に依り多少の相異はあるが大體左の如くである。

卸値段	（巾五〇糎・長さ三米突）	一卷	八仙—一二仙
小賣値段	（一本巾五〇糎・長さ三米突）		一〇仙—一五仙

本品の包裝は巾五〇糎長さ三米を一卷とせるものを其儘五百卷乃至千卷を動搖を來さゞる樣丁寧に詰込、其外部を油紙にて完全に浸水を防ぐ樣に包裝されて居る。

骨牌　本品は悉く歐米諸國より輸入されて居らぬ、併し當領に於ける骨牌の需要は極めて尠ない。即ち當領の人口は大部分を占むる土住民は、本品を弄ぶ程文化の程度が進んで居らぬ、需要者は殆んど和蘭人と支那人である。一九二九年に於ける輸入額は、十萬二千百九十五盾、一九三〇年には七萬七千九百六十九盾、一九三一年には六萬八千八百八十二盾に低減してゐる。斯く遂年輸入額が低減を來し宛然不況の影響を如實に反映して居る。而して今本品の仕出國別に就て見るに、獨逸國は輸入額に於て每年首位を占め、北米、和蘭は之に亞いで居る。

紙製傘　當地に使用せらるゝ紙製傘には日傘と雨傘との二種あるが、日傘は近來低廉にして且つ優美なる人絹製のものが進出したる爲め、紙製のものは次第に壓迫を蒙り、需要著しく減退するに至つたが、左表に示せる紙製傘中我國よりの輸入額は殆んど日傘であつて、當市場を殆んど獨占して居る、反之香港、支那よりの輸入額は、紙製雨傘に

して紙製傘の輸入額の大部分を占めて居る。

今、紙製傘の爪哇、マドラに於ける總輸入額を見るに、一九二九年には百二十八萬四千九百九十二盾で、内支那、香港よりの輸入額は、合計百二十四萬六千盾の巨額を占め、一九三〇年、一九三一年も亦同樣にて大部分香港、支那よりの輸入で、支那製紙傘は當地に於ける雨傘の需要を獨占して居る。詳細は左の如くである。

爪哇及マドラ紙製傘輸入額

國別	一九三一年	一九三〇年	一九二九年
香港	一〇〇、六五三打	五五、五二打	一〇四、六八三打
支那	三二六、二六三盾	三二三、二〇九盾	五四〇、八四一盾
日本	一二五、八一九	八五、一五〇	一二九、二八六
合計	三九一、〇七三	三四六、二七六	七〇五、一九三
港別	九、七一六	九、五〇七	五、〇五〇
	三六、〇二五	五一、五四六	三三、九四〇
	二三六、一〇一	一五〇、二六九	七四三、四〇六
	七四三、四〇六	六二一、六七一	二三九、八七四
バタビヤ	八〇、三八九	五八、六五六	八五、八二八
スラバヤ	二四五、六七六	二三五、二一七	四五七、一一七
スラマン	七六、五〇七	四七、五三八	八九、四一三
チエリボン	二三二、八四三	一九二、八五〇	四六九、八四四
	六七、二九九	四〇、三一九	五八、〇七五
	二三二、七五〇	一六八、一七一	三三〇、五四九
	一一、七五四	三、七五六	五、四一五
	三二、五二五	一五、四三三	三〇、四七六

本邦製番傘は一九二二年前迄は相當當地に輸入され需要もあつたが、其後支那製番傘に壓迫を受け爾來著しく減退を示すに至つた。今、僅に輸入され居る本邦製番傘と支那製番傘との卸値段を掲ぐれば左の如くである。

	日本製	支那製
一打の卸値	四盾〇〇仙	二盾四〇仙
一打の卸値	一盾〇〇仙	一盾〇〇仙

右の如く支那製品は本邦製品に比し、價格が著しく低廉なると實用向に製作されて居るが爲め、當地住民に最も歡迎されて居る、今、支那製品が何故に實用向なるかを見るに、柄を拄げ腕に掛け或は杖代用として携帶し得る樣に製作され、加ふるに價格が頗る低廉なるが爲め、高價に而も携帶不便なる本邦品を壓倒するも何等怪しむに足らんのである。本邦品の改造に就ては、當所は數年前既に當業者の注意を喚起したるも、未だ當地の需要に適する樣に改善されず、依然として從來通りの我國内地向需要のもの其儘が當地に輸入されて居る。鄕に行ては鄕に從へとの譬の如く當地需要者の趣味嗜好に適するものを製作輸出せざれば、如何なる努力犧牲を拂ふも、需要は益々減退するのみにて增加を見る事は至難である。

支那製雨傘そのものは紙質、骨の構造、油の掛方等、本邦品に比し極めて粗雜であつて、耐久力の點に於ても頗る薄弱ではあるが、元來當領住民には金錢の貯蓄觀念に乏しきと同樣に、本品の如きも當地に於ける雨期即ち六ケ月間の使用に堪へしむれば可なりと云ふ風で、決して之れを翌年の雨期まで保存使用せんとするものは尠い。從つて支那製品の如く品質粗惡、且つ廉價なるものを最もよく愛用し、而して毎年之を新調するを常とする。需要期は云ふまでもなく、當地の雨期、即ち十一月頃より四、五月頃までゞある。

本邦よりの番傘は一般に一本宛紙袋に容れ、六本宛を一括とし、二百本を一梱とし其隙間には該紙を挿入し、動搖を防げるを以て、包裝上の缺陷に基くクレームの生じたる事は殆んどない、然るに傘に塗布したる油が充分乾燥せざるものを其儘包裝出荷するものあるが爲め、張紙が互に粘着し、傘を開かんとするに際し往々破損する事あり、故に本品は充分乾燥の後包裝すると共に需要者の趣味、嗜好に適する樣に改善を加へ、併せて製造原價の低廉を圖るを要すべく、斯くて金禁止以來の爲替安と相俟つて支那製品の販路を次第に侵蝕することは容易なりと推意さる。

而して紙張日傘は前述の如く次第に需要を減退したとは云へ今尙相當の需要がある。當地に輸入されて居るものは十六吋乃至十八吋大のものが多く、竹骨の數は二十四本、三十二本ものである、而して高級のものは紙の裏張には寒冷紗を使用して破損を防止して居る。今、當地に於ける卸價格を示せば左の如くである。

二十四本骨	一打（十六吋）	一盾〇〇仙
三十二本骨	〃（十六吋）	一・五〇〃
三十二本骨	〃（十八吋）	二・六〇〃

而して紙張日傘は殆んど本邦品の獨占の樣である。偶々支那製の輸入を見るに至り番傘と同樣携帶に便ならしむる爲めに、前記雨傘の如き構造を有するもの丶樣であるが未だ其額は僅少である。

（昭和八年一月スラバヤ日本商品陳列所報告）

九　英領印度

第一節　本邦品と外國品との競爭

紙製品は種類非常に多く且つ一種類の商品にて纏りたるもの少なき爲め、商品別に一々區別して記載する事困難なるが、大體の需要狀態を見るにノートブック、帳簿、封筒、レターペーパー、ファイル等の文房具類、荷札及びプレイングカード、アルバム、裝飾品提燈、同小旗、同造花などを主とし、其他トイレットペーパー、ナプキン、一閑張製品等の雜貨並にクリスマス前にカレンダー、クリスマスカードなどの賣行があるも何れも數量は僅かである。右の內プレイングカードの輸入高は、年額百二十萬留比餘に達し、從來白耳義及米國より輸入せしが、昨年末以來圓價低下に伴ひ本邦よりの入荷非常に增加した。

文房具類は統計なき爲め、的確なる數字不明なるが、相當の金高に達せるもの丶如く、輸出國は大部分英國にして本邦よりは少量のノートブックが入荷するのみ。裝飾用提燈類は、本邦よりの輸入最も多く、殆んど獨占狀態にありしが、近年提燈の代用品として各種色電球の使用增加せる爲め、同品の賣行は非常に減退した。トイレットペーパーナプキンなどは、在留外人間の需要に止まり、印度人間に餘り使用せられざる爲め賣行は少い。前者は米國より、後者は獨逸より入荷する。一閑張製品は數年前漆塗の箱物（ハンカチーフなどを入れる小箱）が本邦より入荷し、一時相當の賣行を見たが昨今は全く杜絕の狀態である。

第二節　需給並に取引

當地にて需要さる丶紙製品は、プレイングカード、裝飾用提燈、同小旗、同造花、ノートブック等にして、之等の

需要期は大體八、九月頃より翌年二月頃を最好期とする。最近の卸及小賣値段は、

プインブカード	日本品廉價品卸賣	一グロス	一〇留比
〃	上物ユニバーサル四八號	〃	二二〃
〃	一〇一號	〃	一五〃
〃	七七七〃	〃	二一〃
〃	〃 パーソンス一二三號	〃	一五〃
白耳義品	ジヤムボウ五號	〃	二六〃
〃	スイミングスポート	〃	二七〃
〃	ライオン印一三二二號	〃	一五〃
〃	スポーツマン	〃	三〇〃
〃	グレートモガル	〃	二五〃
米國品	グレートモガル	〃	四五〃
〃	バインシクル八〇八號	〃	四八〃
裝飾色提燈	日本品ビーヅ附	一打	二留比四アンナ乃至七留比
〃	ビーヅ無し	〃	一留比八アンナ乃至三留比八アンナ
獨逸品		〃	二留比乃至一〇留比
裝飾用造花	日本品	一打	二留比四アンナ乃至五留比
獨逸品		〃	三留比乃至三〇留比
ノートブック	日本品索引附	一グロス	二四留比
〃	索引なし	〃	二一留比
英、米品索引附		一打	四留比乃至一〇留比

荷札	米國品	一千枚	三留比乃至七留比
ファイル(書簡綴込)	獨逸品	一打	一〇留比八アンナ乃至一二留比
封筒	英國品オクタボ	一千枚	四留比八アンナ
〃	大型	〃	六留比八アンナ
〃	オブロング	〃	五留比
ナプキン	獨逸品	一千枚	八留比乃至一〇留比
米國品		五十枚	一二アンナ

取引は凡てコムミツションエーゼント(輸入業者)を經由し、代金は爲替手形によつて決濟し、其種類はD・P三十日拂を普通とする。

第三節　本邦品の缺點と改善策

品質上の缺點　一般に粗製品多く、プレイングカードは相當上質のもの歡迎せられ一グロス二十五留比乃至三十留比見當のもの需要の大部分を占むるにも不拘、從來本邦よりの入荷は一グロス十留比内外の極めて粗末なる品物が多い。尤も昨年來圓價低落に伴ひ可なり上質の品入荷しつゝある模樣なれば今後一層品質の改善に留意するを要する。文房具類も同樣にて歐米品と比較する時は、品質遙かに遜色あり殊にノートブック其他帳簿類は綴方甚だ粗雜にして容易に破損する。提燈、旗、造花等の裝飾用品は、糊の加減か害虫の被害多く保存に堪へずとの非難を屢々當業者より耳にする。

取引上の缺點　積出期日、荷造り方法に關しては、最近苦情著敷減少したるが、尙往々契約相違を見聞する事があり、積出期日は荷受主が當該市場に於ける賣行シーズン、金融關係などを考慮して適當に取極めあるものなれば、勝手に遲速せしめ又は分割積出數量を嚴守せず、十箱送荷すべきものを九箱或は十一箱送荷する如きは荷受主に非常なる迷惑を與ふ、又荷造り方法は運輸機關の狀態によつて適當のサイズ、重量に定めたるものなれば是又隨意に改變する事は不可で、例へば汽車、自動車の便なき奧地にありては、運送機關に駱駝を使用せる爲め、之等奧地向の商品は駱駝の脊に乘せ得る寸法、重量に荷造りせざる可からず、然るに小型荷造りは單價に影響する關係上、邦商中徒らに大型荷造りを好み、甚だしきは小型荷造りに應ぜざる者ありと聞く。之れに反し歐米各國當業者は出來得る丈け顧客の便宜を計り、常に煩雜なる荷造りにても快よく引受け少しも嫌忌する事はない。尙販路擴張に就ては今少し積極的に活動を要する。歐米の當業者に絕へず新製見本を取引先に送付し、市價變動ある時は、註文の有無に不拘時々新規オフハーをなして得意先の參考に供し、廣告宣傳を充分にして一般の需要喚起に努むる等出來得る丈け積極的に活動せるが、邦商は一度見本を送附すれば其後は取引先の照會に對してのみ回答し進んで需要の喚起に努むる者少なく甚だしきは二、三年も前の古き見本のまゝ取引を繼續する爲め、其間品質の變化等ありて紛議を惹起する事がある。次いで販賣方法は本邦商人の多くが多數の取引先きを有し同一商品を數軒のコムミッションエーゼントを通じて販賣する傾向あるも、右は徒らに競爭販賣を敢行せしむるのみで弊害が多いと思はるが故に、成るべく一手に取扱はしめ代理店制度によるを可とする。されば印度人の嗜好をよく研究調査して適當なる商品を送ると共に、當該市場に於て

賣行良好なる各種カウンターサンプルを集めて品質、型狀、色合等に關し充分研究するを要し、尙海外競爭品の賣行狀態を調査して對應策を講ずることが肝要である。

尙本邦當業者の注意すべき點は、印度人の一般生活狀態が非常に質粗で變質的のものを歡迎するから體裁、裝飾などに意を用ひたる高價品よりも堅牢にして實用向のものが評判よく、又商品のデザイン並に商標は、印度人の信仰關係を考慮する必要があり、一般印度人は頑迷に近き信仰心を有するが故に、彼等の信ずる神佛の像又はそれに關係ある物體を使用するを可とする。然し商品の種類及び使用の場所をよく研究して適當に用ゆる事は勿論、必要にして苟くも之を冒瀆する意味に使用するは全然不可なり、又印度教徒は肉食を嫌忌する爲め、ナプキンに動物の圖案を用ゆる事禁物である。

第四節　本邦品の將來

本品中プレイングカードは年額百二十萬留比餘の輸入高に達し、相當需要を有するが故に印度人の嗜好に適するものを供給して販賣方法宜敷きを得る時は大に發展の餘地ありと信ずる。又文房具類に屬するノートブック、封筒、帳簿類は普通品質のものは印度內地に於て製作可能なるを以て、輸入品は上質の品を要求する次第であるが、邦品は概して印度製品に匹敵する廉價品多き爲め、充分なる發展を見ざる次第なれば、今後品質の改善に留意して歐米品に對抗し得る上質のものを供給するに於ては相當發展の餘地があらう。

（昭和七年十二月日印協會甲谷陀日本商品館報告）

第十四章　斯業の改善に關する當業者の意見

包裝荷造は木、莚、日常の食器、容器は金屬、硝子、陶器で作らなくてはならぬ時代は、最早過去のことに屬し、今や、進歩したる化學を應用して紙で作られる時代となり、紙製品の範圍は、紙函、扇子、團扇、帳面よりコップ、スプーン、皿、ランプセット、レコード、カーテン、紙石鹸、敷物、建築材料としての壁紙は勿論、スレート、タイルに代はる堅厚紙、或は最近外國で發明せられたるモートルに及び、單に日常生活のみではなく、一般工業界へも進出せんとし、その範圍は果たして何處まで擴大するか、全く豫想を許さずその需要も今や世界的となりつゝある。然るに莫大小、硝子製品等が我國重要輸出品として隱然重きをなしてゐる今日、紙製品の輸出額が尙僅かに二百萬圓に過ぎないことは、甚だ遺憾とする處である。

大阪に於ける各種紙製品個々の將來に關しては、既に各章に於て概說したる通りであるが、要之商品の生產に際して、機械力よりも、寧ろ人手に依る處大なる手工業—即ち生產費の中工賃が尠からざる割合を占むる事業—にあつては、大阪の如き生活程度高き、從つて工賃の低廉ならざる大都會に於ては、今後發展の見込尠く、其の中心が漸次都市より地方へ移らんとする形勢にあることは當然である。而して紙製品工業中にあつても比較的機械力を多く利用して工場生產を爲し得るものは別とし、然らざるものは、商品の集散地としては兎も角、生產地としては必ずしも前途有望とは稱し難いものがある。唯大阪は東京市に次ぐ印刷業の發達せる都會であるから、紙製品工業の如く、製品の

大部分が、印刷と密接なる關係を有する工業に於ては、當業者今後の努力如何により或る程度迄其の發達興隆を期することは難事ではない。

次に斯業にありても他の商品と通有の諸種の缺陷があり、今後改善を要すべき點が少くないが、今、當業者の稱するところを綜合すると、大體、(一)金融難緩和策の考究、(二)原料の共同購入、(三)販賣方法の統制、(四)賣掛代金回收方法の改善、(五)製品の單純化、(六)從業員待遇の統制、(七)統制力ある團體の設置、(八)輸出の振興と共同輸出等が擧げられる。

(一)　金融難緩和策の考究

信用力大なる當業者は別とし、一般に金融梗塞せる時如何にして之を緩和するかは、固より經營の大小によつて一樣でないが、パッキングケース、紙函、その他印物商品は金融の對象物として擔保に供せらるゝこと至難にして、その他の商品も亦公定相場なく、且つ容積が比較的大であるから恒久的の擔保物に適せず、之によつて金融を求むることは極めて困難である。從つて勢ひ他の方法による譯であるが、普通大經營者は一時的に多量の原料を購入し得る關係にて、之を掛買にて購入して倉庫證券に代へ、銀行より融通を受けてゐるに對し、小經營者は常に小口にて當用買とせる爲め、かゝる方法によることを得ず、次ぎの中の何れか一を撰んでゐる。即ち

(一)商品を極く短期間金融業者に提供して金融を受くる場合。

(二)原紙を掛買として卸商又は需要者から市價よりも安價に注文を引受けて製造し、又は見込にて製造して之等のも

のを投賣的に販賣する場合。

(三)賣却代金は月末勘定を原則とするも、特に分割拂を依頼して現金を得る場合。

等にして、その他特別の關係ある卸商に依頼し、又は機械、器具等を擔保として融通を受くることもある。而して(一)によるものは、多くは質屋その他の金融業者を利用するもので、高歩の金利を徴せられ、現在質屋の金利は、一圓以上五圓までの融通を受けんとせば、一ヶ月一圓につき三錢、容積の大なるものは、更に若干金利が高くなる。(二)によるものは原料を容易に購入し得ることより出でたる方法である。原紙は規模の大小を問はず、少しの間取引を繼續し、信用を得ると二十日又は二十五日締切、翌月五日拂で購入することを得、締切の翌日に購入するときは四十日乃至四十五日は公然と借ることが出來、支拂を手形又は内金とせば更に長期間掛買とされ得るから、之を利用し所謂他人の原料にて商品を製造し、營業すると云ふ極めて利智に富んだ方法である。(三)によるものは既に商品が卸商又は需要者に納入されてゐるので、比較的有利な融通方法であるが、それでも賣却代金の二分内外は控除される。(三)は單に個人的の關係で、之による惡影響は他の同業者に餘り及ぼさぬが、(一)と(二)就中(二)の如きは、市價を亂すこと著しく、延いて粗製濫造の因を釀成するに至る。

茲に於て以上の金融難を救濟し、この弊害の除去に努むるの要が生ずる譯であるが、同業者中には嘗つて個人的に出資し、金融難を訴ふるものに對し製品を一定の期間供托せしめ、日歩二錢五厘前後にて相當の金額を貸與し、一方その期間内に商品を自由に販賣せしめ、販賣せし時その代金が貸與せし金額よりも多き場合は差額、更に代金が手形

拂なるときは、手形日歩を差額から控除して返却すると云ふ制度を設け金融難打開より生ずる弊害と高日歩に惱む當業者を救濟し、相當の成績を擧げてゐたが、暫時にして利用するものが漸減し、且つ個人組織にては兎角情實に流れ易く延いて損失を招くと云ふ弊も伴はれたので、現在は之を中止してゐるが、叙上の諸點に鑑み、之が救濟策の考究は必要且つ急務と云ふべく、その一方法として團體を組織し、低利資金の融通を仰ぎ嚴重なる監督の下に借入金の償還を行ふ樣にすれば相當の効果はあるであらうと說くものもある。

(二) 原料の共同購入

紙製品に關して原料を共同的に購入せるものは紙函及び封筒製造者の一部を除く外殆んどなく、使用する原紙は別漉として注文し、又は在庫品を購入してゐる。別漉として注文する場合、上質紙の如きは、外國では普通二噸以上、見本注文であれば一噸位でも製造するも、本邦にては製紙會社が作業上困難なる理由にて最小限度を一日の能力丈けとし、それ以下のものは引受けぬのを常とするので、勢ひ高價なる外國品を使用するか、又は當座に不必要なものまでも購入しなくてはならぬことゝなるが、共同購入を行へばかゝる不便が除かれ、且つ運搬費を省き信用も嵩むので割安に購入し得るのである。

(三) 販賣方法の統制

同種製品でも凡ての製造者が、各自に賣込んでゐるので、その間價格の競爭が生じ、且つ賣込又は集金に際しても一つの商店に各製造者が出張し、その回數は市内は月數回、地方は一ヶ月に二、三回若くは五、六回に及び、之に要

する旅費その他の諸經費は決して少くなく、普通賣上金の二分内外、多きは四分位を占むと云はれてゐる。

（四）賣掛代金回收方法の改善

掛賣代金は月末勘定の現金拂を常とするも、地方向は回收が年と共に遲れ勝ちとなり、現今の如き不況時には殊に甚だしく長きは一ヶ年以上に及び、中には全く回收不能に終るものすらあり、之が因となり、營業上蹉跌を招くことも少くない。之に關しては大阪寫眞臺紙業組合の如きは、一種の制裁規定を設け、不支拂者に對しては、組合は一定の期間を定めて完納すべきことを警告し、その期間内に支拂なきときは、更に警告を内容證明として通知し、尙その期間内に支拂のなきときは、最後の手段として不賣同盟を行ふことゝしてゐる。併し斯くの如き制裁は同業者の少數なるときにのみ完全に行はれ、多數の同業者を有する業界には、果してよく實施され得るか疑問とすべきも、何等かの基準を定め、共同して善處することは緊急事であると同時に、右組合の制裁も今一歩を進め、賣込當時各同業者が互に相連絡して調査し、信用不安なるものに對しては、事前に送荷を中止し、之が防止に努むべきである。

（五）製品の單純化

同一種類の製品の中でも、形狀並に色合等種類多く、製造上極めて手數を要し、原價を嵩むるのみでなく、取扱上にも不便が少くない。封筒の如きはその最も適例で、之が單純化の必要あるは看過し得ぬところである。

（六）從業員待遇の統制

從業員の待遇に關しては、近來種々論議されつゝあるが、少くとも同一種工場に於ける祝祭日、催物の回數、給料

の最低、最高の標準、就業時間の長短等を統制することは、能率の增進上及び、從業員の移動、ストライキ等を防止する上に於て最も必要である。

（七）統制力ある團體の設置

大阪市内の紙製品製造者は全體で數千戸に及んでゐるが、之に關聯する團體としては、重要物産同業組合法に基き設立されたる大阪紙函製造同業組合と一部の製造者が加入せる大阪製本同業組合及び大阪印刷同業組合の三つ、準則組合としては大阪梱包紙布商工組合及び大阪團扇商組合二つあるのみ、その他は同業者の申合せにかゝるもの十餘あるに過ぎぬ、而も之等の中で定款に定むる事業を着々行ひつゝあるは極めて少數である。然るに原紙製造者側を見ると、一般洋紙には日本製紙聯合會あり、又板紙には日本板紙同業會、茶板統制會あり、之等は少數の同業者を網羅し、一糸亂れざるの歩調の下に統制力を發揮し、生産調節、製品の管理、輸出品に對し奬勵金の交付等を實行し、絶えず紙加工業者側に脅威を加へつゝあるを想ふとき、加工業者側にも統制ある團體を設け、之が對抗策を講ずることは斯業發達上極めて必要とされてゐる。

（八）輸出の振興と共同輸出

紙製品は現在トランプを除いては、大部分内地向にして輸出向としては全産額の一割内外のものもあるが多くは全産額の五分以内中には殆んど皆無のものもある。併し優良品を製造し宣傳大に努めなば、今後輸出增加の可能性あるものも少くないから、限りある内地のみを販路とせず廣く海外に販路を求めなくてはならぬ。而して現在の賣込は、

海外に支店、出張所を設け若くは支那、南洋方面には店員を派出して行ふものもあるが、多くは大阪、神戸在住の輸出商を經て居り、徒らに彼等に漁利を貪らしめてゐるのみでなく、製造者は海外の風俗、民度を知悉し得ぬ爲め、折角の好機を空しくすることも少くない。されば絶えず彼地に出張し、海外の事情に精通する必要あるも、由來本品は輸出が極めて少く且つ價格が低廉である爲め、之れのみにて遠く海外にまで出張することは、至極困難であるから、少くとも同種營業者が互に共同し、組合の如き機關を設置し、以て之が開拓に努むべきである。

尙改善策の一として當業者間に叫ばれつゝあるは製紙と加工とを同一の經營にて行ふことにして、若し之が實現せば絶えず起りつゝある原紙購入に關する各種の不便は自ら除かれ得るも、現在の如き需要狀況では果して採算がとれ得るか否かゞ問題である。

正誤

百十四頁十四行及百十五頁一行ノ大閣ヲ太閤ト

又二百六頁三行ノ八、九月ヲ七、八月ト訂正。

昭和八年三月十五日印刷
昭和八年三月十七日發行

大阪市役所産業部調査課

一　大阪市北區玉江町一丁目十一番地
印刷所　合名會社　大石堂活版部
大阪市北區玉江町一丁目十一番地
印刷人　石西豐藏

昭和八年三月十五日印刷
昭和八年三月十七日發行

大阪市役所産業部調査課

一　大阪市北區玉江町一丁目十一番地
印刷所　合名會社　大石堂活版部
大阪市北區玉江町一丁目十一番地
印刷人　石西豐藏

昭和八年三月十日發行
昭和八年三月十五日印刷

大阪市西区靱本町一丁目十番地
發行人　江　口　雲　治
大阪市北区西天満二丁目十二番地
印刷人　倉　橋　次　郎
大阪市北区西天満二丁目十二番地
印刷所　倉橋活版製造所

大阪市産業叢書第十五輯

大阪の自轉車工業

大阪市役所産業部調査課

はしがき

我國は世界的に見て重要なる自轉車使用國の一にして、又その生産上に於ても獨逸に亞いで世界第二位と云ふ重要なる地位にある。大阪の自轉車工業は歐洲大戰により略々確立され、大戰後は歐米の産業恢復と共に一時打擊を受けたが、その後關東大震災を契機として著しき發展を遂げ、今や工場數、職工數、生産高及び輸出額の何れに於ても全國中首位を占めて東京、愛知、兵庫等の斯業中心地を凌駕してゐる。殊に自轉車の輸出にありては大阪港のみにて全國の七割餘を占める盛況である。

大阪製自轉車の販路を見るに、國内市場は從來名古屋以西に限られてゐたが、關東震災以後遠く關東、東北地方に迄進出するに至つた。海外市場としては支那、蘭領東印度、英領印度を三大市場とし、其他滿洲、海峽植民地、比律賓、佛領印度支那、暹羅を首め阿弗利加、近東地方に迄及んでゐる。これ等地方は概して未だ交通の便充分ならざる地方にして、輕快且つ安價なる小交通機關としての自轉車に對する需要は益々增進の傾向にある。されば斯品は今後有望なる輸出品として最近商工省により重要輸出品の一つに加へられた。

茲に於て生産、取引等斯業全般に亘る調査の結果を大阪市産業叢書第十五輯として上梓することゝしたのである。

昭和八年三月

大阪市役所産業部調査課

目次

第一章　自轉車の沿革……一
第二章　我國自轉車工業の發達……五
第一節　我國自轉車の世界的地位……五
第二節　大阪自轉車工業の發達……一〇
第三章　自轉車工業と大阪……一六
第一節　生產上に於ける地位……一六
第二節　輸出上に於ける地位……一八
第四章　生產狀況……一九
第一節　製造戸數及職工數……一九
第二節　製品の種類及生產額……二〇
第三節　勞働事情……二三

第五章　原料……二六
第六章　生産工程……三三
第一節　フレーム……三四
第二節　ギア及クランク……四三
第三節　リム……四七
第四節　ハンドル……五〇
第五節　チエーン……五五
第六節　ハブ……五八
第七節　フリーホキル……六七
第八節　サドル……七一
第九節　スポーク及ニツプル……七三
第七章　生産組織……七六
第一節　工場の組織及規模……七六
第二節　生産の態様……七八
第八章　取引事情……七九
第一節　内地取引……七九
第二節　輸出取引……八四
第三節　市場の分析……八八
第九章　海外市場に於ける本邦自轉車……一〇二
一、哈爾賓
第一節　需給狀況竝に本邦品と外國品との競爭……一〇三
第二節　取引狀況及取引慣習……一〇四
第三節　本邦品及本邦當業者の欠點……一〇六
第四節　本邦品の將來……一〇七
二、奉天
第一節　需給狀況……一〇七

第二節　本邦品と外國品との競爭……一一〇
第三節　本邦品及本邦當業者の欠點……一一一
第四節　本邦品の改善策……一一二
第五節　需要者の嗜好と本邦當業者の留意すべき點……一一三
第六節　本邦品の將來……一一三
第七節　自轉車製造狀況と取扱商……一一四

三、大　連

第一節　本邦品と外國品との競爭……一一五
第二節　需給狀況……一一〇
第三節　本邦品の欠點竝に改善策……一一三
第四節　自轉車取扱商……一一三

四、天　津

第一節　本邦品と外國品との競爭……一一四
第二節　需給狀況竝に取引方法……一一六
第三節　本邦當業者の留意すべき點……一一八
第四節　自轉車製造狀況竝に取扱商……一一九

五、漢　口

第一節　本邦品と外國品との競爭竝に需給狀況……一二二
第二節　取引狀況及取引慣習……一二三
第三節　本邦品及本邦當業者の欠點と改善策……一二四
第四節　自轉車取扱商……一二四

六、上　海

第一節　本邦品と外國品との競爭……一二五
第二節　需給狀況竝に取引狀況……一二六
第三節　本邦品及本邦當業者の欠點と改善策……一二〇
第四節　自轉車製造狀況竝に取扱商……一二一

七、英領馬來

第一節　本邦品と外國品との競爭竝に需要狀況……一四二
第二節　取引狀況竝に取引慣習……一四七
第三節　本邦品及本邦當業者の欠點……一五〇
第四節　本邦品の改善策……一五三
第五節　需要者の嗜好と本邦當業者の留意すべき點……一五四
第六節　本邦品の將來……一五六
第七節　自轉車製造狀況竝に取扱商……一五七

八、蘭領東印度

第一節　本邦品と外國品との競爭竝に需給狀況……一五九
第二節　取引狀況及取引慣習……一六八
第三節　本邦當業者の留意すべき點……一七一
第四節　本邦品の將來……一七三
第五節　自轉車製造狀況竝に取扱商……一七三

九、英領印度

第一節　本邦品と外國品との競爭竝に需給狀況……一七六
第二節　取引狀況及取引慣習……一七八
第三節　本邦品及本邦當業者の欠點とその改善策……一七九
第四節　需要者の嗜好と本邦品の將來……一八一
第五節　自轉車製造狀況竝に取扱商……一八二

十、埃及

第一節　本邦品と外國品との競爭……一八三
第二節　需要狀況……一八五
第三節　取引狀況と本邦當業者の留意すべき點……一八七
第四節　自轉車取扱商……一八九

十一、土耳古

第一節　需給狀況……一九〇

第二節　本邦品と外國品との競爭……一九一
第三節　取引狀況及取引慣習……一九八
第四節　本邦品及本邦當業者の欠點……二〇〇
第五節　本邦當業者の留意すべき點……二〇一
第六節　自轉車取扱商……二〇四
第十章　資金及金融……二〇六
第十一章　自轉車工業助長機關……二一三
第一節　大阪自轉車商工組合……二一三
第二節　全國自轉車業組合聯合會……二一六
第三節　日本自轉車輸出組合……二一七
第四節　大阪府自轉車工業組合……二一八
第五節　日本自轉車工業組合聯合會……二二一
第十二章　斯業の前途とその改善策……二二三
〔附錄〕　大阪の主要自轉車製造業者……二四〇

大阪の自轉車工業

第一章　自轉車の沿革

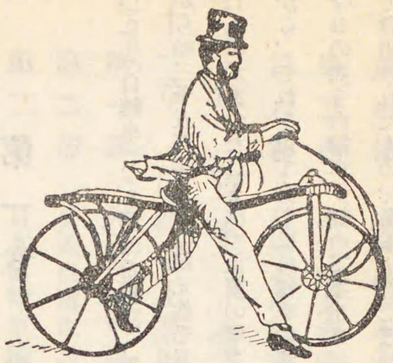
Cycle（自轉車）なる語は希臘語"Kuklos"（輪）より出でたるものと稱せられてゐる。自轉車の起源を求むるに、今から約三千五百年も前の紀元前千五百年既に古代文明の發祥地埃及のバビロンに、自轉車と同一目的を以て考案されたものがあつたことは、孟買の壁畫に依つて實證されてゐるが、その形態は現在の自轉車とは似もつかぬものであるから、これを以て直ちに自轉車の濫觴とすることは出來ない。

今日の如き自轉車が初めて案出されたのは近世の事で、一六六六年佛國ロッシエルの醫師エリー・リチャルト氏に依つて發明されたものである。然しこれとても自轉車とは稱せずボビー・ホース（玩具馬）（第一圖參照）と稱せられ、その名稱が示す通り極めて幼雅なものであつたことは言ふ迄もない。木製の輪に太い木を固く接合しその木に跨り兩足で地上を蹴つて飛び廻る仕掛で、現在英國の博物館に保存されてゐる。

玩具馬は右の如く兒戯に類するものであつたが、自轉車の起源であることには一般意見の一致する所である。一六

六六年玩具馬が佛國に創造されてから今日の如く至便なる運搬交通用具となるまでには約二百六十六年の年月が流れてゐる。その間に幾多の人々に依つて改良に改良が加へられて今日の如き完全に近き自轉車となつたのである。以下年代順にその發達史を概觀しよう。

第一圖　ポピーホース



玩具馬が發明されて後約百年間は自轉車に關する何等の記錄がない所から見れば、餘り顯著な進歩はなかつたのであらう。一七六六年に至つて四輪車が現はれた。これも佛國のダブリン學校教授に依り考案されたものである。同教授は右の四輪車に種々の改良を加へて一七七七年ルイ十六世メリー・アントアネットの面前で試乘し非常な稱讃を博したことが記錄されてゐる。一八一六年には同じく佛國人で寫眞の元祖と稱されてゐるニユピース氏が二輪車を發明してこれをレリーピースと名付けた。

斯くの如く佛國で發明に發明を重ねてゐる時これに刺戟された英國では一八三九年マクミラン氏が後輪が前輪よりも大きい自轉車を案出した。

一八五五年には巴里の十三歳の少年エルンスト・ミンショウがクランクとペタルを考案した。この少年は鍛冶屋の息子であつたが、父が常に使用する廻轉砥石のハンドルから思ひ付いたと云ふことである。ミンショウは一八六二年更にその他の各部分に工夫を凝らして完成車を得たが、それは震動が烈しかつた爲め「骨ゆすぶり」と云ふ惡名を付け

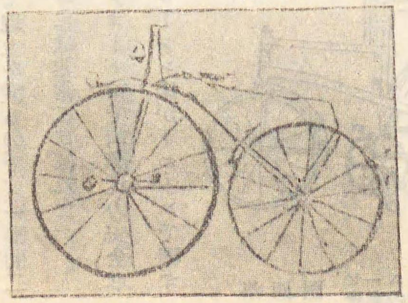
られた。然し彼はこれに懲りず尙も改良を加へ一八六五年ベロシピード(Velocipede)(第二圖參照)と稱する車を製作した。ベロシピードは飛脚車と云ふ樣な意味のもので、未だサイクル "Cycle" (自轉車) とは稱してゐなかつた。だが自轉車が實用に供せられたのは凡そこのベロシピードを以て嚆矢とする。

一八六八年頃英國ではコベントリ市の或るミシン會社の技師トーナー氏が、佛國からこのベロシピードを取寄せて模倣製作したところ嶄新で便利なものとして推賞された。

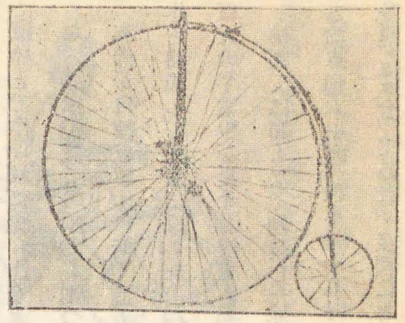
トーナーの作つた車の輪は木製で、今のタイヤー代りに鋼鐵を卷き付け、サドルは木の上に薄い皮を張つてあつた。車體はスプリングの長い平たいもので、鋼鐵板と鐵棒とで作られたから迚も重いものであつた。バイシクル "Bicycle" (自轉車) なる語は丁度この頃から創つたと云はれてゐる。

英佛が自轉車製作に斯く進歩發達を示してゐる時に米國に於てもトーナー氏の製作と前後して旺んに作られ、一八七〇年には五十の自轉車學校が出來、二ケ月に三百人の卒業生を出す有樣であつた。

第二圖　ベロシピード



佛國では間もなく勃發した普佛戰爭で自轉車製作は暫時衰へたが、英國では同戰爭後間もなくオーデナリ型と稱する前車輪六十吋、後車輪十八吋の奇妙な恰好のものが作られた。英國ではこれをスター・マシン (Star Machine) (第三圖參照) と云つてゐた。我國にもこれが十數年後に傳つて達磨型と稱せられた。特に名古屋では明治三十四、五年頃ま



第三圖　スタート・マシン

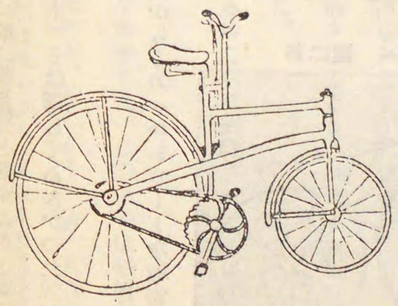
で小僧車として使用されてゐたが、金輪で騷々しいことは名古屋の一名物であつた。

一八七五年には英國の牧師チャレス氏が手廻式三輪車を發明した。腰を掛け兩手でレバーを動かしてスタンドの樣なもので地上を蹴るので、一時間二十二哩と云ふ快速力を出したから足の不具な人々には非常に喜ばれた。

一八七八年頃には米國ボストン市及びハートフォード市で前導式の安全車が作られ（作製者不詳）、一八七六年には英人ローソン氏がチェインで廻す車を作つた。次いで英國サセツクス州オスボン市の機械師ゼームス・スターレー氏は、後導チェイン式で丸ゴム輪、股柱、球受のある全く現代的な自轉車（第四圖參照）の作成に成功した。この人は輪界に最も著名な人で一八八三年六月故人となつた。

一八八五年には英國ローバー會社がスターレー氏作成のものに改良を施してローバー型として賣り出した。これは主にレース用として作られたもので、競爭車の元祖と云つて宜からう。

當時同じく英國のハンバー會社がローバー型の向ふを張つて安全小型自轉車を



第四圖　ゼームス・スターレー氏發案の自轉車

作つた。それは達磨型とは反對に前輪が後輪より遙かに小さいものであつた。

一八八八年に至つてベルファストの獸醫ダンロップ氏が空氣入のタイヤーを發明した。次いで一八九三年にはダンロップ會社が設立された。ダンロップ氏は前記スターレー氏と共に輪界の二大恩人と稱しても過賞ではあるまい。

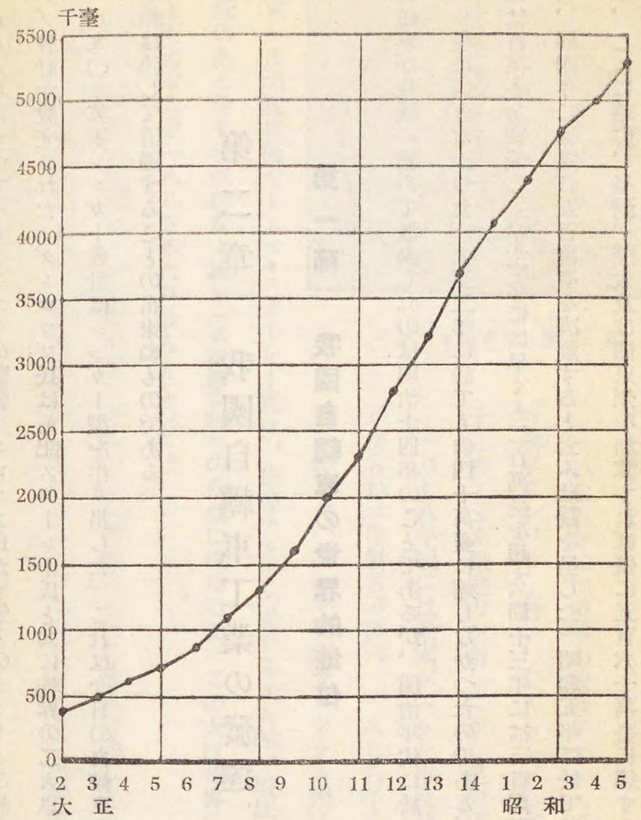
一八九〇年英國シンガー會社はシンガー型を作り出した。これは今日の自轉車の原型をなすもので、シンガー會社の功績は決して看過することの出來ぬものである。

第二章　我國自轉車工業の發達

第一節　我國自轉車の世界的地位

自轉車が我國に初めて渡來したのは明治十四年のことであるが、明治年代に於ける我國の自轉車使用數は云ふに足らぬ少數に過ぎなかつた。大正二年に於ても尙四十萬臺に達しなかつたのであるが、その後急足な增加を示し大正七年には百萬臺を突破し、大正十年には早くも二百萬臺を超え、同十三年には三百萬臺を拔き、昭和元年には四百萬臺に達し、同四年には遂に五百萬臺を凌駕すると云ふ壯觀を呈した。昭和五年に於ては內地のみにても五百三十餘萬臺を算し、これに朝鮮、臺灣、樺太及び關東州を加算すれば優に五百六十萬臺に達する盛況で、重要なる交通機關となつてゐる。我國に於ける自轉車の急激なる增加の趨勢は左表によつて明瞭に窺ふことが出來る。

▶ 我國自轉車使用數表 ◀



昭和五年	五、三一五	千臺
四年	五、〇二五	
三年	四、七五二	
二年	四、三七一	
元年	四、〇七一	
大正十四年	三、六七五	
十三年	三、二〇八	
十二年	二、八一二	
十一年	二、三一九	
十年	二、〇五一	
九年	一、六一二	
八年	一、二八八	
七年	一、〇七二	
六年	八六七	
五年	七〇六	
四年	五九八	
三年	四八七	
二年	三八八	

我國は世界的に見て重要なる自轉車需要國の一つである。今一九二九年英國で發行された "Review of the British Cycle and Motor Cycle Industry" なる小册子に就て見るに、世界に於ける自動式に非る普通自轉車の使用數は左表の如くである。

▼主要國別自轉車使用數表（一月一日現在）

	一九二七年	一九二八年	一九二九年
佛國	七、一一二、八一八臺	六、五八三、七二八臺	六、六一八、四〇七臺
英國	五、五〇〇、〇〇〇	五、八〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇
日本	四、八四四、一〇八	五、〇〇〇、〇〇〇	五、三〇〇、〇〇〇
獨逸	—	—	五、〇〇〇、〇〇〇
伊太利	二、八九二、五二三	三、四〇〇、〇四〇	三、五五〇、〇〇〇
和蘭	—	二、二五〇、〇〇〇	二、九〇〇、〇〇〇
白耳義	—	—	一、七〇〇、〇〇〇
丁抹	—	—	九〇〇、〇〇〇
米國	—	—	八〇〇、〇〇〇
瑞西	七五〇、二七七	七八四、三〇五	八〇〇、〇〇〇
瑞典	—	—	七五〇、〇〇〇

本表數字の正確性に就ては疑問の餘地もあるが、世界主要國に於ける消費の大略を窺知し得る。即ちこれによれば我國の自轉車使用數は佛、英に次ぎ世界第三位を占めてゐる。

又右小摺子により世界主要諸國の自轉車生産高を見るに、我國は消費に於て我に優る佛、英兩國を凌駕し、獨逸に次いで第二位を占める。殊に獨逸、佛國等が漸減傾向を示せる反面に我國の漸增傾向にあるは意を強くするに足る。

▼主要國別自轉車生産高表

	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
獨逸	二、〇〇〇、〇〇〇臺	二、五〇〇、〇〇〇臺	二、〇〇〇、〇〇〇臺	一、八〇〇、〇〇〇臺
日本	一、一〇〇、〇〇〇	一、二四〇、〇〇〇	一、四八〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
佛國	—	—	一、二〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
英國	六八〇、〇〇〇	六八〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇	八二〇、〇〇〇
米國	二六五、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇
伊太利	—	—	—	三〇〇、〇〇〇
和蘭	一五二、四〇〇	一八一、五〇〇	二〇五、〇〇〇	二二〇、〇〇〇
致須國	—	—	二一八、〇〇〇	二一八、〇〇〇
瑞典	一二五、四四四	一二八、四八〇	一三〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇
丁抹	八五、三六〇	七四、四〇〇	八〇、〇〇〇	八五、〇〇〇
加奈陀	二五、〇〇〇	二二、五八六	二七、九九九	三〇、〇〇〇

斯くの如き我國自轉車工業の發展と共に、我國は完全に自轉車の輸入國から輸出國へ轉換した。即ち我國の自轉車輸入額は貿易統計上明治二十九年に初めて約十萬圓と計上されたが、以後逐年增加し明治三十五年には完成車一萬五千餘臺、五十七萬餘圓の輸入の他に二十八萬餘圓の部分品が輸入されて居り、明治四十年には約三萬五千臺、百二十九萬圓の完成車と九十五萬圓以上の部分品が輸入されてゐる。大正元年には完成車の方は約一萬六千臺、八十五萬圓に減じてゐるが、部分品の方は反對に約二百三十萬圓に增加してゐる。完成車輸入から部分品輸入への轉向はこの産業の發達過程を示す興味ある一現象である。歐洲大戰中に於ける輸入は著しく減少し、大正六年の如きは僅かに八百七十七臺、十二萬餘圓の完成車と六十萬圓足らずの部分品が輸入されたに過ぎなかつた。然るに戰後再び輸入旺盛となり、大正九年の如きは完成車約一萬六千臺、百八十六萬圓にして、この方は大したことでもないが、部分品の輸入は四百八十餘萬圓に達し未曾有の多額を示した。但しこの内には若干の自動自轉車及び其部分品が含まれてゐる筈である。然しその後再び輸入は著しく減少し、最近に於ける輸入自轉車は大部分自動自轉車にして、普通自轉車の輸入は言ふに足らぬ少額である。

輸入の減少に反し我國の自轉車輸出は大正六年頃より漸次增加し、同年の十六萬餘圓より大正十年には約四十萬圓となり、大正十四年には一躍して二百三十萬圓に達した。昭和元年及び同二年は一時減退して二百萬圓を割つたが、昭和三年には二百六十萬圓となり、昭和四年には三百四十萬圓以上に躍進した。昭和五年には少し減じたが、尙二百

九十萬圓と云ふ數字を示してゐる。斯く我國の自轉車輸出額は尙未だ大なりとは云ひ得ないが、斯品は今後有望なる輸出品として最近では商工省によつて重要輸出品の一つに加へられてゐる。

第二節　大阪自轉車工業の發達

大阪に於ける自轉車も完成車の輸入から始まつたのは論を俟たないが、それも殆んど米國品で、英國その他歐洲品が輸入されたのは大分後のことである。販賣店としては荒木雜貨店、石原時計店等が明治二十七、八年頃から始めてゐるたが、共に副業であつて、一、二臺を手持せるに過ぎず、時には一臺もない事もあつた。明治二十八年角利吉氏が筋違橋兩詰に自轉車を專業とする販賣店を開いた。同店は大阪に於ては勿論、日本に於ても最初の自轉車專門販賣店であらう。然しそれも川口の宣教師から割引購入して販賣してゐるたものであるから當初は少量であつたに違ひない。何分當時自轉車に乘つてゐたのは川口に住んでゐた米國宣教師と日本人では富豪の子弟、其他尖端人等十四、五名に過ぎなかつた。これ等のハイカラ連は日曜毎に京都、堺或は奈良に遠乘りを試み、その快適な行列は路行く人の目を欹たしめたものだそうである。

明治三十年には京都の人大島卯三郎氏が大阪に轉じて自轉車の販賣を開始した。この頃迄の輸入は全部外人の手に依つたものであつたが、明治三十五年には現丸石商會の前身石川神戸支店が西長堀北通一丁目に移轉して英國品の直接輸入販賣を開始した。斯くて直接輸入の道が開かれたのと、自轉車が時勢に適した乘物で將來日本人の人氣に投ずる有望な商品であることに着眼して、これが販賣を始めるものが次第に增加した。即ち中村商會、東京双輪商店、少

し遲れて日米商會大阪支店、中谷商會等これである。

完成車の輸入に次いで部分品の輸入が始まつた。自轉車の組立を會得した結果、廉價で運賃、稅金共に安くつく部分品を輸入し、これを組立て、販賣するに至つたのである。然し完成車の輸入も尙繼續されたのは勿論である。次いで弗々部分品の製作が始められた。即ち明治三十三年には大阪の人眞島辰次郎氏が東京宮田製作所より技工を習得歸阪して南久寶寺町にて製造を創めた。これが大阪府に於ける自轉車製造の嚆矢であらう。明治三十四年には堺市の鐵砲鍛冶近藤某氏がハンドル、フォークの製作を、同三十六年には同市大泉喜八氏がフレームの製作を、翌三十七年頃には現大阪府自轉車工業組合長高木幸太郎氏の先代幸太郎氏が主にギヤ、クランクの製作を創めた。

前記の角氏は明治三十五年頃、當時畑地であつた福島に六百坪を購入して三百坪を本店とし、殘り三百坪に工場を創設して主にフレームの製作を創めた。製作職工三十人、組立工三十人位で、稍々組織的な工場であつた。然し當時フレーム製作と稱してもパイプは依然輸入品を使用したものであつて、パイプが作られるに至つたのはそれ以後のことである。丁度この頃大阪自轉車業組合なるものが生れたが、その加入者僅か七、八名に過ぎず、現在の大阪自轉車商工組合員數千五百六十四名に想到する時は正に隔世の感がある。

明治三十五年天王寺に於て第五回博覽會が開催さるゝや、角商店は三輪車、軍用車（瑞西製ホーレンゲを模作したもの）竝にウエストに似て後部に荷物臺を取付けたものゝ三種を出品した。その製造に直接從事したのは當時角工場に働いてゐた花堂仁之助氏であるが、同氏は元大阪鐵工所仕上部に勤めた關係上この方面の技術には堪能で、パイプの撓折

（ハンドル）には砂を詰め、その熔接は赤鑞を以てしたさうである。

明治三十七年頃から千川榮太郎氏等に依つてパイプの製作がなされた。即ち鐵心（シノ）を用ひて初め半曲し、次に上下兩タップに嵌めて鎚で上タップを叩いてこれを圓筒狀にし、赤鑞を以て熔接したのである。然しタップを用ひ三回位に區切つて叩くこの方法はどうしても凹凸が出來て無恰好なものであつたから、タップを廣くすることが考へられた。上下兩タップを廣くして二回で、後にはパイプの長さ迄擴げて區切らずに一回で濟ますことにしたのである。これで區切ることに依つて生ずる凹凸は除去されたが、それでも矢張り鎚で叩くことに變りはないから小さき凹凸は免がれ難く、現在の如き圓筒狀を作り得なかつたことは勿論である。この凹凸に堺、大阪の各業者は大正三年頃迄惱み續けた。

前記高木鐵工所に於て徒弟として（當時の工場は凡て徒弟制度で、その後漸次通勤職工を使用するに至つた）ギヤ、クランク、其他部分品の製作技術を習練せる渡瀨答吉氏は同所創業後間もなく自轉車二臺を試作した。然し實際製作されたのは車臺、ハブ、ギヤ、クランク、ハンドル等で、リム、スポーク、チエーン、サドル等の如き部分品は輸入品を使用したものである。

この頃までの自轉車は全部固定式、丸タイヤーであつたが、明治三十七年頃に木製リムが、同三十八年にはチューブ入丸タイヤーが、次いで同四十年には愈々金屬製リムが現在の如きタイヤーと共に輸入されて、その都度大阪の自轉車も影響を受けた。金屬製リムは初め半製品（耳のみとつてあつて輪狀でないもの）であつたから、之を輪狀にする必

要があつた。これに努力した人には加賀の新家態吉氏、大阪では田中恒次郎氏等があつたが、特に新家氏は成功のトップを切つて今日の第一歩を築いた。斯くて自轉車が外觀上今日の如き形狀を備へたのは明治四十年前後だらう。丁度この頃から英國製品（主に完成車）次いで其他歐洲品が輸入さるゝ樣になり自轉車が廣く普及された。

當時の自轉車は驚く程高價で所謂贅澤品であつた。同時に工業の立場から觀ても完成車は全部舶來品であり、部分品も多くは輸入に俟ち、製作さるゝに至つた部分品でも鎚で叩き鑪で磨くと云つた狀態で、全部手工業時代であつたのである。

明治四十一、二年と云へば日露戰勝の醉漸く醒めて、一等國日本の各工業が俄然勃興した時である。新興自轉車工業がこの機運に乘じない筈がない。大阪にても自轉車製造を創めるもの數多あつたが、特に堺方面では種々の部分品（特にフレーム）製作を始めるものが續出した。由來堺市は鐵砲、打刃物の產地として昔から名聲高き所にして、金屬品製作に獨特の技巧を有する者が多かつたが、鐵砲、打刃物等が或は官業となり、或は時勢に從つて需要減退すると共に、新工業自轉車に轉身したのは無理からぬことである。而してこの獨特の鍛冶技工が斯業の發達に貢獻したことは見逃せない事實である。以前より古自轉車の修繕、鍍金を業としてゐた宮林操三氏がリム製作を創めたのは明治四十二年である。爾來同氏がリムと鍍金に拂つた努力は沒却することの出來ないものがある。この頃から自轉車は漸次實用に供せられたが尙一般にはこれに危惧の念を懷き、自轉車は輕業師の乘るもので、一般の人々には危險だと考へるものが多かつた。この喰はず嫌ひで徒らに危險視する者も時運には抗し得ず漸次試乘するに至つたが、固定式に對

しては業者の方で内心危險を感じてゐた。從つてこれが改良を考案するものもあつたが、その成功せぬ内に間もなくフリー、ハンドル、ブレーキ、次いでコスター車又は部分品コスターの輸入を見、この惱みは解決されて了つた。固定式よりフリー又はコスターへの變化は一大變革であつて、金屬製リムに依つて外形を備へた自轉車はフリー又はコスターに依つてその内容を充實したと言へるだらう。コスター車が輸入されて間もなく、或商社は廣告宣傳の爲めに自轉車に依る富士登山（五合目迄）を試みたことがある。斯くの如き宣傳と自轉車は危險でないとの考へが自轉車の普及を促したことは言ふ迄もない。

自轉車が普及するに從ひ、その製作方面も漸次進歩發達した。ギヤの模樣はプレスで打拔かれ、齒切は五十枚位を重ねてフライス盤のカッターで切らるゝに至つた。輸入間もないフリー、コスターも堺市の福瀨氏、利田繁造氏等に依つてこれが製作を創められ、燒入、製材（特種合金製作）、スケールの矯正に就ても努力が拂はれた。然し當時の機械は未だ幼稚で、不完全なる設備の下に工程も不充分なるを免がれなかつたから、各部分とも重々しく、これ等を組立てた所謂和製自轉車は少しも輕快味を持たぬものであつた。從つて未だ舶來品萬能時代であつたと言はねばならない。自轉車の快適なるスピードを禮讃した唱歌が小學生間に流行したのは丁度この頃であるが、その歌に恥ぢない和製自轉車は未だ作られてゐなかつたのである。本邦貿易の擴張に依つて種々の機械が流れ込んだのは明治四十年前後からであるが、その頃から自轉車專用の機械も弗々輸入され始めた。自轉車製造業者に依つて機械の改良が考へられ出したのもこの頃である。

大正三年には歐洲大戰が勃發し、他の諸品と同樣自轉車及びその部分品の輸入は杜絶した。當時我國の自轉車は未だ輸入に俟つこと多く、この一時の輸入杜絶に依つて自轉車商は甚だ困惑した。だがそのため自轉車製造業者には絶好の刺戟となつて、その奮起を促すに非常な効果があつた。次いで同四年には從來歐米よりの供給に俟つてゐた南洋支那方面から本邦特に大阪に自轉車の註文が殺到した。昨日までの輸入は一變して輸出、而も大量輸出と化したのである。輸入杜絶に狼狽した商社はこの激變に製造業者と共に俄然活況を呈した。生産組織に於ても大量生産への大變化が要求され、大規模工場が次から次へと設立さるゝと共に、家内工業を除外すれば全く機械化さるゝに至つた。この生産擴張を以てしても需要の激增に應じ切れず、註文を消化せん爲めに種々の無理が爲された。その結果粗製濫造を生み間もなく「阪物」なる有難くない代名詞を冠せられた。然しこの好機に大阪の自轉車工業が略々確立されたことは疑ないところである。

それ以後は各部分品の製作完成への道程であつた。幾多の人々に依つて苦心慘憺たる研究努力が拂はれ、數萬の資産をこれに投じた人も決して尠くはあるまい。斯くして最後まで輸入を仰いだチエーンも大阪、東洋兩チエーン工場に依つて、又ボールも天辻製作所に依つて生産さるゝに至つた。

大戰終局は大阪の斯業に可成りの打擊を與へた。中止されてゐた歐米生産の恢復するに從ひ、その製品は東洋に流れ出して我が輸出を阻止したからである。輸出に依存すること多き大阪の自轉車工業は重大な危機に直面した譯である。茲で立直らなければとの業者の熱誠は、製品の向上、廉價販賣、規格統一等の運動となつて現はれ出した。然し

これ等の諸點に關し業者が覺醒し切らぬ内に關東大震災が起り、大阪製品は遠く東北地方までこれに依つて進出するに至つた。業者は一時救はれたが、それに依つて製品の向上、規格統一等の如き業界發展上必要なる運動は一時立消えとなつて了つた。だがこれ等の幾變遷を經る間に機械の改良、工程の整頓竝に短縮、鍍金、燒入、着色の研究等に於ける努力と犧牲は報ひられ、斯業は急速の進歩、發達を遂げた。主として商社に依る海外の研究も着々進められて行つた。輸出に於ては不當競爭なる痛恨事が幾度も繰返されたが、これに關する各商社の自覺も近來見るべきものあり統制機關の統制力も漸次強化されつゝある。今や大阪の自轉車は外國品に負けない商品を以て、外國に劣らない商取引を以て、而して"Made in Japan"の旗幟の下に諸外國品に對抗してゐるのである。

第三章　自轉車工業と大阪

第一節　生産上に於ける地位

我國に於ける自轉車の生産には大阪、東京、愛知及び兵庫の四大中心地があるが、就中我が大阪は工場數、職工數及び生産高の何れに於ても全國中首位を占めてゐる。即ち昭和五年の商工省工場統計によるに、工場數に於ては東京の百三十一、愛知の五十二、兵庫の二十九に對し大阪は百四十五で第一位にある。職工數では大阪は二千四百五十三名を算して首位を占め、東京の一千九百八十八、愛知の一千百九十四、兵庫の五百六十八これに次いでゐる。完成車の

生産高に於ては大阪は數量に於て全國の十三萬六千九百八十五臺中五萬二千三百九十四臺（三割八分）を算して首位を占め、東京の四萬七千九百九臺、愛知の二萬四千百五十三臺、兵庫の一萬二千五百二十九臺これに次ぐも、金額に於ては全國の二百七十九萬圓中五十四萬六千圓（一割九分）にして、東京の五十四萬四千圓、兵庫の五十萬三千圓には優るも、愛知の百十九萬六千圓には及ばない。これ大阪製品は格安品を主とするに反し愛知製品は高級車を主とする關係にして、單價より見れば大阪製品の一臺當り平均十圓餘に對し愛知製品は五十圓に近い。然し乍ら部分品の生産高にありては大阪は全國の一千二百二十萬六千圓中四百七十萬四千圓（三割八分）を占め、東京の二百九十萬六千圓、愛知の百四十六萬一千圓、兵庫の百七十七萬六千圓を遙かに凌駕してゐる。

▼重要府縣別自轉車生産表（昭和五年）

府縣別	工場數	職工數	生産高			
			完成車數量	完成車金額	部分品金額	
		名	臺	圓	圓	
全國總計	—	—	一三六、九八五	二、七九〇、三三一	一三、二〇六、三七四	
大阪	一四五	二、四五三	五二、三九四	五四六、三五四	四、七〇三、九七八	
東京	一三一	一、九八八	四七、九〇九	五四四、三九六	二、九〇五、八八四	
愛知	五二	一、一九四	二四、一五三	一、一九六、四七三	一、四六〇、七〇三	
兵庫	二九	五六八	一三、五二九	五〇三、一〇八	一、七七六、三一八	
石川	五	二八七	—	—	七一七、六六五	

福岡	四	一〇五	二四四、五〇三
岐阜	四	八二	三二、九五九
栃木	一	四一	七九、四二九
神奈川	三	三七	七八、九二三

但し本表は當時職工五人以上を使用する工場に就ての調査によるものなるを以て、實際の數字より僅少であるは元より、家内工業的な小規模製作所の多い大阪府の數字は他府縣以上に過少であることに注意を要する。

第二節　輸出上に於ける地位

我が大阪は我國の自轉車輸出上に於ても斷然首位を占めてゐる。昭和六年に於ける我國の自轉車及び同部分品輸出額は三百二十九萬六千九百二十三圓であるが、この内大阪港の輸出は二百三十一萬九千八百二十一圓にして全國の七割强を占めてゐる。この狀態は昭和六年に限られたことではなく、左表に示す如く大正十四年以降常に六割四分以上を占め、昭和三年の如きは七割七分に達してゐる。

▼大阪港自轉車及部分品輸出表

年次	全國	大阪港	割合
	圓	圓	%
大正十三年	七四五、二五〇	三八三、八四一	五一
十四年	二、二九五、七五三	一、四三五、八四三	六四
昭和元年	一、九五九、八六九	一、二六九、〇八九	六四
二年	一、八七九、二一三	一、二九三、一二六	六九
三年	二、五五七、四六〇	一、九八一、二〇六	七七
四年	三、四二九、六八四	二、六三四、三八一	七六
五年	二、九〇一、四八八	二、一一二、七二一	七二
六年	三、二九六、九二三	二、三一九、八二一	七〇

第四章　生産狀況

第一節　製造戸數及職工數

昭和五年度大阪府統計書によれば大阪府下に於て自轉車工業に從事する製造戸數は百五十、職工數は二千三百七十六人となつてゐる。而して製造戸數百五十中原動力を用ふるもの百四十に對し原動力を用ひざるもの僅か十である。職工數の内譯は十六歳未滿男百二人、女五人、十六歳以上男二千百七十五人、女九十四人、合計男二千二百七十七人女九十九人である。

然し右の數字は職工常時五人以上を使用する工場に就て調査したものであるが、大阪には家内工業的な小規模のもの多きを以て、實際數はこれより多數である。關係業者の云ふところによれば、現在の製造戸數は略々二百三十軒、職工數三千二百五十人内外と見て大差なきものゝ如くである。

第二節　製品の種類及生産額

大阪府は完成車、部分品共に生産するが、由來大阪製品は内地向よりも輸出向を主とするを以て、部分品の生産の方が完成車よりも遙かに多い。今昭和五年に就て見るに完成車の五十六萬五千五百五十八圓に對し、部分品は四百七十六萬一千百四十七圓を算し、全生産額の八割九分强を占めてゐる。而して部分品は各種類に亙つて生産され、苟も自轉車の組立上必要なる部分品、附屬品にして製作されないものはない。特にギヤ、クランク、フリーホイル、チエーン、リム、スポーク、ボール等は何れも品質優良で内地又は海外市場で好評を博してゐる。

大阪府の完成車生産額は大正元年には六千六百六十臺、十九萬三千六百八十圓で、翌二年には數量一萬二千六百六臺に增加したが、價格低落のため金額は十三萬八千六百九十一圓に減少した。その後大正三、四年は低調を辿り、同五、六年には財界の好況を享け增加したるも、同七、八年には再び減少して僅か三萬圓臺となつた。然し大正九年には忽ち恢復して二萬二百四十臺、二十一萬七千圓を示し、翌十年には更に六萬六千九百二十九臺、四十七萬三千七百二十圓に達し、大正元年に比較して數量十倍、金額的三倍となつた。

大正十年以前の統計には部分品の生産額を缺いてゐるが、大阪府が主として部分品の生産地として發達した點に鑑み甚だ遺憾である。

大正十一年には大戰後恢復せる歐洲産自轉車に壓迫されて激減し、完成車僅か二萬一千三百五十圓、部分品を合して四百七十五萬三千七百二十九圓となつたが、翌十二年には關東大震災による大阪製品の内地販路擴張の結果完成車部分品を合して六百三十四萬九千九百八十七圓を示した。爾來生産改善により製品の向上を計ると共に、内外販路開拓に對する努力が續けられて堅實なる發展を辿り、昭和元年の如きは完成車八十一萬五千八百七圓、部分品六百三十九萬九千六百二十八圓、計七百二十一萬五千四百三十五圓に達し生産額の新記錄を作つた。今大正元年以降の大阪府自轉車生産高を示せば左表の如くである。

▼大阪府自轉車及同部分品生産額

年次	完成車 數量	完成車 金額	部分品	合計
	輛	圓	圓	圓
大正元年	六、六六〇	一九三、六八〇		
二年	一二、六〇六	一三八、六九一		
三年	七、三一二	七五、六〇二		
四年	五、〇三六	七五、九〇〇		
五年	七、四九〇	一一七、二五〇		

大正六年	六、一一七	一七一、七五〇	—	—	—	—
七年	一、〇二四	三一、二〇〇	—	—	—	—
八年	四七〇	三三、二七〇	—	—	—	—
九年	二〇、二四〇	二一七、〇〇〇	—	—	—	—
十年	六六、九二九	四七三、七二〇	—	—	—	—
十一年	七九五	二一、三五〇	四、七三二、三七九	四、七五三、七二九	—	—
十二年	一、〇六一	四二、九二〇	六、三〇七、〇六七	六、三四九、九八七	—	—
十三年	一九、七六〇	四三八、六〇九	五、一九九、〇二四	五、六三七、六三三	—	—
十四年	二七、九〇二	七四三、一五〇	六、二一六、六〇二	六、九五九、七五二	—	—
昭和元年	三三、九〇二	八一五、八〇七	六、三九九、六二八	七、二一五、四三五	—	—
二年	三二、一一四	七七八、六六八	五、六二四、二七六	六、四〇二、九四四	—	—
三年	三八、〇七九	六八九、二二四	六、四〇七、六九九	七、〇九六、九二三	—	—
四年	四一、六九三	六三七、一二六	五、六〇二、八八七	六、二四〇、〇一三	—	—
五年	三二、三二九	五六五、五五八	四、七六一、一四七	五、三二六、七〇五	—	—

更に府下の行政區別生産額を見るに、昭和五年に於ては大阪市は二百四十九萬二千九十圓で府下總生産額の四割六分强を占め、堺市は百九十六萬四千七百圓で三割六分、これに次いでは泉北郡の四十一萬四千八百三十六圓、泉南郡の二十八萬九千六百四十六圓、南河内郡の十二萬三千四百圓の順位である。而して完成車を生産するは主に大阪市で

郡部では南河内郡に僅少の生産を見るに過ぎず、堺市及び郡部の生産は殆んど全部迄部分品である。

▼大阪府行政區別自轉車及部分品生産額　（單位圓）

行政區別	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年
大阪市	二、四九二、〇九〇	三、五七八、九一一	三、七四九、二二六	三、七六〇、一九九	四、三五八、六三九
堺市	一、九六四、七〇〇	二、一九一、七七九	二、七六七、七八六	二、四五八、五八五	二、五二一、九三三
三島郡	—	九〇〇	一、〇〇〇	—	—
泉北郡	四一四、八三六	—	二五二、〇〇〇	—	—
泉南郡	二八九、六四六	二七〇、七二	二一、五二一	二六、四〇〇	二〇三、二三九
中河内郡	三七、二七〇	七三、九〇〇	一一五、四〇〇	一五七、七六〇	一九、三九〇
南河内郡	一三三、四〇〇	一三三、八〇〇	—	—	一三、二三五
北河内郡	四、七六三	—	—	—	—

第三節　勞働事情

雇傭狀態　職工の傭入は公私立職業紹介所、廣告募集によることは極めて稀であつて、殆んど全部緣故募集と稱して差支ない。曾て好況時代には各工場主に於て熟練工を吸收せんため競ふて種々有利な條件を提供し合つた結果、職工も利に走りて移動甚しく、從つて工場主間に軋轢が頻々として起つた。大阪自轉車商組合製造部、堺市自轉車製造

組合ではこの弊害防止のために、新規傭入に際してはその氏名を前從業工場に通知するを要することゝし、又被傭者取締に關し、嚴格な申合せがなされたが何等の効果なく、職工の爭奪は依然として行はれたさうである。然し現在の如き不況時にては熟練工と雖も就職難に苦しむ者多く、何らの緣故紹介なき就職希望者は多々あるが、その採用されるものは殆んどない。只工賃の關係から近來工場に依つては朝鮮人を採用し始めたものがある。採用方法は戸籍謄本、身元證明書等を提出するを要し、給金は熟練工は前工場に於ける給金竝にその工場の新雇傭内規とも稱すべきものに依つて、見習工は内規にその時の相場を參照して決定される。

年齢は熟練工は四十歳、見習工で二十二、三歳を最高限度としてゐる。熟練工にして四十歳位になれば獨立して小規模經營をなすもの多く、見習工も二十二、三歳にして熟練工の域に達するからである。女工は斯業が機械作業多き關係から比較的に少いが、その年齢は婚期の關係から二十四、五歳を限度としてゐる。然し結婚後も從業してゐる者もある。

尙家内工業者は尋常或は高等小學卒業生を採用し、これを徒弟として三年乃至五年の契約をなし、住込制の下にその生活を保證（時には通勤徒弟なるものあり）すると共に、小使と稱して一ヶ月五圓内外を給與して業務を練習せしめてゐるものがある。自轉車工業勃興時代多くの工場はこの徒弟制度であつたもので、現在の家内工業の徒弟はその遺風であるが、將來斯業が資本化、工場化するに從ひこの制度は跡を斷つに至るであらう。

就業狀態　勞働時間は勿論工場に依つて異るが、十時間制が最も多く十二時間制もある。始業時は午前七時、終業

時は午後五時（六時、七時とするものあり）が普通である。休憩時間は一時間が多く、晝食時一回のものと、晝食時は三十分にして午前、午後に各十五分宛のものとの二種がある。何れにしても賃銀の項にて後述する請負給工場にては嚴格に行はれてゐないが、註文品の殺到した場合工場主は幾時間でも殘業を課し、職工側も賃銀增收の關係から之を拒絶する如きは全くなく、寧ろ歡迎する有樣である。休業日は多くは月二回で、第一、第三の日曜か一日、十五日かであるが、職工側は給料日の翌日である一日、十五日の方を喜ぶ。大祭日は公休日と定めてゐる工場もあるが、公休日とせず其の時の仕事の繁閑に依つて決定するものが多い。

移動及勤續　自轉車工業に於ける職工の移動は主に勞働條件の良否、監督の緩嚴等に依るもので、その工場の衛生設備、勞働時間の長短等には餘り左右されない。前に述べた如く、好況時には頻繁な移動のため、種々の弊害が起つたが、現在では特別の事情に依るの外移動は行はれない樣である。移動の行はれるのは採用後間もなきものに多く勤續年數は男工六、七年、女工は二、三年が比較的に多い。堺市の製造組合では五年以上の勤續者には毎年表彰して來たが、勤續十年以上のものも尠くなく、十五年以上に及び模範從業員として表彰されたものもある。

賃銀　賃銀の支給法には時間給と請負給との二種あり。前者は一般にその製作が多數職工の手を經るを要し、各自の製作數を判定し難いものに採用せらるゝ制度で、普通日給制度と稱せられてゐる。即ち一定時間（多くは十時間）を一日として、その就業時間を働き終へた時初めて日給全額を受くる資格を有するものである。故に規定始業時に遲刻し、又は規定終業時迄働かなければ、特別な事情に原因するものでない限り、その時間に相當する比例額を日給額

より控除せられるもので、名稱は日給であるが、嚴格な用語を以てすれば時間給と稱せねばならない。時には五分以内の遲刻も記錄されるまでに嚴格な所もある。後者即ち請負給は各職工の製作數が判然と分る部分品の製作工場（例へばラックの型込の如き）に採用せらるゝこと多き制度で、單價契約をなすものである。この制度に依る時は努力と技術の熟練を以てすれば、一般に日給制度より多額の賃銀を支給せられ、職工側では給與條件の良くない不況時代にはこの請負給制度を歡迎してゐる。然し請負給制度を採用する工場でも職工に準ずべき小使（普通追廻と稱す）は全部が日給で、普通五十錢内外を支給されてゐる。賃銀は工場、作業の種類に依り種々雜多であるから一律に云ひ難いが、日給で朝鮮人は八十錢内外多く、内地人で一圓二、三十錢から二圓二、三十錢位である。尙賃銀外の給與としては出勤奬勵のために、皆勤賞として出勤日數皆勤者に公休日の日給まで即ち丸一ヶ月分支給し、又勤續奬勵の意味で勤續賞を給與してゐる工場が多い。

第五章　原　料

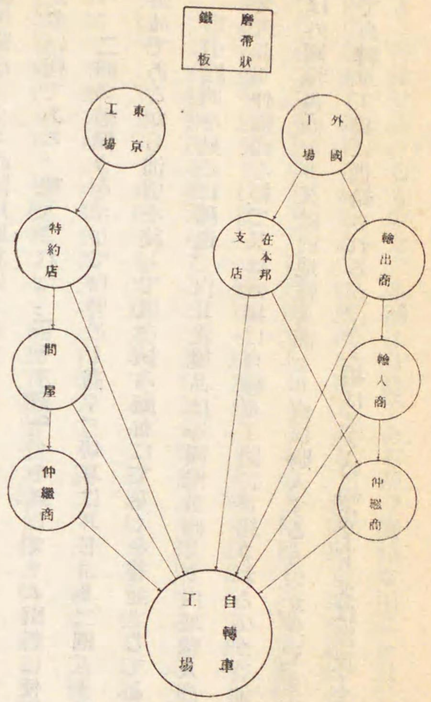
自轉車工業に使用される主なる原料は磨帶狀鐵板（通稱リボン地）、鋼線、軟鋼材、磨丸鐵、角、丸、平、其他各種鐵板、引拔管、皮革、生護謨、セルロイド生地、其他であるが、その内最も重要なるは鐵類と生護謨であつて、數量金額共に總原料の大部分を占めてゐる。

磨帶狀鐵板　磨帶狀鐵板は大部分外國製（殆んど全部獨逸製）で、大阪の自轉車工業に於ける消費量の九割以上を占

める。内地製としては曾て八幡製鐵所がその製造に從事したが、充分なる長さのものを製出するを得ず短尺ものゝみに止つて失敗し、現在では東京鋼材株式會社が從事してゐるが、未だ試作の域を出でず、從つて品質上遙に外國品に劣り、斯業に使用さるゝ數量も極く僅少に過ぎない。

磨帶狀鐵板は "Cold rolled" と "Hot rolled" に大別され、前者は更に白磨（Bright annealed）、青磨（Blue dark annealed）、黑磨（Black annealed）に分たれるが、各種共切耳、耳付の二種がある。普通丸鐵棒と同樣爐より押出したるものを所要のゲージ及び寸法に合せたローラーにかけて扁平形とするもので、ローラーをかける回數は各種類により異る。リム泥除用原料は大部分 "Cold rolled" で、リムには白磨をよく用ひ、泥除には薄手の黑磨を用ふることが多い樣である。輸入された "Hot rolled" を鈍（ナマ）してリム原料に使用するものも可成りある。白磨、青磨及び黑磨は各一、二圓の値開きを示して白磨最も高く、切耳は耳付より二圓五十錢程度の高値を示す。包裝は "Cold rolled" は精製品であるから油引を施して紙を挾み麻布にて卷くを普通としてゐるが、"Hot rolled" は裸荷が多い。

取引經路を見るに獨逸、白耳義製品は外國輸出商より内地輸入商、仲繼商を經て自轉車工場に至るか、本邦所在の支店より仲繼商を經て又は直接に自轉車工場に供給されるのが普通であるが、規模大きく資本豐かなる工場にありては外國輸出商より又は内地輸入商より直接購入するものが多い。東京鋼材株式會社製品は特約店より問屋、仲繼商を經て自轉車工場に供給されるが、大工場は多く特約店より又は問屋より仕入れてゐる。これを圖示すれば左の如くである



業に於ける消費量の七、八割に達すると云はれてゐる。内地製品としては八幡製鐵所、淺野製鐵所、神戸製鋼所等の製品あるも、これ等は品質に於て今尚外國品に一歩を譲るから、高級自轉車の材料としては專ら外國品である。内地製品の使用されるのは全體の二、三割に過ぎない。

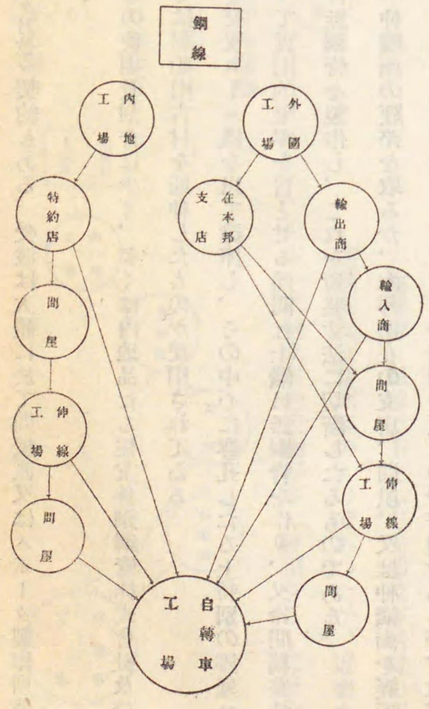
鋼線の原料は鋼塊を壓延ロールにより所要の太さにしたワイヤ・ロッドであるが、ワイヤ・ロッドは高熱作業の結果表面にセメンタイト多く且つ内部組織は粗雜なるを以て、これを鋼線材として最適なる組織に變ぜねばならぬ。これがためには特種構造の燒入爐を以て熱處理を施した後化學的洗滌をなし、乾燥爐にて充分乾燥せしめ、一回又は

賣買約定は主として先物取引（二、三ヶ月）であるが、堺方面は現物取引が多い。約定品の受渡は賣買當事者間の關係及び取引數量の多寡によつて夫々異るが、買主の庭渡が最も多い。代金は月末現金を以て決濟するのが普通である。

鋼線　外國品では米國品（ユー・エス會社製）致須國品、獨逸品（クルップ會社製）及び瑞典品であるが、特に米國品多く、大阪自轉車工

數回仲線機に掛けて所要の太さ及び適當の品質に製作するのである。この仲線作業は自轉車部分品の製作に重大なる關係を有する作業であるから、本來から言へば部分品の製作所即ちスポーク工場自らなすべきものである。歐米諸國の自轉車製作所の多くは斯くの如き各種の設備を有して原料ワイヤ・ロッドより自己の製品に最も適應する鋼線材を作つてゐるが、大阪に於ては小規模の工場多く、從つて斯くの如き設備を有するは星スポーク製作所、其他一、二工場に過ぎず、他は凡て仲線工場にこの操作を委ねてゐる。尚特約店より直接購入してゐる自轉車工場は、自己の製品に適應するが如き仲線を特約店に依頼するから、近來八幡、淺野兩製鐵所では仲線にも從事してゐる。

外國品は輸出商、輸入商、問屋、仲線工場、問屋を經て自轉車工場に供給されるのが最も普通の經路であるが、本邦に支店のある時は、該支店より問屋又は仲線工場に供給されることがあり、又大工場にてはリボン地同樣輸出商又は輸入商より直接購入してゐる向が多い。八幡、淺野兩製鐵所の製品は特約店（森谷商會）より問屋、仲線工場、問屋を經て自轉車工場に供給されてゐるが、大工場は仲線工場より又は特約店より直接仕入れてゐる。



賣買約定は主として現物取引なるも、先物（一ヶ月位）契約もある。受渡は大體に於て問屋渡又はスポーク製作所渡で、代金決濟は現金又は受渡月の月末勘定が多い。

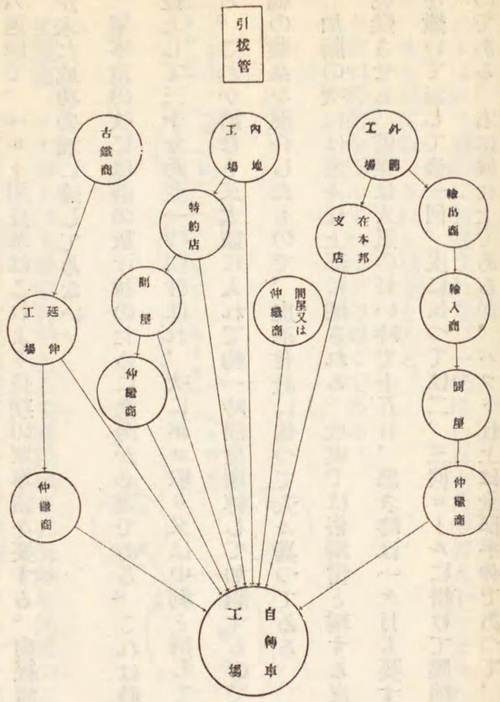
引拔管　外國品には獨逸及び米國品あるも、その使用量割合に少く、多くは內地品たる住友伸銅鋼管株式會社及び日本鋼材株式會社製品使用され、下級車用としては船舶用古材を延伸したものが使用されてゐる。

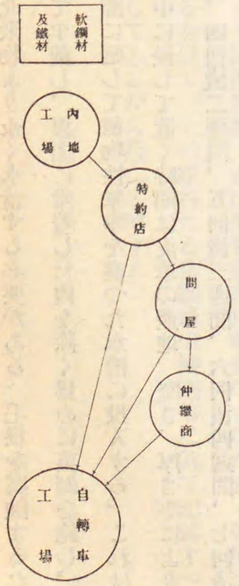
引拔管の製法は鹽基性平爐にて製したる鋼塊を交叉ロール機を以て捻搾し、その中心に穿孔したる上特別の壓延ロール機にて延伸し、これを更に熱間精整法によりて實用的堅牢を旨とせる熱間仕上繼目無鋼管を作り、又冷間精整法により寸法正確、內外面共平滑なる冷間引拔繼目無鋼管を製作し、これを所要寸法に切斷したるものである。

外國品は外國工場から輸出商、輸入商、問屋、仲繼商の經路を取るか、本邦所在の支店、問屋、又は仲繼商を經て或は支店より直接自轉車工場に供給されてゐる。內地製品は特約店より問屋、仲繼商を經るのが普通であるが、大工場は問屋、特約店又は更に溯つて引拔管工場より直接購入する。最近引拔管工場より直接購入するものが多くなつた。古材は古鐵商より延伸工場、仲繼商を經て自轉車工場に供給されてゐる。

賣買は主として現物取引で、時に當月渡の契約がある。自轉車工場の庭渡多く、代金又は月末に決濟されるのが普通である。

軟鐵材及鐵材　殆んど內地產で、八幡製鐵所、大阪鐵板製造株式會社德山工場、神戸製鋼株式會社、東京鋼材株式會社、日本鋼材株式會社等の製品が最も多く使用されてゐる。近來內地に於ける軟鋼材の製造は著しく進步して獨逸





米國等の製品に比し少しも遜色なしと言はれてゐる。その製法は平爐又は坩堝爐にて鋼塊を作り、これを壓延ロール機により角又は丸棒とするのである。取引經路は右諸會社のトラストによる特約店より問屋、仲繼商を經て自轉車工場に供給されるが、問屋又は特約店より直接購入する工場も可成り多い。

生牛皮　以前は主として支那及び朝鮮の所謂漢皮又は濠洲製のものであつたが、近來サドルに適當な北米物が多く使用さるゝに至つた。これ等諸外國の生產工場より鹽漬にしたものが外國輸出商、內地輸入商を經て我が東洋皮革株式會社、山陽皮革株式會社、明治製革株式會社、新田帶革製造所等に供給され、此處で加工製革されるのである。

今その加工法を概說すれば、初めに鹽分を除去する爲め